

「多様な社会」を考える 学びのプログラム集

2020年度 JICA中国 開発教育教員研修アドバンスコース



独立行政法人国際協力機構
中国センター (JICA中国)

はじめに

全世界196ヶ国のうち開発途上国と呼ばれる国は140カ国以上もあります。それらの国の現状や課題、あるいは歴史的背景や先進国との関係などを知らずして、世界の今は語れません。多様な民族、言語、文化、暮らし、考え方、宗教などがあることに興味を持つ好奇心と、その多様性や違いを尊重する謙虚な姿勢がないと、グローバル人材は育成できません。

独立行政法人国際協力機構（JICA：ジャイカ）は、開発途上国における事業で培った経験と人材を活用し、日本国内の国際教育の発展に寄与するための活動として「開発教育支援事業」に長年にわたり積極的に取り組んできました。開発途上国の抱える問題に関心を持ち、全国の小・中・高等学校・特別支援学校において国際教育に取り組んでおられる、または今後それらに取り組むことを考えておられる教員の方を対象に実施してきた「教師海外研修」もその事業のひとつです。

しかし、コロナ禍により海外での活動縮小を迫られた2020年度は、海外研修を実施することができませんでした。そこで、中国地方から過去に「教師海外研修」に参加され、現在に至るまで継続的な授業実践を展開されている教員の方を対象に、「開発教育教員研修アドバンスコース」を実施いたしました。本コースに参加された6名の教員の皆さんは、中国地方において日本の課題や地域の国際化を学ぶことのできる現場を訪問し、多文化共生に取り組む方々の想いや活動への理解を深められました。その成果として、同研修に参加された教員の方が「熱いハート」と「クールな頭脳」を駆使し、フィールドワークや講義から吸収した多くの情報をもとに、一般の教職員の方にも教室ですすぐにご活用頂けるよう作成されたのが、この「学びのプログラム」です。

本冊子が、「持続可能な社会の創り手」である児童生徒の育成に尽力されている教職員の皆さまの参考となり、学校教育現場での実践の一助になれば幸いです。

独立行政法人 国際協力機構 中国センター所長

岡 田 務

目次

contents

はじめに	1
本教材について(CDの使い方)	3
「開発教育教員研修アドバンスコース」概要	4
フィールドワーク 訪問先トピックス	6

学びのプログラム

• 1. 「違う」って何?	10
• コラム① 島根県出雲市の現場から	25
• 2. クラスの中の外国人	27
• 3. 多文化共生とは、何か?	35
• コラム② 多文化共生社会における子どもたち	47
• 4. 「日本におけるイスラーム(文化)」	50
• 5. 「ハンセン病問題」から学ぶ	63
• 6. 異文化は私たちのすぐそばに	85
• コラム③ 見えない声に耳を傾ける	107
• 7. シミュレーション教材	109
最後に	136

※本冊子に記載されている意見は、本コース参加者および執筆者によるものであり、JICAを代表するものではありません。

本教材について（CDの使い方）

本冊子は、はじめて開発教育・参加型の学習を実践しようとしている方や、多文化共生、多様な社会の構築について考えたいという方が、すぐに活用できるように作成しました。

実践に必要なワークシート、実践者用の解説・補足資料など、そのまま使用できる形で掲載しています。紙面からコピーして頂くか、付属CDからダウンロードしてお使いください。

また、紙面に「見本」として掲載している一部カード素材やパワーポイント資料も、オリジナルデータをCDに保存しております。実践する場面や対象、実施時間によって、より使いやすいように加工して頂くことも可能です。

☆CDには以下のようにデータが保存されています

▼	01_ 違う」って何？
	P12_ 資料1 「足して100」.pdf
	P13_ ワークシート1.pdf
	P18_ ワークシート2.pdf
	P19_ 資料2 「リフレーミング辞典」.pdf
	P20_ ワークシート3・4.pdf
	P21_ ワークシート5.pdf
	P22_ ワークシート6.pdf
	P23_ 資料3・4.pdf
	人物カード（中下）.docx
▶	02_ クラスの中の外国人
▶	03_ 多文化共生とは、何か？
▶	04_ 「日本におけるイスラーム（文化）」
▶	05_ 「ハンセン病問題」から学ぶ
▶	06_ 異文化は私たちのすぐそばに
▶	07_ シミュレーション教材「ニッコリ駅周辺再開発計画」

「開発教育教員研修アドバンスコース」概要

JICAの国際教育プログラム(開発教育支援事業)

グローバル化が進む現在、地球に暮らす私たちが自ら足元を見つめ直し、日本を含めた国際社会が抱える課題に取り組むことが急務となっています。そのため、国際教育や開発教育、持続可能な開発のための教育(ESD)といった取組みを多くの教育機関が実践し、その関心と需要はますます高まっています。

また、本格的に導入された新学習指導要領では「持続可能な社会の創り手の育成」の重要性が掲げられ、高等学校で必須科目となった「地理総合」では国際理解と国際協力が3本柱の一つに位置付けられました。教育現場の状況も大きく変化する中、多様な価値観・生活習慣をもつ人々と国内外で共存できるよう、児童生徒が互いの文化を理解し、尊重し合い、違いを認められるなど、新たな社会で生きていくために必要な資質・能力を育むことが求められています。

国際協力活動は主に開発途上国の現場で行われていますが、JICAでは途上国と日本の地域との懸け橋となるべく、国内でも様々な事業を行っています。中でも、長年にわたる国際協力の知見を活用して、小・中・高校や大学、教育委員会や自治体、市民団体などと連携して展開しているのが国際教育プログラム(開発教育支援事業)です。

JICA中国では、国際協力出前講座、JICA中国施設訪問、開発教育指導者研修といったプログラムを通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりを支援しています。

「開発教育教員研修アドバンスコース」とは

JICAでは、国際教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場を視察することで、途上国の現状や日本との関係性、国際協力への理解を深め、その成果を、学校での授業等を通じて、地球の未来を担う児童生徒への教育に役立ててもらうことを目的として「教師海外研修」を実施してきました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大にともない、海外渡航が困難となった2020年は、過去に中国地方で「教師海外研修」に参加され、現在まで積極的な授業実践を継続されている先生方を対象に「開発教育教員研修アドバンスコース」(以下、同コース)を実施しました。

地域が急速に国際化する今、異文化に触れ、多様性を考える場面は海外だけではなくありません。一方、開発途上国で日本との共通点を発見し、共感することで、日本や地域のことを、新たな視点で振り返るきっかけになることもあります。同コースに参加された先生方はそれぞれ、過去にガーナ、インドネシア、スリランカ、ラオスを訪問され、現地での知見を活かした授業実践に取り組まれました。今年度は、過去の海外研修参加時に学ばれた参加型学習プログラム作成の基礎やポイントを活用し、国内のフィールドワークで学んだ知識、情報を分かりやすく整理して、同コースに参加していない教員の方にも広く実践して頂けるよう、学びのプログラムを作成されました。

参加教員の自己研鑽にとどめることなく、自身が得た知識や情報、そして想いを地域の「共有財産」として広く教育現場に伝えていただくこと、それが同コースのねらいです。



「開発教育教員研修アドバンスコース」のながれ

2020年 7月～8月

募集・選考

- 募集（7月～8月12日）
- 書類選考（8月中旬）
- 書類選考結果通知（8月下旬）

2020年 9月5日(土)

オンラインセミナー受講

「SDGs×多文化共生-中国地方から考える『住み続けられるまちづくり』」

- 「持続可能な社会を読み解く多様なレンズ-国際的視点とグローバルな視点を獲得する-」
講師/佐藤 真久 教授（東京都市大学）
- 「中国5県の多文化共生の現状と課題」
講師/明木 一悦 氏（広島県安芸高田市国際交流協会代表理事・事務局長）
- 「『SDGs未来都市』が取り組む多文化共生-広島県東広島市-」
講師/東広島市役所
- 「山間部における多文化共生-島根県雲南市の「チャレンジ」-」
講師/芝 由紀子 氏（一般社団法人 ダイバーシティうんなんtoiro代表理事）

2020年 9月26日(土)

第1回フィールドワーク 広島県・岡山県

歴史から偏見、差別を学び、寛容な共生社会とはなにかを考える

- 「ホロコースト記念館」（広島県福山市）を訪問。盈進中学高等学校の「ヒューマンライツ部」生徒による説明を受けて館内見学。
- 「長島愛生園歴史館」（岡山県瀬戸内市）を訪問、学芸員による説明、案内で関連施設を見学。

2020年 10月10日(土)

第2回フィールドワーク 島根県出雲市訪問

- 「塩冶地区放課後子ども教室」のイベントに参加、子どもとの交流。事業概要や現状などを聞く。
- 出雲市教育委員会主宰「日本語初級集中指導教室」を見学、事業概要を聞く。
- 「MANABIYA」主宰の河原由実氏と面会、活動内容を聞き、意見交換。

2020年 11月21日(土)～22日(日)

第3回フィールドワーク 広島県東広島市訪問

- 日本語教室「にほんごわいわい八本松」を見学、参加者との交流。事業概要や課題などを聞く。
- 「広島イスラム文化センター」を訪問。イスラム教に関する講義を聞き、施設見学。
- フィールドワーク全体のふり返り
- 教材を作成するためのワークショップ、協議。

2020年 12月～2021年 3月

「学びのプログラム」作成のための協議、討論(オンライン)

2021年 3月

「学びのプログラム」提出

主催：独立行政法人国際協力機構 中国センター（JICA 中国）

後援：広島県教育委員会、岡山県教育委員会、山口県教育委員会、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会、広島市教育委員会、岡山市教育委員会

フィールドワーク トピックス

第1回フィールドワーク 広島県・岡山県

「ホロコースト記念館」(広島県福山市)

館長である大塚信さんがアンネ・フランクさんの父親であるオットー・フランク氏に出会ったことを機に、ホロコーストに関する多くの史料を世界中から譲り受け、1995年に記念館を開館。これまで18万人以上が来館しています。

当日は広島県福山市にある盈進中学高等学校の「ヒューマンライツ部」の生徒が館内を案内してくれました。ホロコーストについて学んだだけでなく、今を生きる中高生が戦争と平和、人権についてどうとらえ、どんな想いで伝えているのかも知ることができました。



「長島愛生園歴史館」(岡山県瀬戸内市)

ハンセン病患者を隔離する施設として誕生した長島愛生園。現在は、ハンセン病回復者が生活する場として、またハンセン病の歴史や患者が受けてきた差別について学べる場として大きな役割を果た



しています。「子どものころから海外に興味があった私は、開発途上国の

課題は勉強してきた。けれど、こんなに近くで起きていた悲しい歴史を今まで知らなかったことが恥ずかしい」。これまで学んできたこと、そしてこれからの自身の行動について、参加教員は真剣に考えていました。



第2回フィールドワーク 島根県出雲市

「塩冶地区放課後子ども教室」のイベントに参加

外国人労働者の多い島根県出雲市は、外国につながる子どものサポートも先駆的で、産官学が連携して事業を展開しています。市内でも特に外国につながる児童の多い出雲市塩冶地区を訪問、「塩冶地区放課後子ども教室運営委員会」が主宰する月1回のイベントに参加しました。イベント終了後には運営スタッフの方から、地域の小学校で週に複数回実施している「放課後子ども教室」についての概要や活動内容、課題などを伺いました。



出雲市教育委員会主宰の「日本語初期集中教室」を訪問

出雲市に転入した外国につながる子どもは、在籍校に通学するまでの約1か月、日本の文化・習慣や日常に必要な最低限の日本語を学ぶため「日本語初期集中教室」で学びます。実際に子どもたちが通う教室で、教育委員会の方から制度やプログラムなどをお聞きしました。



「MANABIYA」の取組みを聞く

外国にルーツを持つ青少年をサポートする「MANABIYA」。支援の対象外になりがちな10代後半の子どもに寄り添い、地域社会と接点を持つイベントの実施や同世代同士のつながりを作る働きかけをしています。主宰者の河原由実さんからお話を伺い、参加教員からは「学校ができることは実は小さいのではないかと謙虚にふり返ることができた」「教室外でも子どもが地域で輝き、居場所が探せるように教員も意識する必要がある」といった感想が上がりました。



第3回フィールドワーク 広島県東広島市

日本語教室「にほんごわいわい八本松」を見学

東広島市は多文化共生に先駆的に取り組み、「学生や外国人が定着し、活躍するまち」を目標にかけ、2020年度「SDGs未来都市」に選定されました。東広島市が行うこの教室には、小中学生、高校進学を目指す10代男性から社会人まで、またルーツを持つ国も中国、ブラジル、ベトナムと幅広い方が参加されていました。

日本語教室終了後、運営に携わっている奥村玲子さんから東広島市の多文化共生についてお聞きしました。



「広島イスラーム文化センター」を訪問

イスラム教徒だけでなく、誰でも立ち寄ることのできる地域に根差した同センターは、男女別の礼拝部屋や資料室、居室などから成っています。館内を見学したあと、設立者であるシリア出身のアブドゥーラ・バセムさんからイスラム教や広島に暮らすイスラム教徒の生活について教えて頂きました。



学びのプログラム



「違う」って何？

はじめに

『「知らない」、「考えない」、「関心を持たない」ということはとても怖いことである。』私が、アドバンスコースに参加し、感じた一番大きな感想である。しかし、裏を返せば、「知っている」、「考えたことがある」、「関心を持っている」ということが、人生を豊かにし、可能性を広げられるということを学んだ。この学びのプログラムは、「多文化共生」や「多様性」、またもっと身近な「自分とは違う人」について考えるきっかけになればという思いで作成した。最初の一步はとても勇気がいるし、怖いものである。そんな最初の一步の手助けになればいいと思う。

全体のねらい

「違う」をキーワードに、自己の価値観を見つめ直し、これからの行動に生かす考えを持つ。

学習計画（全4～5時間）

- (1) グループに分かれてみよう！
- (2) 「違う」って何？

教科・領域との関係

特別の教科道徳、学級活動、総合的な学習の時間

アクティビティ1 「グループに分かれてみよう！！」

●概要

自分自身がグループに分かれる体験をする。ゲームの性質上、簡単にグループ分けできないことから、一度形成したグループを崩したり、何度か試行錯誤しながら行う必要がある。一人ひとりがグループを作るために発言すること、そしてグループのメンバーがその発言をしっかりと聴くことが重要である。

●ねらい

グループ分けを通して、自己の価値観に気付き、排他性について考えることができる。また、他者との交流を通して、自己の価値観を再定義することができる。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

数字の書かれたカード、ワークシート①（P12～13）

●所要時間

50分（小学生の場合45分）

●おすすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 足して 100 ゲーム 「足して 100 になるグループを作ってください。」 一人につき 1 枚ずつカードを配布する。カードに 書いてある数字を足して 100 になるようにグ ループを形成する。</p>	<p>資料 1 「足して 100」 カードの組み合わせ上、何度かグループを再編しな ければ完成しない。対象者にはグループの再編成 の困難を味合わせる。</p>
<p>2. ふり返り ワークシート①を全員に配布し、その問いを各自 で考え、記入する。</p>	<p>1 時間の学習をふり返る。</p>

資料1 「足して100」

(拡大コピーし、切り離して使用してください)

※学習者が3で割り切れない場合は、助言者として役割をあてるなど工夫する。

1	2	3	4	5
80	50	90	60	40
10	25	5	20	30
10	25	5	20	30

6	7	8	9	10
70	60	55	80	75
15	30	5	5	20
15	10	40	15	5

ワークシート①

()年 ()組 氏名()

振り返ってみよう！

足して100ゲーム

Q：あなたはゲームの中で発言しましたか？ (はい ・ いいえ)

理由

Q：あなたはゲームの中で始めから同じグループでしたか？

(様々な人とグループを入れ替わりましたか?) (はい ・ いいえ)

その時の気持ちを教えてください。

グループ分けをしよう！

Q：あなたはどんな基準でグループ分けを行いましたか？理由も教えてください。

感想

アクティビティ2「違いって何?」

●概要

違いについて深く考える時間とする。

自分自身の「アイデンティティ（存在証明）」に気づき、自己の存在と向き合う。また、その「アイデンティティ（存在証明）」を他者と比較することで、自己と他者の違いに気づかせる。様々な議論を通して、「国籍」や「性別」など身近にある名札の存在に気づく。また、日常生活の中で「アイデンティティ（存在証明）」について意識していることなどを通して、自らの排他性を問い直す。

「わたしが外人だったころ」を用いて、さらに広い視野で考える時間をとる。

●ねらい

「違い」をキーワードに、自己の価値観を見つけ直すことができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

ワークシート②～⑥、資料2～4（P18～23）、人物カード（CD）

●所要時間

50分×3～4時間（小学生であれば45分×3～4時間）

●用語の解説

アイデンティティ＝存在証明。自己を表す肩書きのようなものである。

例…私→中学校教諭、女、日本人、広島県民、娘、妹、1-1の担任…等

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
「あなたを表す言葉を見つけよう。」 1. ワークシート②を全員に配布する。下記の問いについて考える。 ①自分を表す言葉を決める。 ②班の人を表す言葉を決める。 ③班の人の意見をきく。	*言葉が見つからない生徒へは、言葉の書かれたプリントを渡す。 *言葉はいくつあっても良いこととする。 *自分の認識と、他者からの認識の違いに気付くきっかけとする。 *作成基準は自由であり、自分が思うものを記入する。

2. 交流の後にもう一度自分を表す言葉について考え、ワークシート②の④に記入する。

3. 1、2の活動をもとに、自分の名札をできるだけたくさん考える。

例：「女」「中学生」「日本人」「広島県民」「〇〇部の部員」「誠実」「明るい」「正直」など

その名札をワークシート②の「自分の存在証明を作ろう！」に「ポジティブ」と「ネガティブ」に分けて記入する。

4. 小グループ内でワークシートを回し、ポジティブ変換を行っていく。

資料2の「リフレーミング辞典」を配布しても良い。

*色々なアイデンティティがあることに気づく。

目安として、ここまでを1時間とすることが望ましい。

ここから2展開に分かれる。実態に合わせて選択する。どちらの展開を行ってもよい。

パターン1

5. このアイデンティティ（存在証明）の「おかげで」エピソード・このアイデンティティ（存在証明）の「せいで」エピソードを考える。

「このアイデンティティ（存在証明）のおかげで〇〇したエピソードはありますか。」や「このアイデンティティ（存在証明）のせいで〇〇と思ったエピソードはありますか。」と問いかけ、生徒のエピソードをあげてもらう。

例)

- ・「中学生」のおかげで学割が使えた。
- ・「明るい」のおかげで友達がたくさんいる。
- ・「女」のせいでバカにされたことがある。
- ・「広島県民」のせいで方言が抜けない。

その時、「無理に話をしなくてもいいです。話せる範囲でこたえてください。」と説明する。

6. ワークシート③を全員に配布する。「アイデンティティ（存在証明）」は必要？不必要？」を考え、ワークシート③に記入する。
自分の意見を発表する。

7. みんなの意見を聞いたのち、ワークシート③の「みんなの意見を聞いて…」に記入する。

パターン2

5.各班ごとに人物カードを配布する。班で話し合い、人物のグループ分けを行う。（グループの数は問わない。）

6.班ごとに発表する。
なぜそのグループにしたのか、理由や根拠を具体的に発表する。

7.ワークシート④を全員に配布する。ワークシート④の問いを考え、記入する。

8.「違う」ってなんだろう？
ワークシート⑤を全員に配布し、問いを考え記入する。

自分自身の価値と他者の価値についての違いを理解する。

人生において、名札は必要な時も、不必要な時も両方あると考える。

必要な時（例）

- ・自己紹介するとき
- ・自分を個として認識してもらおうとき
- ・価値を位置づける時
- ・グループ分けが必要な時

不必要な時（例）

- ・差別の対象となるとき
- ・グループ分けをしなくてもよいとき

*人物カードの中身は説明せず、班に配布する。
班の中で思考する時間を十分に確保する。

どちらの学習においても、「違う」がキーワードとなる。

パターン1：違うから存在証明は必要になる時がある。

パターン2：○○が違うからグループを分けた。

教師の中で、「違う」をキーワード化した上で、8に進む

「違うこと」について具体例を挙げる。
「違う人」について具体例を挙げる。

【予想される生徒のコメント】

「違う」

別・異なるもの・一緒ではない・同じではない

「違う人」

グループ分けしたときに分かれる。仲良しではない・趣味が違う・性別、国籍、宗教
など分類されるもの・考えが違う・見た目が違う

9. これまでを振り返る

自分と「違う」人にどんな風に接してきたのか
を考え、ワークシート⑤「これまでの自分をふり
返って」の欄に記入する。

これまでの自分の行動を振り返る。

大切なことは、自己のこれまでの行動をふり返り、
これからの行動の変革である。

そのため、これまでの行動について叱責などをす
ることなく、自己の行動を素直にふり返るよう促
す。

目安として、ここまでを2時間とすることが望ましい。

10. 「わたしが外人だったころ」の紹介

ワークシート⑥、資料3、4を全員に配布し、下
記の問いに対して考え、ワークシート⑥に記入す
る。

*資料3、4参照

問1

「わたしが外人だったころ」とはどのよう
な意味だろうか。

問2

資料3、4の文章を読んで、何を感じましたか。
また、あなたのこの文章を読んで、これか
らの行動で変えたいことはありますか。

11. まとめ

ふり返り

この学習全体をふり返り、ワークシート⑥「これ
までの自分をふり返って」の欄に記入する。

*生徒から出てきた言葉を用いてふり返る。この
時、これまでの学習の中での生徒の気づきを黒板
等にまとめ、生徒が自らの学びを確認できるよ
うにする。

ワークシート②

()年 ()組 氏名()

自分を表す言葉を見つけよう！

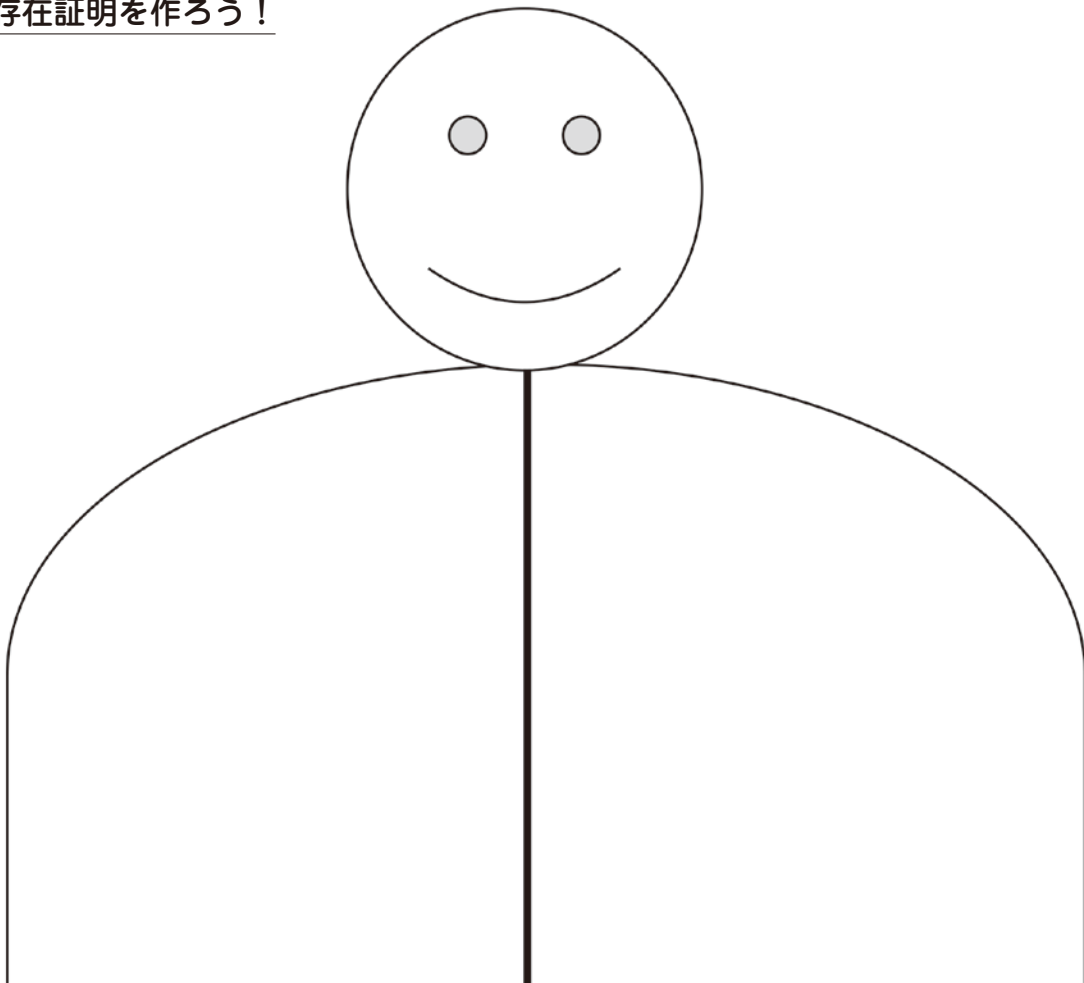
①自分で考える

②班の人を表す言葉を見つける

③班の人の意見をきく

④自分を表す言葉をきめる

自分の存在証明を作ろう！



資料2「リフレーミング辞典」

索引	書きかえたい言葉	リフレーミングすると	索引	書きかえたい言葉	リフレーミングすると
あ	甘えん坊な	人にかわいがられる	し	消極的な	ひかえめな
	飽きっぽい	好奇心旺盛な		す	ずうずうしい
い	あきらめが悪い	興味が広い	せ	せっかちな	堂々とした
	あわてんぼ	一途な	そ	責任感がない	行動的な
いいかげんな	チャレンジ精神に富む	た		外面がいい	行動が機敏な
う	意見が言えない	行動的な	ち	だまされやすい	無邪気な・自由な
	いばる	行動が機敏な		た	だらしない
お	浮き沈みが激しい	こだわらない	つ	短気な	素直な・純粋な
	うるさい	おおらかな		な	情熱的な
か	怒りっぽい	争いを好まない	て	調子にのりやすい	こだわらない
	おしゃべりな	協調性のある		な	ノリがいい
き	おっとりした	自信のある	ね	つめたい	感受性豊かな
	おとなしい	心豊かな・表情豊かな		の	生意気な
け	面白みがない	明るい・活発な	は	涙もろい	霧田気を明るくする
	かたくなるしい	元気がいい		ひ	根暗な
こ	勝ち気な	感受性豊かな	の	のんきな	知的な・冷静な
	カッとしやすい	情熱的な		の	のんびりした
く	変わっている	味のある・個性的な	は	八方美人な	世話好きな
	頑固な	意志が強い		ひ	反抗的な
さ	気が弱い	信念がある	ふ	人づきあいが上手な	自立心がある
	気が激しい	一貫性がある		ほ	考えがはっきりした
し	きつい感じの	人を大切に	ま	人づきあいが下手	感受性豊かな
	きびしい	我慢ができる		む	人に合わせる
し	きがきつい	情熱的な	ま	一人になりがち	している
	きが悪い	シャープな感性の		め	人をうらやむ
し	きが軽い	責任感がある	む	ふざける	ない・マイペースな
	口下手な	自分に自信がある		め	プライドが高い
し	暗い感じの	率直な	め	ぼうっとしている	細かいことにこだわら
	けじめがない	率直な		ま	周りを気にする
こ	けちな	うそのつけない	む	負けずぎらい	心配りができる
	強引な	社交的な		む	向こうみずな
こ	興奮しやすい	社会的な	め	無口な	思い切りがいい
	こだわりやすい	うそのつけない		め	無理をしている
さ	ことわれない	自分の心の世界を大切に	め	命令しがちな	決断力がある
	騒がしい	している		め	目立たない
し	しつこい	物事に集中できる	め	目立ちたがる	話をよく聞く
	自分がない	経済観念のある		め	面倒くさがる
し	自慢する	エネルギーが豊富な	め	よく考えない	協調性がある
	地味な	情熱的な		め	乱暴な
し		感受性の強い	め	ルーズな	素朴な・協調性がある
		相手の立場を尊重する		め	
し		人のためにつくす	め		おおらかな
		寛大な		め	
し		明るい・活発な	め		たくましい
		元気がいい		め	
し		ねばり強い	め		おおらかな
		協調性豊かな		め	
し		自己主張できる	め		
		自分を愛している		め	
し		素朴な・ひかえめな	め		
				め	

ワークシート③

()年 ()組 氏名()

アイデンティティ（存在証明）は必要？不必要？

みんなの意見を聞いて…

----- 〈キリトリ線〉 -----

ワークシート④

()年 ()組 氏名()

グループ分けの時に重視したポイント

他の班の意見を聞いて…

ワークシート⑤

()年 ()組 氏名()

違うこととは?

違う人とは?

これまでの自分をふり返って

ワークシート⑥

()年 ()組 氏名()

「わたしが外人だったころ」とはどのような意味だろうか。

文章を読んで、何を感じましたか。また、あなたのこの文章を読んで、これからの行動で変えたいことはありますか。

これまでの自分をふり返って

資料3

紹介例

「わたしが外人だったころ」というフレーズは本のタイトルです。作者は鶴見俊輔さんの体験をもとに書かれたものです。鶴見さんは1922年生まれで2015年に亡くなりました。鶴見さんは15歳の時渡米し、アメリカで戦争を迎えます。その後、戦時交換船で日本へ帰国しました。

渡米したときは、アメリカでは日本人という立場であることから自分自身を「外人」と感じていました。帰国後も、敵国のアメリカ人を憎めないことやアメリカ生活の長さから、日本人のなかで「外人」として生きてきたことで、自分自身を「外人」と感じていました。そんな鶴見さんの経験から、皆さんに学んでほしいことがあります。

資料4

「わたしが外人だったころ」P40より

地球の人口は72億人。日本国民の人口は1億2千万人です。

地球上の人間全体の中で、日本人にとっては、外人のほうが多い。日本人は、外人にとりかこまれて、この世界でくらしているのに、日本本位に考えるのでは、わたしたちは地球上に住みにくくなります。

おわりに

100人が学べば100通りの感想や気付きがある。どれかが正解ではなく、どれも正解であるという考えが大切である。学習者のみならず、教える側の教師にも学びのチャンスであると考えて。この学習をしたことで、まずは最初の一歩を踏み出したことに大きな意味があると思う。

自分自身と向き合うこと、振り返ることが多い学びの内容となっている。苦手意識を持っている学習者も多いだろう。意見がまとまらなくても、考えることや向き合うこと自体に大きな意味がある。学習者一人一人にとって、最初の一歩となることを願っている

参考・引用文献

『同級生は外国人！？』 1～3 (吉富志津代／汐文社)

『わたしが外人だったころ』 (鶴見俊輔／福音館書店)

〈アクティビティ1〉

「お願い、協力して！」 (『地球市民を育む学習』 P148～、グラハム・パイク、ディヴィット・セルビー共著、中川喜代子監修・阿久澤麻理子訳／明石書店)

〈アクティビティ2〉

「みんなでリフレーミング」 (『エンカウンターで学級が変わるPart3 中学校編』 P82～、中里寛・國分康孝監修、大関健道・藤川章・吉澤克彦・國分久子編集／図書文化)

島根県出雲市の現場から

堀西 雅亮

「堀西さん、今日は交流会に誘ってくれてありがとうございます。すごく楽しかった。でもね、これが終わると、また寂しくなるんですよ。僕はね、友だちになりたいんですよ…」

現在私が住んでいる島根県出雲市は、人口約17万5千人、その内の2.7%にあたる約4,700人が外国籍の市民です。国籍別では、ブラジルがおよそ7割を占め、次いでベトナム、中国、フィリピン、韓国、ミャンマー…と続き、その国の数は34か国に及びます。2008年に出雲市に在住していた約2,300人の外国籍市民は、その年の「リーマンショック」により約1,700人にまで減少しました。その後2014年から2019年にかけては、大手メーカー企業の労働需要の増加などを背景に一気に増加、2019年には減少に転じますが、現在では再び増加傾向にあります。

さて、「多文化共生」について語られる場面では、上記のような数字や記述を目にすることが少なくありません。もちろん、「国籍や民族などの異なる人々が～」と定義（2006年総務省報告書）されていますから、国籍別人口やその推移などは大事な指標でしょう。しかし一方で、その数字や見方は、「共生」に向けたほんの入口に過ぎないと、私は思っています。

冒頭に書いたのは、共に出雲で暮らしている、ある方の言葉です。静かな笑みを浮かべながら発せられたその言葉の向こう側には、どんな感情があったでしょう。とまどい、感謝、申し訳なさ、やるせなさ…どんな言葉を並べても完全には言い表すことのできない、そんな思いを、私は感じました。別の方からは、こんな言葉も聞きました。「日本人どうしたと『交流』って言わないでしょ。なぜ日本人と外国人だと『交流』なのかな」。

自分のまちに外国籍市民が増え、それまで意識していなかった「外国人」を意識するようになり、「日本人」との間に線が引かれます。言葉や文化のちがいに不安を覚え、ときに偏見や差別も生じていきます。その中でたまたま、「外国人」ではなく「○○さん」と出会い、「日本人」と「外国人」の間に線を引くことがごく一面的な見方であったことに気づき、その線を取り除いたり、もっともっと多様な線として引き直していったりします。そして、この社会に暮らす私たちが、もともと多様だったのだと知らされ、従来の社会のシステムが一部の人々を「イレギュラーな存在」に追いやっていたことに気づかされていきます。

その社会のシステムを、多様な市民が本当に安心して生きることができるように変化させていくこと、この社会を、多様な生き方に合う、多様な人々が包摂されている社会に変えていこうとすること、それこそが、「多文化共生」という営みなのだと思います。決して「外国人」と「日本人」の「共生」ではないと、私は思います。



出雲市では、2016年に策定された「多文化共生推進プラン」も後押しとなり、行政や学校、地域コミュニティ、NPO、企業などで、「共生」に向けた取り組みが進みつつあります。一方で、従来の社会のシステムを維持したまま、そこに入れるように「外国人」を「支援」する状況があることも事実です。誰ひとり「イレギュラーな存在」にしない社会への取り組みは、始まったばかりです。

それでも、「交流」を超えて、共に地域活動に参加する大人たちや、サッカーチームで共にプレーする子どもたちの姿も見られるようになりました。大学生や高校生が、子どもの居場所づくりの活動に加わったり、「多文化」に関わる様々な団体・機関が、このまちの将来の姿を共に語り合ったりする機会もできました。

〇〇地域の人数、△△サッカーチームの戦績、□□高校の活動…例えばそのような数字や記述、「線引き」の中に、多様な人々が包摂されている—そういう社会になるのは、決して遠い将来のことではないと思います。あの方が「友だちになりたいんですよ」と言わなくてもいい社会へと、少しずつですが着実に、変化しています。そしてそんな社会になったとき、「私自身」もまた、包摂されている安心の中で生きることができるのだと思います。

島根県出雲市の現場からは、以上です。

堀西 雅亮（ほりにし まさあき）：

日本語教師などを経て、1997年より約10年間、外国人研修生・技能実習生の受入れに従事。2006年～2008年、NPO法人多文化共生センター大阪にて職場の多文化共生推進に取り組む。2010年、NPO法人エスペランサの設立に関わり、以後島根県出雲市を中心に、日本語学習支援、外国にルーツをもつ子どものサポートなど、多文化共生の地域づくりに携わっている。島根県外国人地域サポーター。浄土真宗本願寺派僧侶。



「塩冶地区放課後子ども教室」のスタッフの方からお話を伺う（正面左が堀西さん）



出雲市フィールドワークにて（中央が堀西さん）

*堀西雅亮さんには、2020年10月に行った島根県出雲市のフィールドワークのアドバイスや訪問先の調整など多大なご協力を賜りました。



クラスの中の外国人

はじめに

年々、クラスの中に外国にルーツをもつ生徒が増えてきている。外国にルーツをもつ児童生徒に対して文化の違いや、見た目を理由に、差別や偏見が起きることはしばしばある。しかしながら、日本の中にも異なる文化や考え方がたくさんあるが、外国にルーツのある児童生徒達に抱くような感情は、日本人の児童生徒に対して、抱いていないように感じる。例えば、日本人に対してカレーを手作りして出した時に「カレーを食べられない。」と言われると「(好き嫌いかな?)仕方ない。」と思うものの、インド人が「カレーを食べられない。」と言うと、「インド人なのに(せっかく作ったのに)。」と誤ってしまわないだろうか。

以下に紹介するワークを通じて、日本の文化に対する自分の考えを改めて認識し、同じ時期に生まれ、同じ土地で育ってきたクラスの児童生徒達の中にも文化に対して様々な考えがあることに気付く。また、それぞれの文化は自分で作り上げているものなのか、社会が作りだしたものなのかについて考え、文化の生まれた背景について考えていきたい。そして、それらの習慣(文化)を自分は変えることができるのか、できないのかについて、自分の考えを相手に伝える。この活動を通じて、外国にルーツをもつ人たちの中にも、それぞれ個人個人で文化に対する考えが異なることに気付いてもらいたい。

アクティビティの解説

この教材では質問に対する各自の考えを挙げ、それぞれがもつ考えを聴く。次に、それらは社会が作り上げてきたものか、自分が作りだしたものなのかの二つに分類し、習慣(文化)を変えられることができるのか、互いの意見を交流することを目的にしたアクティビティである。

ねらい

日本人は同じ習慣(文化)を持っていると思っている児童生徒達が、日本の中にも様々な習慣(文化)があることに気づく。

習慣(文化)に対するそれぞれの認識が異なることを知る。

学習計画

(1) 日本の習慣(文化)について、様々な考えがあることを知ろう。

教科・領域との関係

道徳、総合的な学習の時間、特別活動等。

アクティビティ1 「日本の異文化に気づく。」

●ねらい

日本の中の様々な習慣(文化)について意見を交流し、同じ時期に生まれ同じ地域で育った人たちの中にも様々な考えがあることに気づく。

●主な対象

小学生以上

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

「日本の習慣（文化）カード」（P29）、分類シート（P30）（いずれもグループ数分）、ワークシート①（P31）（全員分）

●所要時間

45～50分

●用語の解説

外国にルーツを持つ子ども

親の両方または片方が外国籍を有する児童生徒のこと。生まれた国が母国の場合もあれば日本の場合もある。または、両親ともに日本人であるが、外国で生まれたり、一定期間外国で生活したりして後に帰国した児童生徒のことをいう。

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 世界にはいろいろな習慣（文化）があるが、日本にも様々な習慣（文化）があることを確認する。</p> <p>2. 4～5人のグループに分かれる。 各グループにP29の「日本の習慣（文化）カード」を配布し、「あなたは、このカードに書かれているような習慣（文化）がありますか。」と問いかけ、自分の習慣（文化）についてグループで話し合う。</p> <p>3. それぞれの「日本の習慣（文化）カード」の内容は、社会が作り上げてきたものか、自分が作りだしたものなのかを考え、自分はその習慣（文化）を変えられるか変えられないかについて意見を交流しながら、分類シートの4つのカテゴリーに分類する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日本の中でも文化は多様で、自分と全く同じ文化を持った人が少ないことに気づかせる。 • 合意形成は目的としないが、どのような意見が出たのか交流する。 <p>日本の中にも様々な文化があり、様々な考えがあるように、外国にルーツをもつ人たちの文化に対して固定観念をもつのではなく、人それぞれ異なった考え方があるということに気がつく。</p>
<p>ふり返り</p> <p>4. ワークシート①を全員に配布する。 今の「わたしの気持ち」をワークシート①の指示に従って記入する。 ワークシート①の内容をグループで伝えあう。</p>	<p>1時間の学習をふり返る。</p>

「日本の習慣（文化）カード」

（切り離して使用してください）

①遠慮して思ったことが相手に言えないことがよくある。

②どんな時でも時間を守って行動する

③広島に住んでいる限りカープファンであるべき。

④何かの順番を待つときは並んで待つ。

⑤日本人は、一日一回は必ず米を食べる。

⑥結婚したら女性が名字を変える。

⑦結婚して子どもができたなら、母親が育休をとる。

⑧箸は必ず正しい持ち方でもつ。

⑨日本人は目上の人を立てるのが当たり前である。

「日本の習慣（文化）カード」を下のカテゴリーに分けてみましょう。

自分

社会

変えられない

変えられる

わたしの気持ち



ワークショップを行って、わたしの気持ちは…

驚いた	興味深い	知らなかった
変わりたい		気付いて いなかった
楽しい	どうにもできない	不安

- ◆上の中から、自分の気持ちに最も近いものを2つ選んで○をつけましょう。
- ◆リストにない気持ちがあれば、真ん中の空欄に書いてください。

選んだ理由を書いてください

アクティビティ2 「外国につながりをもつ友達のためにできることを考えよう。」

●概要

近年、外国につながりをもつ生徒が、学校で様々なことに困難を感じている。彼らが実際に、困っていると感じていることを、自分事として考え、児童生徒達が自分達にどのような配慮や行動ができるのかについて考えていく。

●ねらい

日本の児童生徒も、外国にルーツをもつ人達にも、学校が過ごしやすい場所にするために、自分達にできることは何かを考える。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

ワークシート② (P33) (全員分)

●所要時間

45分～50分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<p>1. ワークシート②を全員に配布し、自分が海外の学校に留学する場合、どのような気持ちになり、どのように対処するのか各自で考え、ワークシート②の1.～4.に記入する。</p> <p>2. グループで意見を共有し、ホームステイ先の人達に分かってほしいこと、配慮してほしいことは何かを考える。</p> <p>3. ワークシート②の5.に記述されているような外国につながりのある児童生徒達が困っていることを読んで、1年間楽しく生活できるようにするためには自分が相手に対してどんな配慮をすることが望ましいかを考え、6.に記入する。</p>	<p>・将来、海外で学習する機会がある人もそのつもりがない人も、自分事として考えられるよう声をかける。</p> <p>・自分が外国に暮らす人として感じたことを記入させる。</p> <p>・2で考えたことを踏まえながら、外国につながりのある児童生徒の気持ちになって考えさせる。</p>

ワークシート②

()年 ()組 氏名()

1. 海外の学校に留学することになりました。期待に胸を膨らませて行った留学先では、次のような文化がありました。

A：友達は日本語がわかりません。	B：食事はいつも手で食べています。
C：肉はほとんどの人が食べません。	D：家の中でも靴をはいています。

2. A～Dの文化を知って、最初にどのような気持ちになりますか？

A：	B：
C：	D：

3. A～Dの文化に対して、あなたはどのような行動をとりますか？
(自分の行動を相手の文化に合わせる・合わせない)

A：	B：
C：	D：

4. 1年間楽しく学校で生活するために、自分が海外で相手に配慮してほしいことはどんなことですか。

--

5. 今、日本の学校の中で、外国につながるの児童生徒が学校の中で困っていること。

A	日本語が難しく、なかなか友達の言葉を聞き取れない。日本語を話した時に、からかわれてしまう。
B	自分の国にはない校則や規律になかなか慣れない。
C	掃除の時間や給食の時間など、自分の生まれ育った国ではなかったので、慣れることが難しい。
D	ハーフであることや肌の色で特定のイメージや偏見を持たれている。

6. 上の例を参考に、楽しくお互いが学校で生活するためには、自分が外国につながるの児童生徒に対して配慮することはどんなことですか。

--

おわりに

“外人（ガイジン）”。私たち日本人は、外国にルーツをもつ人々に対してよくこの表現を使う。しかしながら、この言葉は、外国にルーツをもつ人々にとって時に冷たい言葉に聞こえてしまうことがある。日本人に“（日本の外から来た人）”と考えられ、日本人と区別され、日本に馴染まないと、差別を受けてしまうことさえある。また、近年の学校現場では、外国にルーツをもつ子どもが年々増えているが、様々な問題も生まれている。これから先、ますます多様な社会になり、多文化社会が当たり前になる中で、私たちの、外国にルーツをもつ人々に対する考えを、見直さなければならないと考える。そのために必要なことは、自分自身の生活、文化や行動を見つめなおすことである。本学習プログラムは、日々の教育活動の中で、子ども達が「これまで気が付かなかった新しい自分」に気付くことができるための取り組みの一步としたい。

参考文献

- ・『「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」時事問題を教室へーグローバル・エクスプレス』
（認定特定非営利活動法人 開発教育協会（DEAR））
- ・『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻～人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ～』
（独立行政法人国際協力機構 中部国際センター）
- ・NHKハートネットHP「外国ルーツの子ども達と作る学校」



多文化共生とは、何か？

はじめに

ここでは、「多文化共生って、なんだろう？」「何から学んでいけば良いのだろうか？」ということについて考える。

筆者が勤務する小学校には、外国にルーツをもつ児童が複数名在籍している。児童のもつ母語や母文化は様々である。これらの児童らを担任する中で、筆者自身の感じた「外国にルーツをもつ児童と共に学ぶということは、こういうことか！」「外国にルーツをもつ児童と共に学ぶ時に、こんな知識があるとよかったな！」という発見やふり返りをもとに、学びのプログラムを作成したものである。

同級生、担任と様々な立場から、「外国にルーツをもつ児童生徒と共に学ぶ」という視点から、多文化共生について考えていきたい。

このプログラムは、外国人児童生徒等に対する日本語指導を行う際の視点も取り入れている。外国人児童生徒を担任する先生にも、この学びのプログラムを活用していただけたら幸いである。

参加のルール・アクティビティの解説

- ・この教材では、参加者同士で「多文化共生」について話し合うことで、自分にできることは何かを考えたり、他者理解を深めたりすることをねらいとしている。その時、「正しい考え」「間違った考え」というものはない。他者の発言を否定するのではなく、「自分とは異なる考え方だが、そのような考え方もあるのだな。」と受け入れ、その上で自分の考えも相手にわかるように伝えることが大切である。
- ・アクティビティは、「日本で暮らす日本人の立場」、「外国にルーツをもつ児童生徒の立場」の2つの立場から考え、両者の共通点や相違点について話し合うものである。クラスの中に、外国にルーツをもつ児童生徒がいない場合は、「もし自分が、外国に引っ越して現地の児童生徒が通う小中学校に通うことになったら？」と仮定して考える。

全体のねらい

- ・小中学校の「自分のクラス」に在籍する外国にルーツをもつ児童生徒の気持ちを考える活動を通して、多文化共生社会において自分にできることは何かを考える。
- ・小学校高学年の児童や中学校の生徒たちは、自分らしさ（アイデンティティ）の確立のために、悩み、葛藤することも多いのではないだろうか。そんな児童生徒たちが、同世代の仲間の置かれた様々な状況を体験し、気づきを共有することで、自分らしく生きるヒントを見つけられるようにする。

学習計画（全2時間）

- (1) 「日本人」「外国人」の2つの立場から、友達に望むことは何かについて考えよう。
- (2) 「私」が「私らしく」生きていくために、大切なことは何かについて考えよう。

教科・領域との関係

道徳、総合的な学習の時間、特別活動等。

アクティビティ1 「『私』が望んでいることは、同じかな？違うかな？」

●概要

場面設定は、小学校または中学校のとあるクラスである。クラスには、外国にルーツをもつ児童生徒が在籍しているものとする。「日本人」「外国人」の2つの立場から、「自分がやりたいこと（または相手に望むこと）」が書かれているカードを、優先順位が高い順に並び替える。（ダイヤモンドランキング）

●ねらい

「日本人」「外国人（外国にルーツをもつ児童生徒）」の2つの立場から、学級や友達に望むことを考えることで、様々な考え方があり、自分にできることは何かを考える。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

- ・ワークシート①（P39～40）（全員分）
- ・ダイヤモンドランキングカード（P38）（グループに1セット）

●所要時間

45～50分間

●用語の解説

- ・多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと（総務省、2006）

- ・外国にルーツをもつ子ども

親の両方または片方が外国籍を有する児童生徒のこと。生まれた国が母国の場合もあれば日本の場合もある。または、両親ともに日本人であるが、外国で生まれたり、一定期間外国で生活したりして後に帰国した児童生徒のこともいう。

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点
1. 自分が「日本人」という立場から、ダイヤモンドランキングを完成させる。 「あなたが、外国から来た同級生に望むことはなんですか？」	<ul style="list-style-type: none">・用意するカードは、P38に示す9枚である。・1グループ3～4人で活動する。・優先順位1位は1枚、2位は2枚、3位は3枚、4位は2枚、5位は1枚をそれぞれ選び、机上にダイヤモンドランキング型に置いていく（ワークシート①の図を参照）。・カードを並べる時間は、10分間程度とする

<p>2. 自分が「外国人」という立場から、ダイヤモンドランキングを完成させる。 「あなたが、日本人の同級生に望むことはなんですか？」</p> <p>3. 1、2で作成したダイヤモンドランキングを比較して、考えたことを交流する。 「2つのダイヤモンドランキングを比較して、どのようなことを考えましたか？」</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 「日本人」と「外国人」でのランキングの違いについて話し合う。ランキングが同じだった場合、違った場合、共にその理由についてグループ内で意見交換する。・ グループで話し合ったことを、他のグループとも交流して、共通点を探る。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ダイヤモンドランキングで使用するカード
(コピーして切り離してください)

①自分の国の言葉で
会話がしたい。(日
本語または外国語)

②自分の国の文化
(食事や遊び等)を
紹介したい。

③友達になってほし
い。

④そっとしておいて
ほしい。(話しかけ
ないでほしい。)

⑤「○○○人だから」
という偏見を、捨
ててほしい。

⑥自分の国の人に接
するように、平等
に接してほしい。

⑦自分の国の文字を
使って活動(交流)
したい。

⑧進路の情報を教え
てあげたい。教え
てもらいたい。

⑨地域の人と仲良く
なってほしい。(仲
良くなりしたい。)

「『私』が望んでいることは、同じかな?違うかな?」

()年 ()組 氏名()

ダイヤモンドランキング～ ①「日本人」の立場から

1位 1枚

2位 2枚

3位 3枚

4位 2枚

5位 1枚

ダイヤモンドランキング～ ②「外国人」の立場から

1位 1枚

2位 2枚

3位 3枚

4位 2枚

5位 1枚

○ 2つのダイヤモンドランキングを比較して、気付いたことを書きましょう。

●資料・解説

上記のカード9枚の内容は、筆者自身が担任したことのあるクラスの児童の実態を参考に作ったものである。加えて、筆者が受講した「令和2年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修（N I T Sオンライン研修）」の講義内容を基に作成した。

「日本人」の立場で優先順位考えた場合、予想される上位のカードは、「何か支援をしてあげたい」に関連したカードである。つまり①や⑦の言葉を教えてあげたい、②の日本文化を教えてあげたい、などが考えられる。

その一方で、「外国人」の立場で優先順位を決めた場合、予想される上位のカードは同じでも、意味合いが異なってくることを児童生徒に知ってもらいたい。外国にルーツをもつ児童生徒は、1日も早く日本語の読み書きができるようになり、学校生活に慣れることを望んでいるだろう。しかし、初めて来た日本という国で、母語が使えないことは、かなりのストレスとなるようである。

外国にルーツをもつ児童生徒の自分らしさ（アイデンティティ）の確立のためには、母語で会話をし、母語で読み書きをする機会を持つことは非常に大切なことであると考え。つまり、「外国人」の立場から言えば、上記のカード①⑦は、自分が自分らしく存在するための願いなのである。

カード⑧の進路については、小学校から中学校への進学のように、受験なしに高校に進学できると考えており、受験直前になって困惑する外国人保護者がいるというような状況もある。学校においても、外国にルーツをもつ保護者に対して、十分な情報の提供や説明、配慮がなされていないということがあるのではないだろうか。日本の進学の制度についての情報共有は、外国にルーツをもつ児童生徒にとっては、日本で生活していく上で必要度の高い情報だと考える。

また、アクティビティ2でも扱うが、日本では、未だに外国人への差別や偏見は残っている。東広島市国際化推進プランにも書かれているように、「外国人」は支援するだけの対象ではなく、共に未来を創っていく「仲間」という意識を高められるよう教師は支援していきたい。

アクティビティ2「私は、これを望みます！」

●概要

このアクティビティのキーワードは、「自己のアイデンティティの確立」である。

私たちは、性別、出身地、国籍などによって差別されることなく、誰もが大切な存在である。これは、国際法（例：「国際人権規約」「人種差別撤廃条約」「子どもの権利条約」など）から考えても、大切な視点である。ところが、悲しいことではあるが、日本において差別や偏見により自分らしく生きていくことに苦しみを感じている児童生徒たちがいる。

そこで、このアクティビティでは、私たちが「自分らしく」生きていくために必要なことは何か、自己のアイデンティティ（存在証明）は何によってなされるのかを、みんなで考える。

使う資料は、「NIKE JAPAN」が公開したユーチューブ動画「動かしつづける。自分を。未来を。The Future Isn't Waiting.」である。この動画は、差別などの葛藤をスポーツで乗り越えていく少女たちの様子が描かれている。この資料を入りに、自分が、そしてみんなが自分らしく生きていくために、「自分にできることは何か」「大切にしたいことは何か」を考える。

●ねらい

自分らしく生きていくことができない若者の苦悩について話し合う活動を通して、誰もが自分らしく生きていくために大切にしたいことは何か気づき、実際に行動することができるようにする。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

YouTube動画（https://youtu.be/G02u6sN_sRc）、ワークシート②（P45）（全員分）

●所要時間

45～50分

●用語の解説

・国際人権規約

国際人権規約は、世界人権宣言の内容を基礎として、これを条約化したものであり、人権諸条約の中で最も基本的かつ包括的なものである。社会権規約と自由権規約は、1966年の第21回国連総会において採択され、1976年に発効した。日本は1979年に批准した。

経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約（A規約）の中で、本アクティビティと関連のある条文は、『（中略）国際連合憲章において宣明された原則によれば、人類社会のすべての構成員の固有の尊厳及び平等かつ奪い得ない権利を認めることが世界における自由、正義及び平和の基礎をなすものであることを考慮し、これらの権利が人間の固有の尊厳に由来することを認め、…』である。（※ 外務省HPより抜粋。文末表現は作者が変更した。）

・人種差別撤廃条約

人種差別撤廃条約は、人権及び基本的自由の平等を確保するため、あらゆる形態の人種差別を撤廃する政策等を、すべての適当な方法により遅滞なくとることなどを主な内容とする。1965年の第20回国連総会において採択され、1969年に発効した。日本は1995年に加入した。（※外務省HPより抜粋。文末表現は作者が変更した。）

・子どもの権利条約

「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約である。18歳未満の児童（子ども）を権利をもつ主体と位置づけ、おとなと同様ひとりの人間としての権利を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めている。前文と本文54条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定している。1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効した。日本は1994年に批准した。（※ unicefのHPより抜粋。文末表現は作者が変更した。）

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点
<p>1. 動画を視聴して、感じたことを話し合う。 「動画を観て、感じたことを話し合みましょう。」 (話し合いのポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別と葛藤 ・ありのままに生きることの難しさ ・自分らしさ <p>2. 動画に出てきた少女たちが、葛藤を乗り越えることができた理由について話し合う。 「どうして少女たちは、葛藤を乗り越えることができたのか。」 (話し合いのポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛藤を乗り越えた理由 ・日本人と「外国人」 ・自分のルーツ ・仲間の存在 <p>3. ワークシート②「私は、これを望みます！」を全員に配布し、ワークシート②の(1)「私が私らしく生きていくために、まわりに認めてほしいことは、何か。」について考える。 ワークシートをもとに、自分が自分らしく生きていくために、何が必要かを2つ選び、それを選んだ理由について考えをグループ内で交流する。</p>	<p>1. 動画を流す際に、事前説明は何もない方が先入観なしに見ることができると考える。視聴後の話し合いは、何を語ってもよいが、他者の意見を否定することはルール違反であることは伝えておく。</p> <p>2. 外国にルーツをもつ少女たちである。少女たちを取り巻くマジョリティ（大多数の日本人の同級生）の心理ではなく、ここでは、葛藤する少女たちのマイノリティの心情を中心に挙げたい。</p> <p>3. 「私」が「私」であるために大切なことについて話し合う。1グループの人数は、3～5人程度がよい。 選択に迷う児童生徒には、「自分が外国に行って、マイノリティ（少数派）の立場になったとき」を想像させることで、具体的なイメージをもとに選択できるようにする。その際、「わたしが外人だったころ」という絵本の読み聞かせをするのもよい。</p>

自分が選択した必要なものを発表するとき、「私が選んだのは～です。理由は、～だからです。」を、発表の仕方の基本とする。可能であれば、「もし、（選んだ内容）が認められなかったら、私は～になる（～だ）。」と、自己の葛藤を伝える。

【選択肢】

- ・ 名前（通称名、本名）を受け入れてもらえること
- ・ 出身地（地域・国）によって差別されないこと
- ・ 日本人でも外国人でもクラスの大切な存在として認めもらえること
- ・ 好きなこと（スポーツ、趣味など）を認めもらえること
- ・ 自分が認識している、ありのままの性を受け入れてもらえること、性の平等が認められていること
- ・ 学歴ではなく、その人の「できること」で評価してもらえること

4. ふり返り

（ふり返りのポイント）

- ・ 自己のアイデンティティ（存在証明）
- ・ 自己と他者との認識のズレ
- ・ 自分にできること

●資料・解説

動画に出てくる少女たちの葛藤の一つとして考えられるのは、「自分は何者か？」という自己への問いではないだろうか。特に注目したいのは、名前である。名前は、「自分らしさ」をあらわすアイデンティティの大事な部分を担っています。動画の中でも、ある少女は、葛藤を乗り越えたとき、2つの名前をユニホームの背中に記していた。（一つは「YAMAMOTO」、もう一つは「KIM」である。）

このアクティビティを通して、自分が求めることと、他者が求めるものを比較してほしい。人により求めるものが違うことを知ることも、多文化共生の第一歩であると考えよう。

「私は、これを望みます！」

()年 ()組 氏名()

(1) 私が「私らしく」生きていくために、まわりに認めてほしいものは、次のどれですか。
2つ選びましょう。その理由も、書きましょう。

①名前（通称名、本名）を受け入れてもらえること	②出身地（地域・国）によって差別されないこと	③日本人でも外国人でもクラスの大切な存在として認めてもらえること
④好きなこと（スポーツ、趣味など）を認めてもらえること	⑤自分が認識している、ありのままの性を受け入れてもらえること、性の平等が認められていること	⑥学歴ではなく、その人の「できること」で評価してもらえること

→ 私が認めてほしいのは、()と()です。

【理由】

(2) ふり返り ～ 同じグループの人と意見交換をして、感じたことを書きましょう。



おわりに

筆者が、JICA中国の「2020年度開発教育教員研修アドバンスコース」に参加し、東広島市でフィールドワークを行なったときに、「東広島市国際化推進プラン」について学ぶ機会があった。

この推進プランに出てくる、次の3つの言葉が筆者は大好きである。

- ・心豊かに安心して暮らせる多文化共生のまちづくり
- ・みんながつながるまちづくり
- ・世界とつながり未来を創り出す多文化共生の町

※東広島市HP「東広島市国際化推進プラン」より引用

日本人、外国人、外国にルーツをもつ人々など、様々な背景をもつ人々と共に暮らすことで、多くの発見がある。新しい価値観を知ることができる。自分の人生は大きく広がっていく。国や地域、その人がこれまで歩んできた道が違えば考え方も様々である。互いの価値観を尊重し合い、共に生きていく「仲間」と一緒に、多文化共生のまちづくりを進めていきたい。

そんな「多文化共生」について学ぶうえで、この学習プログラムが何かのお役に立てば幸いである。

参考・引用資料

(アクティビティ1)

- ・独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター、2006年、『教室から地球へー開発教育・国際理解教育 虎の巻～人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ～』東信堂
- ・東広島市HP「東広島市国際化推進プラン」
<https://search.city.higashihiroshima.lg.jp/kurashi/shiminkyodo/2/25524.html>
- ・令和2年度「外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修（NITSオンライン研修）」
明治大学 特任教授 佐藤郡衛『外国人児童生徒等教育の現状と課題ー多文化共生・学習権・市民性の視点からー』講義資料

(アクティビティ2)

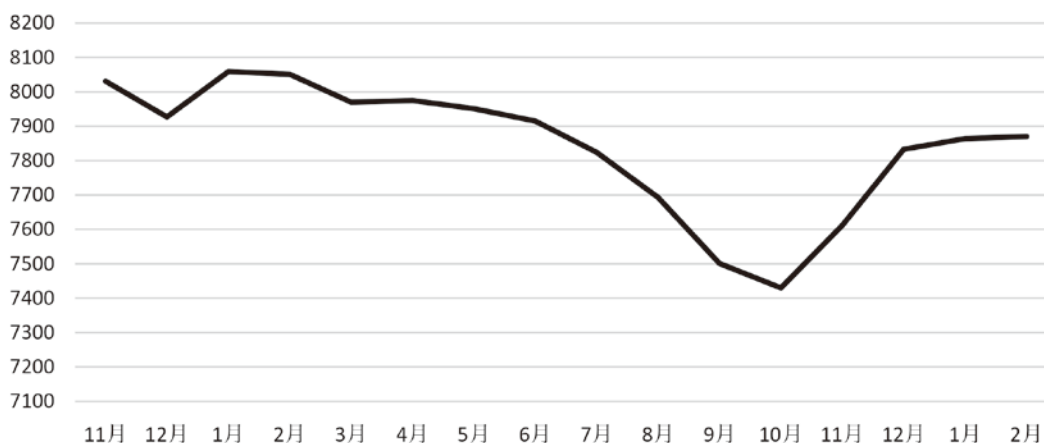
- ・NIKE JAPAN You Tube「動かしてつづける。自分を。未来を。The Future Isn't Waiting.」
(https://youtu.be/G02u6sN_sRc)
- ・外務省HP (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kiyaku/index.html>)
(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinshu/index.html>)
- ・unicef HP (https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig.html)
- ・肥下彰男・阿久澤麻理子〔編著〕 協力（一財）アジア・太平洋人権情報センター、2015年、『地球市民の人権教育 15歳からのレスンプラン』解放出版社
- ・開発教育研究会〔編著〕、2012年、『身近なことから世界と私を考える授業II オキナワ・多みんぞく・核と温暖化』明石書店
- ・鶴見俊輔 文 佐々木マキ 絵、1995年、たくさんのふしぎ傑作集『わたしが外人だったころ』福音館書店

多文化共生社会における子どもたち

奥村 玲子

2020年は誰もが新型コロナウイルスに翻弄された年であった（2021年になっても現在進行形であるのだが・・・）。その1～10月、東広島市では外国人人口が連続して減少していた。ところが11月～2021年2月は増加に転じている（グラフ）。『にほんごわいわい』でも、この3ヶ月に新規入国による新人が8人いた（技能実習生、留学生、ワーキングホリデー）。政府の入国規制緩和措置（2020年10月～2021年1月）を「待ってました！」と言わんばかりのこの動きは、東広島市において、外国人が不可欠な存在になっていることをあらためて浮き彫りにした。

東広島市の外国人人口の推移（2019年11月～2021年2月）

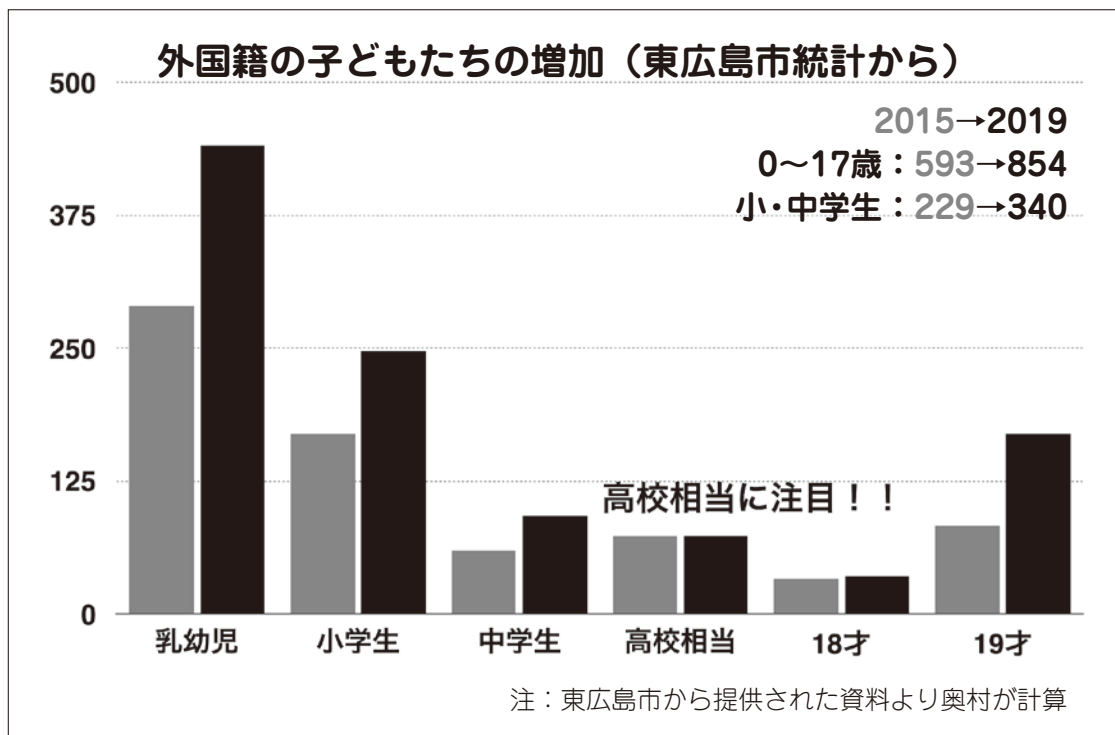


加えて子どもの教室の参加者は、少なくとも11人（兄弟姉妹を含めて）を数えた。規制緩和時に、家族の入国が多かったのではないかと推察される。

その中にアジアのある国から来たM君がいる。東広島市で就労中の両親が、ようやく呼び寄せることができたのだ。彼は16才、高校で勉強したいという。年齢的に日本の中学には入れないので、私が副代表を務める「こどものひろばヤッチャル」（以下、ヤッチャル）が支援することにした。ただし日本語学習は始めたばかり、母国での教科学習もスローペースとなれば、前途多難は覚悟の上である。

M君のような子はほかにもいる。2019年秋に16才で来日したK君である。高校入試を目指すため、学年を落としての中学転入を希望したが、それはかなわなかった。それでも彼は諦めず、1年間ヤッチャルで勉強し、2021年3月定時制高校に合格した。公立高校入試では、日本の中学を卒業していないことから、外国人特別措置が適用されなかった。幸い受験する高校の配慮で、ルビうちの問題用紙だけは認められた。彼は一言も不満は言わなかったが、適用外を知らされたときの『なぜほだけ？』という表情を私は忘れることはできない。日本社会における『高卒』の意味は誰もが認めるところだろう。彼らにとってもそれは同じである。それなのに、どうして入試の外国人特別措置に『日本の中学』という限定条件が付くのだろうか。特別措置を必要としているのは、むしろM君、K君のような学齢超過来日で高校希望の若者たちの方である。

ここで、東広島市の外国人の子どもたちの状況を見てみよう。



2015年から2019年にかけて乳幼児、小学生の増加は顕著であり、教員増員などの対策が必要なのは明白である。一方、高校相当年齢（15～17才）のこどもが、中学生と同じくらいいるというのは知られていない。この74人（2019）のうち高校に在学しているのは何人いるのだろうか。ヤッチャルでは当時20人位しか把握できていなかった。

74人の中には、M君、K君のような学齢超過來日の子も少なからずいるはずである。ヤッチャルでは12年間（2010～21）に30人と関わっているが、日本の中学を経ずに高校へ進学したのは4人だけである。それ以外は知る限りアルバイトをしている。一時的な現金収入はあるが、将来設計となると心細い限りである。

本当に、高校に行っていない子はどこで何をしているのだろうか。

外国につながる子どもたち（中学在学者、学齢超過來日問わず）の日本語力は、高校入試には不十分であることが多い。しかし『能力』が劣るわけではない。子どもの可能性を信じ、高校で適切に指導し、自立へと導ければ、それは本人のみならず、結果的に地域社会にとってもありがたいことではないだろうか。

これをまさに体現しているのがT君だ。ベトナムから中3で来日、本人の意志ではない。それでも新しい家族との生活を、彼は黙って受け入れた。当時日本語力はゼロだったが、エンジニア希望とあって数学の力はすばらしかった。中学に通い、放課後はヤッチャルで一緒に勉強した。入試時点での日本語力はまだまだだったが、幸い定時制高校に合格することができた。定時制高校は彼に

とって不本意な進学先だったかもしれない。それでも少人数であるがゆえにきめ細かい指導が得られ、数学、スポーツで存分にその能力を発揮することができた。それが彼の日本語力向上につながり、技術系の専門学校への道が開けた。

T君は専門学校卒業後エンジニアとして日本企業に就職。さらに東広島市教育文化振興事業団地域日本語教室『にほんごわいわい』で知り合った同国人と結婚し、東広島市内に家を買ひ、こどもが生まれた。来日の経緯を知る私は正直言って、彼が早くに家庭をもったことには複雑な思いもある。

東広島市は、彼が居住の場として選んでくれたことを感謝しなければならないだろう。地に足をつけて生活する若者（日本人外国人を問わず）が増える！地域にとってこんなありがたいことはない。加えてこれはあくまで副次的なことだが、彼と彼の家族のベトナム語によって救われた市民がどれほどいることだろう！

もちろん高校へ行くことだけが、外国につながる子どもたちの目指す方向性ではないことはわかっている。それでもヤッチャルは、しょっちゅう「彼らを高校に入れてくれ！」と叫んでいる。選択肢は多ければ多いほどありがたい。道を開けば、子どもたちは自分で選ぶだろう。

もちろん、どの高校でもT君にしたような対応ができるわけではない。日本語教師すらほとんどいない現状では、高校現場は「受け入れ環境を整えてからにしてくれ」と言いたいことだろう。それでも2023年度からは、高校で日本語が正式の単位として認められるそうだ。高校の体制整備は多文化共生の緊急課題である。

東広島市（≒地域社会）が外国人を迎え入れ、多文化共生への歩みを続ける時、最も困難な課題のひとつが『外国につながる子どもたち』への支援である。私は支援という言葉は好きではない。子どもたちには「先生、余計なお世話だよ！！」と言われてしまいそうだ。それでも子どもが多言語環境で育つ時、自己実現の道を歩むためには、何らかのサポート、それも専門的なサポートは不可欠である。だからヤッチャルは、しつこく子どもたちとのお付き合いを続けている！！

しかし、子どもたちに「将来、多文化共生の担い手になってね」とは言わない。それはおとなの押しつけだろう。子どもたちが自分らしく生きられる社会をつくるのは、大人の仕事である。その過程でT君のように、東広島市を生活の場として選んでくれたら、結果的に強力な担い手となってくれることだろう。

私たちが願うのは、あくまで子どもたちの自立、自己実現である。そのためにサポートできることは何か、ヤッチャルの試行錯誤は現在進行形である。

奥村 玲子（おくむら れいこ）：

1995年から多言語環境に育つ子どもたちと関わり始める。2010年からは地域日本語教室にも活動の場を広げる。外国につながる子ども対象の教室「こどものひろばヤッチャル」副代表（2010年～）。ヤッチャルの基本理念は「1人1人に寄り添うこと&安心できる居場所」。東広島市教育文化振興事業団地域日本語教室『にほんごわいわい』コーディネーター（2013年～）、多文化共生マネージャー（2016～）、東広島市第3次国際化推進プラン審議委員（2019～20）。

*奥村玲子さんには、2020年11月に行った広島県東広島市のフィールドワークにて、日本語教室視察や講義のアレンジなど、多大なご協力を賜りました。



「日本におけるイスラーム(文化)」

はじめに

日本人になじみが薄いとされて久しい「日本におけるイスラーム(文化)」について学ぶ。

日本人としてはイスラーム教徒のことについては、あまり馴染み深くないようである。高等学校の勤務校の授業では、中学校までのイスラーム(文化)の既習内容をあらかじめ確認してから学習を展開する際、初めて聞くという生徒が多い。

ここでは、イスラームという宗教文化に焦点をあて、異文化理解の側面も含めて、多文化共生にアプローチしていきたい。

参加のルール・アクティビティの解説

イスラーム文化についてカードを使って、多文化共生の在り方について考える。グループで話し合うときは、他者の意見を否定しない。最後にふり返しシートを使って、自らの学びをふり返る。

全体のねらい

現在は日本に多くの外国にルーツをもつ人が居住し、就労している。生徒が将来、実社会に飛び出した時、日本人だけのコミュニティとは限らない。現在も多くの外国にルーツを持つ人との多文化共生社会を目ざしていく世の中となりつつある。まずは、相手の文化を知ることから始めていくことが重要である。

本アクティビティでは、イスラーム(文化)やその生活習慣について日常の事例を紹介する。イスラーム教徒の宗教的な行為や異なる価値観に私たちが直面したとき、相手のことをどう尊重するかについて考えたい。すべての人間が行う食事、掃除や毎日の服装が、イスラーム教徒の宗教的な事象と日本人の慣習(または校則などのルール)と、どう折り合いをつけていくべきかなどについて考察する。今後私たちが未知の外国ルーツの人と接した時、それぞれの立場を尊重して行動できること、そして異なる文化・価値観の違う日本人同士でも、お互いの考えを理解した上で、尊重し合える姿勢を培うことにつなげていく。イスラーム文化理解を通して、異文化や異なる価値観に対する理解を深めることの大切さに気づかせたい。

学習計画(全2時間)

イスラーム教徒の生活編

教科・領域との関係

小学校(道徳、社会科)

中学校(道徳、社会科、家庭科、総合的な学習の時間、特別活動)

高等学校(地理A・B → 地理総合、現代社会 → 公共、家庭基礎・家庭総合、
総合的な学習の時間 → 総合的な探究の時間、特別活動)

アクティビティ「イスラーム教徒の生活編」

●概要

中学校を舞台にし、外国にルーツを持つ人との共生についてだけでなく、異なる文化や価値観の人々と、私たちはどう向き合っていくべきかについて考察する。

●ねらい

- ①異文化の理解は、他者理解だけでなく、自己の思考の理解でもあると認識できること。
- ②異なる文化を持つ他者への気配りは、最初はかなり意識して接していく必要があるかもしれないが、まずは相手の考えを受け止め、知っていくことの大切さを理解する。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

導 入：資料1、ワークシート1（P53～55）

生活編：カード1～3（P56～57）、ワークシート2（（グループ学習時）共有記録カード）（P58）、解説シート（P59）、ふり返りシート（P60）

●所要時間

50分×2時間

●用語の解説

- ・イスラーム（イスラム）：神アッラーに帰依（服従）する。
- ・ムスリム（女性：ムスリマ）：神アッラーに帰依（服従）する人
本アクティビティでは、イスラーム教徒で統一表記とした。
- ・ハラル（ハラール）：イスラーム法上、イスラーム教徒が食べることを許されたものや行為
- ・ハラム（ハラーム）：イスラーム法によって禁じられたものや行為
- ・ハラル（ハラール）ビジネス：イスラーム教の戒律に則った食品や日用品を提供するサービス
- ・ハラル（ハラール）認証・認定：イスラーム圏の国の機関が、食べ物の製造工程や調理の工程を検査して、豚やアルコールを使わずに、あるいはそれらと混ざることなく作られているかを確認、合格したものが認証・認定となる（講習・検査は有料）。認証を受けた食べ物がハラル（ハラール）・フード

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>0.（高校生以上の場合－資料1で現在の状況を把握しておくとい。現実社会と直結したアクティビティであることを意識させる。）</p> <p>1. ワークシート1に記入する。 問1～3を考える。</p> <p>2. 生活編のカード1、2、3を全員に配付し考察1、2、3を行う。</p> <p>3. ワークシート2を配付し、グループで意見を交換する。（3～4名が望ましい） ＜役割分担を決めておく＞ ・記録係・司会進行・発表者・（進行補助）</p> <p>4. カード1～3の解説</p> <p>5. 生活編ふり返りシートを記入し、グループで、ふり返りを共有する。</p>	<p>（小・中学生も読解できれば、使用可） 最初は、教員（ファシリテーター）が声を出して読み合わせ、外国人数やパーセンテージ、国名・業種などに強調の線を色ペンで引くなどするとよい。</p> <p>全員が記入できるまで時間をとる。活動前の自分自身の既存の知識と意識を明確にしておく。（グループで意見交流をしてもよい）</p> <p>始める前に、班の番号やメンバーを記入</p> <p>教員（ファシリテーター）は解説シートをもとに解説する。（終了後に解説を配付してもよい）</p> <p>全体の感想を共有してもよい。</p>

資料①

()年 ()組 氏名 ()

日本は人口減少・労働力不足に直面しており、多くの外国人労働者によって、日本の産業は担われている。皆さんが飛び立つ実社会では、外国（にルーツを持つ人々）籍の人が、日本国内で年々増加し、居住・就労している。特に、近年はイスラーム教徒の人が増加傾向にある。

日本全体の外国籍人口295万1365人（参考：在留外国人統計2020年6月）
 世界最大のイスラーム教国インドネシアからは67,051人（主な内訳：技術・人文知識・国際業務3,949人、技能実習35,542人、留学6,158人、永住者6,743人）
 マレーシアからは10,996人（主な内訳：技術・人文知識・国際業務2,175人、留学2,367人、永住者2,920人）

広島県は、県内の外国人労働者数は37,707人。国籍別では、ベトナムが最も多く14,316人（管内の外国人労働者数全体の38.0%）。次いで中国8,784人（同23.3%）。フィリピン5,728人（同15.2%）インドネシア1,973人（同5.2%）の順。（参考：外国人労働者アクセス 広島県の生産年齢人口と外国人労働者数 2020年10月末現在）

福山市の産業別人口内訳では、外国人労働者数4,687人のうち、上位4位が製造業2,917人（62.2%）、卸売業・小売業453人（9.7%）、建設業420人（9.0%）、宿泊業・飲食サービス業188人（4.0%）。
 製造業が圧倒的に多い。製造業が盛んな福山市で技能実習生が活躍していることが分かる。
 （参考：上別府隆男「広島県福山市における外国人労働者の実態、役割と課題 - 多文化共生社会の実現に向けて - 都市経営 No.11 (2019)、pp.01-13」）

日本に滞在し、就労する多くの外国の人々が、地域において自立し社会参加をしていくためには、外国の人々への働きかけだけでなく、私たち日本人がいかに受け入れるかの意識を持つことが重要である。日本の多文化共生のアプローチは、日本語学習支援やイベント実施など国際交流面は全国的に進みつつある。しかし、宗教に関する取り組みは、最も外国籍の方が多く居住する東京都でも不足している実態があり、特に近年増えているイスラーム教徒の人の生活実態に即したアプローチを考えていく必要がある。
 （参考：「東京 23 区における多文化共生政策に関する現状と課題についての一考察」）

ワークシート① (両面印刷)

()年 ()組 氏名 ()

○イスラームについて知っている場合は () に○を入れよう。

- 1 唯一神アッラーのみが神である。 ()
- 2 1日5回、サウジアラビアのメッカの方向を向いて、お祈りをしなければならない。 ()
- 3 アルコール(酒)を飲んではならない。 ()
- 4 豚肉を食べてはならない。 ()
- 5 女性はみだりに肌を見せてはならない。 ()

○次の状況について、あなたは思うか。

- 1 あなたの宗教は何ですかと尋ねられ、「特にありません」と答えたら、驚く人。
()
- 2 宗教に熱心な人が、頻繁にお祈りをすること。(場合によっては、授業中や仕事中也決まった時間になると、お祈りすること。)
()
- 3 絶対にお酒を飲まないだけでなく、飲酒をとまなう会食も拒む人。
()
- 4 教室や仕事場など、室内でもかぶりものをとらない人。
()

註：1について、日本では特定の宗教を信仰していないことが一般的のようであるが、世界的には特定の宗教を信じて生活している人が一般的である。

問1：あなたの身近に、1～4の人がおられたら、どんなことに気をつけてあげるか？

場合によっては、クラスのルール、学校の校則、会社のルール、日本の法制度など、日本社会のシステムを変える必要も生じるのか。

とい
問2：あなたの気づきを書いておこう。

とい
問3：あなたにとって、異文化理解や多文化共生社会の言葉のイメージは、どんなイメージか。
アクティビティ実施前のイメージを書いておこう！

カード 1~3

() 年 () 組 氏名 ()

インドネシア人親子が、日本の大学に留学した夫とともに、E県で暮らすことになりました。

カード 1

Dちゃんは、中学校へ通うことになりました。Dちゃんの通う中学校は、毎日のお昼ご飯は給食です。Dちゃんはイスラーム教徒として安心して食べられる物を入れたお弁当を持っています。ところがしばらくすると、日本各地で、様々な国からの外国人労働者の食事を大切に、世界の食文化に寛容な国に日本はなるべきだ。まずはハラルフードが準備できることが大切だという考えが報道されたり、SNSなどでツイートされるようになったのです。日本の学校でも、イスラーム教徒の多い学校は、高額のコストがかかってもハラル認証をとった給食の方がいいの、議論になりました。このことは給食だけでなく、大学の食堂やレストランでも同じことが話題となっていました。

考察 1：ハラルフードを使った給食の導入について、あなたはどのように思いますか。

カード 2

Dちゃんは、中学校へ通うことになりました。Dちゃんは、最初は日本とインドネシアの学校の違いにとまどうこともありましたが、持ち前の明るさと人懐っこさで、乗り切ることができたように見えました。しかし何故か、月に1回、決まって水曜日に学校を休むのです。その日は、Dちゃんの学校では、校外清掃奉仕活動をLHRの時間に取り組んでいる日でした。全校生が熱心に清掃するので、近隣住民の方々からも、町がきれいになると、大変喜ばれている活動でした。次第にクラスメイトもDちゃんがいつも校外清掃奉仕活動の日にはいないことを気づき始めました。

考察 2：校外清掃奉仕活動の日、Dちゃんはどのようにして学校を休んでしまうのでしょうか。

カード3

Dちゃんは、中学校へ通うことになりました。Dちゃんは、普段からとても明るい性格で、そしてがんばって日本語も勉強し、日常会話がすぐにできるようになり、友達がたくさんできました。

ある日、Dちゃんと同じクラスに、イスラーム教徒のインドネシア人の女の子Sちゃんが転校してきました。彼女はまた日本語があまり話せないのので、Dちゃんが通訳してあげていました。2、3日経つと、クラスみんなからSちゃんは「教室の中では、帽子やかぶりものはいけないだよ。とりなよ!」と責められていました。敬虔なイスラーム教徒であるSちゃんは常にヒジャーブ*を巻いていました。

Dちゃんは、その様子に驚いてしまいましたが、転校生のイスラーム教徒のことをクラスのみんなにわかってもらいたかったので、まずは担任の先生に相談しました。そしてイスラーム教徒の服装について、Dちゃんが帰りの会でクラスみんなに説明したらどうかとアドバイスをうけ、その日のうちに実行したのです。

「私たちイスラームの女性は、戒律（イスラーム法）で、みだりに肌や髪を見せてはならないという決まりがあるから、各自がそれぞれに工夫した服装をしているの。神様との約束なのよ。日本の習慣とは異なって、ごめんなさい。でも、宗教のことはわかってほしいの。」クラスのみんなは、Dちゃんの熱い訴えに共感し、転校生のSちゃんにも「知らなかったんだ。熱心なイスラーム教徒だったんだね。」と理解を示してくれました。

Dちゃんは放課後、バレーボール部で汗を流し、帰宅しようとしたところ、友人から声をかけられました。彼女が言うには、帰りの会のDちゃんの説明はよくわかった。だけど、「正直、気を遣うのは面倒だよ。同じイスラーム教徒でもDちゃんがかぶりものをしていないから、バレーボールをしていても違和感がないのよ。（セリフ）。」

*ヒジャーブ：イスラーム教徒の女性が頭を覆うスカーフ。もともとはアラビア語で「覆うもの」を意味する名詞。

考察3：クラスの友達の「（セリフ）」を考えてみましょう。

（セリフ）

ワークシート②：(グループ学習時)共有記録カード

() 班 はん メンバー：

各カードの気づきをグループで出し合おう！ (細かな点も記入しておく)

カード1

カード2

カード3

○3枚のカードに共通する特徴などを書いておこう！

かい せつ

解説 カード1について

日本人は、イスラーム教徒は酒と豚肉が戒律（イスラーム法）で飲食することを禁じられているだけと誤解しがちである。どこまで飲食することが許されるかは、厳密に言えば、各自が判断して構わない。豚肉以外の肉であっても、牛肉や羊肉は屠殺の仕方や家畜に与えられたエサなども決まりがあり、どこまで守るかというのもイスラーム教徒によって異なる。調理器具も豚を調理したもので料理をすることを気にする人、気にしない人それぞれである。しかし、日本に来たからと言って、「郷に入れば、郷に従え。だからハラールにこだわらな！」というのは、イスラーム教徒を否定することになり、イスラーム教徒は日本で暮らせなくなってしまうことになる。

かい せつ

解説 カード2について

校外清掃奉仕活動のような行動は、仕事のない人がするものであり、頭ではわかっている、どうしても受け入れられない。

インドネシアでは、公共の場所などは、個人ではなく清掃業者や、普段仕事のない人（国によっては身分が低い人）が駄賃をもらって行うものであるという考えがある。毎日の教室の掃除も、本来であれば意に沿わないが、自分の家を掃除するように、使用した場所は掃除をするのが、日本では当たり前で、当番も決められているので、Dちゃんは仕方なく教室清掃はしていたようだ。しかし、校外清掃活動については、インドネシアと違いすぎて納得がいかなかった。そのため、どうしてもその日は学校へ行けなくなってしまった。

実際に、筆者が青年海外協力隊員時代、同期の青少年活動隊員に触発されて、インドネシアの道路（インドネシアはポイ捨て文化であり、道路・公共施設はゴミだらけのところが多かった。）の清掃活動を行ったが、そのボランティア活動はやめてほしいと言われた。それは、ゴミ清掃をする人の仕事を奪っているとも捉えられたようであった。

かい せつ

解説 カード3について

（セリフ）「Sちゃんも（例：Dちゃんみたいに、かぶりものをとれたらいいのに。）」

イスラームの戒律は人によってどこまで守るか決めていいとしても、各個人の信仰の在り方について、つい勝手に私たちは判断したり、相手が合わせてくれることを求めているだろうか。

クルアーン*第24章31節には、女性は親族以外の男性に自分の美を見せないよう、身体を覆うようにという記述がある。どのような衣装を身につければよいのかについては記載されていないことから、地域や時代ごとに多様な衣装が登場した。国によっては、西洋の影響で、思い思いの髪形をした洋装の女性も多く見られる。

*クルアーン：あるいはコーラン。イスラーム教（イスラーム）の聖典。

(生活編) 振り返りシート

() 年 () 組 氏名 ()

○ケーススタディで学んだことから、よりよい多文化共生社会へ向かうために、あなたなら次の質問にどう答えるか。

今後、多くの外国ルーツの人とともに暮らしていくことになっていく。言葉がわからなかったり、習慣が異なったりする人々もたくさんいる。多文化共生社会をめぐって、あなたにはどんなことができると思うか。

○アクティビティ後の多文化共生社会のイメージを再度書いてみよう！

(アクティビティの前後で、多文化共生社会に対するあなたのイメージは変化があっただろうか。)

おわりに

本アクティビティではイスラームの宗教の特徴を知るために、生活編から異文化理解につながるアプローチを行った。私たち日本社会が外国にルールを持つ人々（外国の方、外国人）など異なる文化の人々を排除するのではなく、お互いに譲り合い、折り合いをつけながら、共生への努力を積み重ねていくことが大切である。しかしその状況はなかなか自然には発生しにくい。本アクティビティのケーススタディにより、多文化共生を考える第一歩となれば幸いである。

そしてこれは日本人同士であっても、苦手意識のある人を無視するのではなく、共に生きる者として対話を重ね理解しようと、日々努力していくことが、多文化共生社会の実現に必要なのではないだろうか。異文化理解からアプローチした本アクティビティの試みが、他者理解そしてひいては自己理解へとつなげ、共に生活する空間の中で、自身の居心地の良さだけでなく、居心地の悪い思いをしている人のことも考えながら、一つひとつの課題を直視し、可能な限り克服に努力していき、多文化共生社会構築に向けて行動する姿勢を培いたい。

参考資料

<主要参考文献>

（多文化共生教育関連）

- ・ 上別府隆男「広島県福山市における外国人労働者の実態、役割と課題 ー多文化共生社会の実現に向けて」都市経営 No.11 (2019)、pp.01-13
- ・ 原沢伊都夫『グローバルな時代を生きるための 異文化理解入門』研究者2013年
- ・ 松尾知明『多文化共生のためのテキストブック』明石書店2011年

（イスラーム関連）

- ・ 飯山陽『イスラーム2.0 SNSが変えた1400年の宗教観』河出新書2019年
- ・ 小村明子『日本のイスラーム 歴史・宗教・文化を読み解く』朝日選書2019年
- ・ 小杉泰・小杉麻李亜『イスラームという生き方（上）（下）』NHK出版
ラジオ第2放送 NHK宗教の時間テキスト2017年4月～9月
- ・ 後藤明・山内昌之編『イスラームとは何か』新書館2003年
- ・ 笹川平和財団『アジアに生きるイスラーム』イースト・プレス2018年
- ・ 椿原敦子・黒田賢治『『サトコとナダ』から考えるイスラーム入門 イスラーム教徒の生活・文化・歴史』星海社新書2018年 p.110
- ・ 中田考監修 中田香織/下村佳州紀訳 「日垂対訳クルアーン〔付〕訳解と正統十読誦注解」
訳著 松山洋平 責任編集 黎明イスラーム学術・文化振興会 作品社2014年
- ・ 中田考・飯山陽『イスラームの論理と倫理』昌文社2020年
- ・ 中田考&天川まなる『ハサン中田考のマンガでわかるイスラーム入門』CYZO 2020年
- ・ ハスナ（日本人）『笑える 腹立つ イスラーム夫と共存中』飛鳥新社2018年
- ・ 内藤正典『となりのイスラーム 世界の3人に1人がイスラーム教徒になる時代』ミシマ社2016年

- ・ 認定特定非営利法人開発教育協会DEAR (Development Education Association and Resource Center)
『市民学習実践ハンドブック 教室と世界をつなぐ参加型学習30』 (2009年)
- ・ 独立行政法人国際協力機構『JICA地球ひろば国際理解教育実践資料集～世界を知ろう! 考えよう!』 (2013年)
(イスラーム関連)
- ・ 飯山陽『イスラーム教の論理』新潮新書2018年
- ・ 井筒俊彦『イスラーム生誕』中公文庫1990年
- ・ 井筒俊彦『イスラーム文化 その根柢にあるもの』岩波文庫1991年
- ・ 小川忠『インドネシア 多民族国家の模索』岩波新書1993年
- ・ 片倉もところ『イスラームの日常世界』岩波新書1991年
- ・ 小杉泰・黒田賢治・ニツ山達朗編『大学生・社会人のためのイスラーム講座』ナカニシヤ出版2018年
- ・ 坂本勉『イスラーム巡礼』岩波新書2000年
- ・ 鈴木規夫『日本人にとってイスラームとは何か』ちくま新書1998年
- ・ 内藤正典『イスラームから世界を見る』ちくまプリマー新書2012年
- ・ 内藤正典『イスラームからヨーロッパをみる ー社会の深層で何が起きているのか』
岩波新書2020年
- ・ 内藤正典・中田考『イスラームとの講話 文明の共存をめざして』集英社新書2016年
- ・ 中田考『イスラーム 生と死と聖戦』集英社新書2015年
- ・ 中田考『イスラーム入門 文明の共存を考えるための99の扉』集英社新書2017年
- ・ 中田考『イスラーム法とは何か?』作品社2015年

<主要参考URL>

- ・ 在留外国人統計2020年6月
(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20200&month=12040606&tclass1=000001060399>)
- ・ 外国人労働者アクセス 広島県の生産年齢人口と外国人労働者数 2020年10月末現在
(<https://gai-access.com/hiroshima/>)
- ・ 国際交流基金報告書「インターカルチュラル・シティと多文化共生」(2014年) p.18
(https://www.jpf.go.jp/j/publish/intel/intercultural_city/pdf/Intercultural%20City_j.pdf)
- ・ 井澤 和貴・上山 肇「東京23区における多文化共生政策に関する現状と課題についての一考察」
法政大学 地域イノベーション第10号 (2019年)
(<https://hurin.ws.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/20190425izakami.pdf>)
- ・ 木村光伸・佐伯奈津子・人見泰弘「外国人・難民問題にどう取り組むか」名古屋学院大学論集2018年
(http://www2.ngu.ac.jp/uri/syakai/pdf/syakai_vol5501_06.pdf)
- ・ **【実施報告】** 2020年度JICA中国 開発教育教員研修アドバンスコース フィールドワーク (広島県東広島市)
地域に根差した「広島イスラーム文化センター」
(<https://www.jica.go.jp/chugoku/topics/2020/ku57pq00000m80at.html>)

<参考URL>

- ・ 授業で使えるショート映像集 (アクティブラーニング教材) | プログラム紹介 - JICA地球ひろば
(<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/video/index.html>)
- ・ 「イスラーム」2017年度 開発教育教員研修 授業実践報告 広島県立安西高等学校 中須賀裕幸
(https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/video/jhqv8b0000007ktu-att/islam_yasunishi-h_houkoku_01.pdf)



「ハンセン病問題」から学ぶ

－排除や差別はどのようにつくられるのか、という構造を理解し、
自分自身の行動をえる－

はじめに

2020年、新型コロナウイルスの発生と世界中への感染拡大により、私たちの生活は大きく変化した。ウイルスに関しては未知の部分が多く、不安や恐怖を感じながらの生活が始まった。また、東京オリンピックをはじめとする多くのイベントや行事が中止または延期となり、外出の自粛や休校、リモートワークの推進など、私たちの生活には多くの規制がかけられた。これまで当たり前だった生活の大きな変化により、世界中の人々が不安やストレスを抱え生活している。

このような状況下で、新型コロナウイルスの感染者やその家族、身近な人への差別や偏見、誹謗中傷などの事例を多く目にした。日本では過去、ハンセン病患者に対して国をあげての隔離政策が行われ、ハンセン病に対する偏見や差別がつけられた、という悲しい事実がある。その偏見や差別は、今なお根強く残っている。過去のハンセン病問題の事例から、偏見や差別、排除がつけられる構造について理解し、現在の自分たちの生活を考えることで、コロナ禍の中でどう行動すればよいかを考えるきっかけにしたい。

教材の使い方・参加のルール

この教材には3つのアクティビティがある。アクティビティ2・3のみの実施でもよい。

全体のねらい

- ・不確かな情報、間違った認識が差別に変わることを知る。
- ・正しく理解し、正しく行動することの大切さを知る。
- ・差別や偏見をなくすために、自分たちにできることを考える。

学習計画（全3時間）

- (1) 「ハンセン病問題」から学ぶ
 1. 「なかまさがし」
 2. 「正しい判断・間違った判断」
 3. 「『ハンセン病問題』から学ぶ・考える」

教科・領域との関係

道徳、総合的な学習の時間、探究、特別活動等のなかで取り扱うことができる。

アクティビティ1 「なかまさがし」

無意識のうちに起こっている他者の排除に、体験を通してきづく
－排除や差別はどのように起こる？－

●概要

「なかまさがし」というアクティビティを行う。

●ねらい

- ・アクティビティを通して、無意識のうちに他者を排除している事実があることにきづく。
- ・排除や差別がどのように起こるのかにきづく。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

動物のシール（犬、猫、鳥など数種類を用意）（参加人数分）

●所要時間

45～50分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 【なかまさがし その1】</p> <p>これから、体を動かさず活動を行います。「なかまさがし」という活動です。私が出すテーマに基づいてなかまを探し、グループを作ってください。なかまが集まったら、輪になって座ってください。</p> <div data-bbox="181 880 376 922" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;"><p>テーマの例</p></div> <p>血液型、好きな教科、好きな季節、など…</p> <p>それでは、各グループに、それぞれどんな「なかま」で集まったのかを聞いてみましょう。</p> <p>2. 【なかまさがし その2】</p> <p>次は、1つルールを付け加えます。</p> <p>これからおしゃべりは一切禁止にします。</p> <p>言葉を使わず、お互いに協力し合って「なかまさがし」を行ってください。</p> <p>これから少し準備をしますので、目をつぶってください。</p> <p>（全員にシールを貼り終わったら）</p> <p>それでは、ここからは一切しゃべらずに、お互いに協力して、先ほどと同じように「なかまさがし」を行ってください。</p>	<ul style="list-style-type: none">・血液型などの簡単で選択肢の少ないテーマから、少しずつ個人の意見や考えが反映されるテーマにしていく。・なるべく、ひとりぼっちができないテーマを設定する。 ・それぞれのグループに、どういう「なかま」で集まったかを聞く。 ・生徒全員の背中に動物のシールを貼る。 人数に応じて、同じ種類の動物のシールが7～8人と3～4人と1～2人になるようにする。大人数のグループのシールは犬や猫などの動物にし、1～2人になるグループのシールは、珍しい動物のシールにする。

(動きが止まったら…)

それでは、やってみた感想を聞いてみましょう。

(人数の多いグループから…)

まず、このグループは、どんな「なかま」で集まりましたか。

どうやって「なかま」を見つけましたか？

さきほどの活動と、どのように違いましたか？

(すべてのグループに聞いた後に、人数の多いグループのメンバーに…)

自分の「なかま」が見つかったときは、どんな気持ちでしたか？

なかなか「なかま」が見つからない子がいたと思いますが、気がついていましたか？どう思いましたか？

自分たちの「なかま」に入れてあげようとは思いませんでしたか？

最初の「なかまさがし」は、答えを自分で選ぶことができましたが、今回の「なかまさがし」では、決められたシールによってグループわけが行われるので、自分で選択することができません。

2つの活動で、感じたことに違いはありましたか？

このゲームのルールを確認してみます。

ルールは2つ。「なかま」を探しグループをつくるということと、おしゃべりをしない、ということでした。

なので、全員でひとつの仲間になっても構わないのです。

このゲームでの自分の行動を振り返ってみてください。

自分の「なかま」を見つける一方で、知らず知らずのうちに誰かを排除していませんでしたか。

・人数の多いグループから聞いていく。

・もし、異なるシールの人が同じ「なかま」になっていても、間違いではない。その場合は、なぜそうしたのかを聞いてみる

<p>言葉を使うことができない、という不安の中で、「なかま」が見つかった時には安心感がありませんでしたか。</p> <p>一方で、なかなか「なかま」を見つけることができなかった友達がいる中で、自分には「なかま」がいることで安心して終わっていませんでしたか。</p> <p>知らず知らずのうちに誰かを排除していることが、日常生活の中でも起こっているかもしれないですね。</p>	
<p>ふり返り</p> <p>このアクティビティをやってみて感じたこと、気づいたことを書く。</p>	

アクティビティ2 「正しい判断・間違った判断」

あなたならどうする？－間違った判断が差別や排除、偏見を作り出す…－

●概要

新型コロナウイルスのような未知の病気が発見されたと想定し、その際に行うべき対策について考える。

●ねらい

- ・様々な視点に立って考えることで、正しく知って、正しく行動することの大切さに気づく。
- ・排除や差別を引き起こす背景にあるもの（病気への恐怖・不安など）に気づく。
- ・間違った知識、間違った政策が人々を不安にさせ、偏見や差別、排除を生む原因になることを知る。
- ・過去に起こった事実を知り、「ハンセン病問題」について様々な角度、様々な立場（社会的な構造、人間の心理など）から考えることによって、問題点を考察する。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

- ・模造紙：グループ数×3枚
- ・ふせん（大きめのもの）：1人10枚程度
- ・マーカー：各グループ数本
- ・「情報設定カード」（P69）：グループに1枚
- ・「対策案カード」（P70）：グループに1セット（予め切り離し、15枚で1セットにしておく）
- ・ワークシート①（P71～72）：参加者全員分

●所要時間

90～100分

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>4～5人のグループになって座る。</p> <p>1. この時間は、新型コロナウイルスのような未知の病気が発生した、という想定のもと、どのような対策を行うべきか、ということを考えていきます。</p> <p>（状況設定カードを配布）</p> <p>これから話をした内容は、グループごとに模造紙にまとめ、発表してもらいます。</p> <p>（対策案カード・ワークシート①「あなたならどうする？あなたの決断は？」を配布）</p> <p>ワークシート①「あなたならどうする？あなたの決断は？」には、この病気の感染拡大を防ぐために考えられたいくつかの対策が書かれています。まずは個人で、どの対策は行うべきか、またどの対策は行うべきではないかを考え、○△×で記入してください。</p> <p>また、「行うべきだと考える対策」と「行うべきではないと考える対策」からそれぞれ優先順位の高いもの3つを選び、その理由とともにワークシート①の裏面「理由記入シート」に記入しましょう。</p> <p>それでは次に、個人で考えたことをグループで話し合い、どの対策は行うべきか、またどの対策は行うべきではないか、グループとしての意見をまとめてください。また、それぞれ「行うべきだ」と考える理由、「行うべきではない」と考える理由を考え、ふせん紙に書き出してみよう。書き出したふせん紙は、同じような意見はまとめるなどして、模造紙に整理してみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前の時間に行った活動の振り返りを簡単に行う。 ・ グループで読み合わせを行い、情報や設定を確認する。 ・ グループで話をするので、自分にはなかった視点に気づいてほしい。 ・ 模造紙を2枚用意し、「行うべき対策」と「行うべきではない対策」に分ける。 ・ 対策案カードはそれぞれバラバラに切り離し、それぞれの模造紙の上に分けていく。

2. 次は、政治家としての立場ではなく、自分がこの病気に罹患した患者、またはその家族という立場で、もう一度それぞれの対策について考えてみましょう。

「行すべき」か「行すべきではない」か、考えが変わる対策はありますか。まずは個人で考え、ワークシート①の裏面の一番最後、「最後の質問」の欄に記入しましょう。

それでは次に、グループで意見を出し合い、先ほどと同じように、グループとしての意見をまとめてください。

考えが変わった対策はありますか。
それはなぜですか。

最後に、「最終的に行すべきではない」と考えた対策について、もしこの対策を行った場合、どんなことが起こると予想されるかを考え、挙げてみましょう。

まずは個人でふせん紙に書き出し、グループで意見を交流しましょう。そして、書き出したふせん紙は、同じような意見はまとめるなどして、模造紙に整理してみましょう。

- ・理由を書いたふせん紙は、同じような意見はグループにしてまとめ、模造紙に貼っていく。
- ・立場を変えてみることで気づくことがあったり、考えが変わったりすることがあることに気づく。

- ・グループごとに、考え方が変わった対策とその理由を発表させてもよい。

- ・間違った対策が、特定の人への差別や排除につながることで、また、人々に必要以上の恐怖心を植えつけ、それが偏見や差別を助長していくことに気づく。
- ・間違った情報は怖いこと、またその間違いに気づくことができないことが社会の差別を作ることに気づく。

状況設定カード

あなたは国を動かす政治家です。

あなたの国で未知の病気が発見されました。

どのように感染するかはまだよくわかっていませんが、人から人にうつる病気です。

治療法はまだみつかりません。薬やワクチンもありません。

この病気に感染すると、体の一部が変形したり、麻痺が残ったりするため、

すぐにその病気の感染者だとわかります。

国民は感染することを恐れ、とても不安になっています。

早急な対策が必要です。

また、早く対策を考えて動かないと、国内の問題だけにとどまらず、外交など様々なところで影響が出てしまいます。

あなたは、この病気の対策を任されることになりました。

今、このような対策をしてはどうか、という案が複数挙がっています。

どの対策は行うべきでしょうか。また、どの対策は行うべきではないでしょうか。

対策案カード

※予めバラバラに切り離しておく。

① 病気の感染が拡大しないように、感染者を指定の場所（病院など）に隔離する。

② 日本中の人に危機感を持ってもらうために、この病気は恐ろしい病気である、という情報を流す。

③ 家族間で感染するケースが多いので、まだはっきりと分かってはいないが、この病気は遺伝する病気である可能性が高い。よって、この病気にかかった人は結婚をしてもいいが、子どもは作ってはいけないという決まり（法律）をつくり、感染を抑える。

④ 行政や市民が一体となってこの病気の絶滅に協力するようにするために、この病気の感染者がゼロになった県を表彰し、県民一人一人に奨励金を支給する。

⑤ この病気に感染したら、必ず指定の場所に隔離できるように、法律を定める。
また、拒否をしたら懲役刑に処せられる。

⑥ 感染拡大を防ぐために、全国民に外出の際はマスクの着用を義務付け、手洗い・うがいの励行を呼びかける。

⑦ この病気を撲滅するために、一度この病気にかかった人は、たとえ病気が完治しても、一生隔離を続け、指定の場所からは出られないようにする。

⑧ 指定の場所に隔離した際、患者に、残された家族に迷惑がかからないように名前を変える（偽名を使う）ことを勧める。

⑨ 人と人との接触により感染が拡大するので、不要不急の外出を控えるように国民に求める。

⑩ 祭りや行事など多くの人が集まるイベントをすべて中止するよう、各自治体に要請する。

⑪ 飲食店や商業施設に対して、感染拡大を防ぐためにどのような対策を取るべきかの講習を行う。講習を受けたお店や施設は一般に公開し、なるべくそのお店や施設を利用するよう推奨する。

⑫ インターネット上や SNS 上で間違った情報が行き交わないよう、この病気に関する情報の書き込みを規制する。

⑬ 感染者が出た場合は、感染者の自宅や職場を、国が派遣した業者が徹底的に消毒し、感染拡大を防ぐ。

⑭ 個人の行動がチェックできるようなアプリを開発し、国民は全てそのアプリをダウンロードしなければならない。

⑮ この病気の感染者が出た際は、周囲に注意を呼び掛けるため、その感染者の個人情報や直近の行動履歴などを公開し、注意を呼びかける。

あなたならどうする？あなたの決断は？

以下に挙げられた対策で、『この対策は行うべきだ』と考えるものには“○”を『この対策は行うべきではない』と考えるものには“×”を、自分一人では判断しかねるものには“△”を記入しましょう。

対策案	あなたの意見	グループの意見
① 病気の感染が拡大しないように、感染者を指定の場所（病院など）に隔離する。		
② 日本中の人に危機感を持ってもらうために、この病気は恐ろしい病気である、という情報を流す。		
③ 家族間で感染するケースが多いので、まだはっきりと分かってはいないが、この病気は遺伝する病気である可能性が高い。よって、この病気にかかった人は結婚をしてもいいが、子どもは作ってはいけないという決まり（法律）をつくり、感染を抑える。		
④ 行政や市民が一体となってこの病気の絶滅に協力するようにするために、この病気の感染者がゼロになった県を表彰し、県民一人一人に奨励金を支給する。		
⑤ この病気に感染したら、必ず指定の場所に隔離できるように、法律を定める。また、拒否をしたら懲役刑に処せられる。		
⑥ 感染拡大を防ぐために、全国民に外出の際はマスクの着用を義務付け、手洗い・うがいの励行を呼びかける。		
⑦ この病気を撲滅するために、一度この病気にかかった人は、たとえ病気が完治しても、一生隔離を続け、指定の場所からは出られないようにする。		
⑧ 指定の場所に隔離した際、患者に、残された家族に迷惑がかからないように名前を変える（偽名を使う）ことを勧める。		
⑨ 人と人との接触により感染が拡大するので、不要不急の外出を控えるように国民に求める。		
⑩ 祭りや行事など多くの人が集まるイベントをすべて中止するよう、各自治体に要請する。		
⑪ 飲食店や商業施設に対して、感染拡大を防ぐためにどのような対策を取るべきかの講習を行う。講習を受けたお店や施設は一般に公開し、なるべくそのお店や施設を利用するよう推奨する。		
⑫ インターネット上や SNS 上で間違った情報が行き交わないよう、この病気に関する情報の書き込みを規制する。		
⑬ 感染者が出た場合は、感染者の自宅や職場を、国が派遣した業者が徹底的に消毒し、感染拡大を防ぐ。		
⑭ 個人の行動がチェックできるようなアプリを開発し、国民は全てそのアプリをダウンロードしなければならない。		
⑮ この病気の感染者が出た際は、周囲に注意を呼び掛けるため、その感染者の個人情報や直近の行動履歴などを公開し、注意を呼びかける。		

理由記入シート

☆『行うべきだ』、と考えた対策について、その中でも特に優先順位が高いと思うものを3つ選び、その理由を書いてください。

番号	理 由

☆『行うべきではない』、と考えた対策について、その中でも特に優先順位が高いと思うものを3つ選び、その理由を書いてください。

番号	理 由

☆最後の質問

番号	理 由

アクティビティ3 「『ハンセン病問題』から学ぶ・考える」

－正しく知り、正しく行動するために－

●概要

- ・「ハンセン病問題」から学ぶ。
- ・現在「新型コロナウイルス」の影響で実際に自分たちの周りで起こっていることについて考える。
- ・不確かな情報があふれている現代社会において、その情報が「正しい」かをきちんと見極めることの大切さに気づき、自分自身の行動につなげる。

●ねらい

- ・過去に起こった事実を知り、「ハンセン病問題」から問題点を考察する。
- ・排除や差別を引き起こす背景にあるものに気づく
- ・間違った知識、間違った政策が人々を不安にさせ、偏見や差別、排除を生む原因になることを知る。
- ・情報化社会において、たくさんの情報の中から「正しい情報」を得ることの大切さ、そして、「正しく知って、正しく行動する」ということの大切さに気づく。
- ・不確かな情報やうわさを発信・拡散することが、人々をさらに不安にさせ、偏見や差別、いじめを生む原因になることを知る。
- ・私たちの身近で起こりうる状況において、具体的にどのように考えて行動するべきかを想像する。。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

- ・模造紙：グループ数×2枚
- ・ふせん（大きめのもの）：1人10枚程度
- ・マーカー：各グループ数本
- ・資料①（P75～78）：全員分

●所要時間

90～100分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 【「ハンセン病問題」から考える】</p> <p>みなさんは、「ハンセン病」という病気を知っていますか。</p> <p>→資料①を全員に配布する</p> <p>（パワーポイントを使い説明しながら、資料①の空欄を埋めていく。）</p>	<ul style="list-style-type: none">・厚生労働省が発行している資料やDVDなどを利用できれば利用してもいい。・差別は国や人の手によってつくられるものであるということ、さらにそうやってつくられた差別は簡単には消せないということを確認する。 <p>*厚生労働省 （ハンセン病に関する情報ページ）</p>

<p>2. 【新型コロナウイルス感染拡大に関して実際に起こった事象から考える】</p> <p>これまでに考えてきたことを踏まえ、最後に「新型コロナウイルス」の感染拡大に関連して、私たちのすぐ身近で起こっていることについて考えていきましょう。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大に関して、「ハンセン病問題」と同じようなことが実際に起こっています。そうした報道をニュースや新聞などで見たことがある人はいませんか？</p> <p>（資料②「新型コロナウイルスに関して報道された事象の例①」を配布）</p> <p>事象例を配布し、新型コロナウイルスに関して実際に起こった差別的な事象について知り、ここにあげられている事柄以外のことについて知っていることを共有する。</p> <p>今配布した事例の中にも、差別や排除が起こっていると思いませんか？</p>	<p>https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/hansen/index.html</p> <p>*法務省「ハンセン病患者等に対する偏見や差別をなくしましょう」 http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00151.html</p> <p>・資料②の「報道された事象の例」を提示するが、最後に空欄をいくつか作っているので、生徒から事例が挙げれば追記する。</p>
<p>ふり返り</p> <p>学んだことを整理する。 （各自に白紙を配布、感想を記入する）</p> <p>最後に、前向きな事例を紹介する。 （資料③「新型コロナウイルスに関して報道された事象の例②」を配布）</p>	<p>・感想を発表しても良い</p> <p>・資料③も資料②と同じように、生徒から事例が挙げれば追記する。</p>

人間性を奪った「らい予防法」 — 人権侵害の歴史 —

～徹底した隔離が偏見・差別を拡大した～

・【7. 1950年】という法律が1996年までありました。
【7. 1950年】が、ハンセン病の方々を強制的に収容し、患者を家族と離れ離れにしました。
そして、原則、一生家族のもとには帰れないようにしました。
それを、【8. 終身】といいます。
単なる「隔離」ではなく、「終生」一生、「絶対」治っても出られない、という意味です。
憲法で保障されている「**基本的人権の尊重**」を完全に踏みにじていました。
つまり、憲法に違反していたのです。

・患者ができれば、【9. 隔離】も地域に住めなくなりました。
【9. 隔離】も患者と同じように差別されたのです。
つまり、【7. 1950年】が、「ハンセン病は怖い」という**差別・偏見を拡大させた**のです。

・強制収容されるということは、家族と離れ離れになる、ということです。
もちろんこれを拒む人もいましたが、収容されることや地域から出ていくことを拒むと、自宅に警察までやってきました。
強制的に連れていかれたのです。
こんな光景を見たら、誰でも「ハンセン病は怖い」と思います。

・こうして、**偏見・差別は【10. 1950年】**のです。

・【7. 1950年】は、回復者の方々の粘り強い運動によって、1996年にようやく廃止されました。
しかし、これで**人権侵害の歴史が消えたわけではありません**。

・さらに、ハンセン病患者が強制的に収容された療養所では、【11. 1950年】が行われていました。
療養所は「**病院**」です。なのに、治療ができるどころか、ハンセン病患者は【11. 1950年】までさせられていたのです。これにより、さらに病状は悪化しました。

・また、療養所では、家族と縁を切る、という意味で【12. 1950年】（ウソの名前）が強制されました。

・右の写真を見てください。
これは、長島愛生園の納骨堂です。どうして病院に納骨堂があるのでしょうか。
それは、「**生きて家族やふるさとに帰ることができない**」ことを意味しています。
長島愛生園には、約3700人ものお骨が納められています。



- ・また、【7. 】のもとでは、子どもをつくることは許されませんでした。だから、男性には断種をしました。

断種とは、子どもができないように男性の性器を手術することです。

女性が妊娠した際には、人工妊娠中絶（墮胎）を強制しました。

それは、お腹の赤ちゃんを無理やり取り出す、ということです。

取り出された赤ちゃんは、すぐに処理されました。つまり、殺されたのです。

その赤ちゃんは、ホルマリンに漬けられて標本にされました。

これは、国の、ハンセン病患者（回復者）の方々に対する“殺人”でした。
- ・療養所には、刑務所のような【13. 】が設置されていました。

窓には鉄格子、扉は鉄、その扉に頑丈な鍵。

療養所から逃げ出したり、医者や職員に逆らったりすると、ここに入れられました。

冬は寒く、食べ物も十分に与えられず、その中で餓死する人もいたそうです。
- ・1946年にハンセン病の特効薬「プロミン」が登場し、その後、新しい飲み薬も開発され、ハンセン病は適切な治療をすれば治る病気になっていきました。にもかかわらず、このような患者の強制収容が続けられたのです。
- ・このような人権侵害は、「基本的人権の尊重を保障する憲法に違反している！」「私たちは人間だ！」と、勇気を出して、国を相手に裁判を起こした人々がいました。

この裁判は、【14. 】と呼ばれました。

「人間らしく生きたい」「自分のため」「家族のためにも」という思いで闘われたのです。
- ・2001年5月11日、熊本地方裁判所は、「『らい予防法』は憲法違反の人権侵害の法である」と、原告（回復者）の方々の主張を全面的に認めました。

「『らい予防法』が『ハンセン病は怖い』という偏見・差別をつくり出し、拡大させた。そのせいで、患者は人権侵害を受けた。」と認定し、国が悪い、とその過ちを指摘しました。
- ・しかし、熊本裁判以降も、入所者や社会復帰者、その家族に対する偏見や差別は根強く残り、今でも続いています。

そのため、療養所の外で暮らすことに不安を感じ、安心して退所することができないという人もいます。

療養所に入所する際に、社会や家族と断絶させられており、療養所の外では頼る人がいない、という人もいます。
- ・高齢や後遺症、周囲の偏見などを乗り越えて、療養所を退所して社会復帰した人もいますが、その数は決して多いとはいえません。

療養所に入所したときに、家族に迷惑がかかることを心配して本名や戸籍を捨てた人もいるため、現在も故郷に帰ることなく、肉親との再会を果たせない人もいます。

療養所で亡くなった人の遺骨の多くが、実家のお墓に入れず、各療養所内の納骨堂に納められています。

資料① — 解答

- ・ 【1. 衛生】
- ・ 【2. 栄養】
- ・ 【3. 回復者】
- ・ 【4. 知覚麻痺】
- ・ 【5. 国の恥】
- ・ 【6. 恐怖心】
- ・ 【7. らい予防法】
- ・ 【8. 終生絶対隔離】
- ・ 【9. 家族】
- ・ 【10. つくられた】
- ・ 【11. 強制労働】
- ・ 【12. 偽名】
- ・ 【13. 監禁室】
- ・ 【14. 人間回復裁判】
- ・ 【15. 無関心】
- ・ 【16. つくられる】
- ・ 【17. 私たち自身】

新型コロナウイルスに関して 報道された事象の例①

1. 新型コロナウイルスに感染した人の名前や住所がインターネット上で公表され、誹謗・中傷を書き込まれたり、自宅に落書きをされたりした。
2. 学生が感染した大学に「感染した学生の住所を教えろ」といった内容の電話やメールが多数寄せられた。また、感染者が出た大学の学生が、アルバイトを解雇された。
3. 通所介護施設で、病院に勤務する医療従事者に対して、家族である親の施設利用を控えるよう求められた。
4. 病院に勤務する医療従事者が、保育園から、子どもの通園の自粛を求められた。また、タクシーに乗車を拒否されたり、飲食店から入店を拒否されたりした。
- 5.
- 6.
- 7.

新型コロナウイルスに関して 報道された事象の例②

1. 保育士さんが感染したため、しばらく休園となっていた保育園で、再開後しばらくして職員が保育園に出勤すると、子どもの字で「がんばれ ○○ほいくえん」と書かれた旗があった。誰からの贈り物か、わからないメッセージ。さまざまな不安から気が張り詰めていたという園長は、気持ちがほぐれ、思わず涙が流れたと話していた。
2. 常に感染のリスクを伴いながら作業を続けるごみ収集作業員に向けて、「危険がある中回収していただき感謝しています。」や「安全をお祈りしています。」などのメッセージがごみ袋につけられていた。それを見た作業員は「地域の皆さんの気遣いがありがたく、心温まる思いになりました。」と話していた。
3. 病床不足解消のため臨時休業中のホテルが、周囲の人に少しでも元気になってほしいという思いから、「日本ガンバロウ」と客室の明かりを点灯し、メッセージを映し出した。インターネット上には「こんなメッセージがなんかいいね。泣けるね。感動をありがとう。」などの書き込みが数多く寄せられた。
- 4.
- 5.
- 6.

参考資料①

『ハンセン病文学全集〈9〉俳句・川柳（皓星社）』 より 詩集『責め』（「責任」という意味）
ハンセン病回復者 中山秋夫さんの川柳

もういいかい
骨になっても
まあただよ

これは、ハンセン病回復者である中山秋夫さんの川柳です。

「もういいかい」

これは、先に亡くなった入所者の方が中山さんに問いかけています。

それに対して中山さんが、

「まだ世の中には偏見・差別が残っています。ごめんなさい。先に亡くなり、納骨堂にいるみなさんが、ふるさと・家族のもとに、なんのためらいもなく笑顔で帰ることができるように、生き残っている私たちが努力して、偏見や差別をなくします。もうしばらく待ってください。」

と返している川柳です。

つまり、世の中から偏見や差別をまだなくせていないことに対して、自分への責任と戒めを表している川柳です。

*中山秋夫さんは、1999年9月に岡山地裁にハンセン病違憲国賠訴訟を提起するに当たって、原告団長をされた方です。人権が侵害されている者は、自らの人権を守るために、「寝た子を起こしてでも、自らが立ち上がらなくてはいけない」と言い続け、訴訟の先頭に立ってこられました。

参考資料②

ハンセン病に対する差別の実例

実際に起こった差別の実例

- ホテルでの宿泊を拒否される
- 家族の結婚が破談になる
- 飲食店の予約が取れない
- 家族の就職ができない
- クリーニングを断られる
- 故郷に帰れない
- 路線バスへの乗車を拒否される

宿泊拒否事件（2003（平成15）年）

熊本のホテルで、ハンセン病療養所入所者の宿泊が拒否される、ということがありました。熊本県知事は記者会見で事実を明らかにし、人権侵害にあたるとして抗議しました。しかし、宿泊を拒否したホテル側は、今後も宿泊拒否の方針を変えないと主張しました。県は、「感染のおそれは無いと再三説明したが、受け入れてもらえなかった」として、熊本地方法務局に経緯を報告しました。宿泊を拒否したホテルの総支配人は「病気が伝染しないことが必ずしも世間すべてで認識されているとは限らない。ホテルのイメージダウンにつながる可能性もある」と話しました。

その後、ホテル側は一応の謝罪をしましたが、内容が不十分であったため、入所者側は謝罪を受け入れませんでした。

（ホテル側の謝罪：「このように世間を騒がせてしまって申し訳なかった」）

このことが報道されると、報道を見た人々から、入所者へ差別文書が殺到しました。

社会に残る差別意識を目の当たりにする出来事でした。

【入所者に届いた誹謗中傷のハガキの一部】

あんたらもいい加減にしなさい。
あなた方こそ社会にどう釈明しますか？
苦勞はしたかもしれませんが、だから？
気持ちが悪いのは事実です。
一緒に温泉に入りたいくはないです。
断ったホテルに拍手。
権利を騒ぎなさんな。
調子に乗らないの。

あホテルの処分が決まって
良かったですね。
でも、私は入所者の人達が
執拗に責める態度にあきれて
います。
今まで障害者はかわいそうな
人だから同情してたけど、
もう助ける気持ちもありません。
福祉に税金が使われるのが
無駄に思えてきました。
あなた達の活動がきっかけで…

おわりに

今回、ハンセン病問題について詳しく学んでいく中で、今からそう遠くはない過去にこのような国をあげての差別が起こっていたということ、そして今もなお、故郷に帰ることができず、苦しい思いをされている方がいることを知った。国によってつくられた差別のもと、当時の人々は異常なことを異常であると感じなくなり、排除することが正しいこと、と考えるようになっていた。今回、ハンセン病回復者の方々からお話を聞く機会があったが、彼らが今のコロナ禍での社会状況をみて、「当時と同じようなことが起こっている」と話されたのを聞き、過去のハンセン病問題から、差別がつくられた社会的な構造をきちんと知り、その上で自分たちがどう行動していかなければならないかを考える機会を作らなければならないと感じた。ハンセン病問題が起こっていた当時より、様々な情報が簡単に行き交う現代社会において、過去と同じような差別や排除が起こり、それにより悲しい思いをする人が出ないように、学んでいく必要があると強く感じた。私自身も学び続けていかなければならないと考えている。

参考文献

- ・厚生労働省『ハンセン病の向こう側』
- ・公益財団法人 日本財団『知ってほしい、ハンセン病のこと。』
- ・『在日朝鮮人ハンセン病回復者として生きた わが八十歳に乾杯』（金 泰九／牧歌舎）
- ・『生き抜いた！ハンセン病元患者の肖像と軌跡』（高波 淳／草風館）
- ・『ハンセン病文学全集〈9〉俳句・川柳』（大岡 信・田口 麦彦（編集）／皓星社）



異文化は私たちのすぐそばに

はじめに

私は昨年度JICAの教師海外研修に参加したことをきっかけに、世界や日本で起こっている様々な問題について学ぶようになった。その中でも特に気になったのが、難民申請者と技能実習生に関する問題である。私は、彼らが言葉も通じず文化もわからず「助けて欲しい。」「わからない。」と誰に言えばよいかすらわからない中に放り出されているように感じた。そして学んでいく内にわかったことは、難民申請者や技能実習生に限らず、自分らしく暮らし自分のやりたいことができる生活を送ることができていない人はたくさんいるということだった。それらの人達は、コミュニケーションをとれないためお互いに理解し合えないということや、自分ではコントロールできない様々な条件（見た目や国籍など）を理由に周囲から疎外されることを多く経験し、不安や苦痛を感じているように思った。

今回のアクティビティでは、このような不安や苦痛を取り除くために自分達にできることはないかということ、子ども達と一緒に考えることができたと思う。問題に関わる社会的な制度を今すぐに変えることは難しいが、自分達の地域にも住んでいるいろいろな人達も含めたすべての人が幸せに暮らせる社会にするため、今の自分の何を変えれば良いか、今の自分に何を付け加えれば良いかを考えることのできるアクティビティにしたい。

全体のねらい

多文化共生社会を実現するには、多様性を認め、様々な人が社会や組織に参加する機会を得ることを目指すと同時に、様々な人が社会参画しやすい体制や風土づくりをすることが重要であると考えます。

そのため今回の学習では、「お互いの文化を認め合う風土をつくるため、自分はどんなことができるか。」という面と、「様々な人（今回は外国人）が社会参画しやすい仕組みはどうすればできるか。」という2つの面から、多文化共生について考えていきたい。

学習計画（全3時間）

- (1) みんなの防災訓練
- (2) 住むならどこ？
- (3) 幸せのつくり方

教科・領域との関係

- ・ 特別の教科である道徳、特別活動。
- ・ 総合的な学習の時間や社会科、理科の時間などで防災に関する学習をした際に、関連付けて取り扱うことができる。

アクティビティ1「みんなの防災訓練」

●概要

「多文化共生」と聞いたとき、「自分とは関係の無い場所で起こること」「何か特別に外国語が上手な人がすること」といったイメージをもつ児童も多いのではないだろうか。しかし実際には、自分とは異なる文化を認め合い、対等な関係を築こうとしながら共に生きる、ということは自分達が日々行っていることにほかならない。自分と異なる文化をもつ人とは、外国人だけを指すのではなく友達など身近な人をも含むからである。

しかし実際には、「自分とは異なる文化をもつ人は、身近にたくさんいる。」という事には気づきにくく、自分の周囲にどんな人が住んでいるかということすらほとんど知らないことも多い。

アクティビティを通して、自分も含めてすべての人が安心して暮らすためにも、普段から交流してお互いの情報を正しく共有しておくことの大切さに気づかせたい。

●ねらい

習慣や文化が異なる人と共に生活するために、自分は実際にどのようなことができるかを考える。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

- ・ワークシート①（P89）：全員分
- ・地図①（情報が入っていないもの）（CD）：A3サイズに印刷
- ・地図②（情報入り）（CD）：A4サイズに印刷
- ・ポスター（カード）（CD）：A3の地図に乘せられる大きさに印刷 各2枚
（日本語、やさしい日本語、多言語・・・英語・中国語・韓国語）
- ・クイズ（P90）

●所要時間

45分

●用語の解説

- ・「防災訓練」と「防災練習」について

本アクティビティで使用するポスターでは、「防災訓練」と「防災練習」という言葉を使っている。「防災練習」とは、参考文献にある「伝えるウェブ」というサイトで「防災訓練」をやさしい日本語に変換したものである。

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. ワークシート①を全員に配布し、自分の考えを記入する。 「町内会のお知らせを読んで、自分の考えをワークシート①に書きましょう。」</p> <p>2. 地図①(情報の入っていないもの)とポスターのカード 3 種をグループに配布し、グループ内で相談して、地図上の掲示場所にポスターのカードを置く。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 4人グループで座る。・ 相談をせず、まずは自分の考えを書く。・ 1カ所に2枚まで貼って良いが、これは質問があれば答える。

<p>3. 地図②(情報入り地図)を各グループに配布し、追加情報をもとに、もう一度グループで考え、ポスターのカードを置き直す。</p> <p>「この町内にいる人の詳しい情報があります。(伝える) この人達はスムーズに避難できそうですか？」</p> <p>4. 各グループの考えを交流する。</p> <p>「どうしてこのポスターをここへ貼りましたか？」</p> <p>5. ワークシート①の「〇感想」に記入し、グループ内で感想を話し合う。</p> <p>「感想を話し合いましょう。」</p> <p>6. グループの代表者が感想を発表する。</p> <p>7. クイズを通して熊野町や広島県の現状を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ やさしい日本語のポスターと多言語のポスターについては、そこに貼った理由を聞く。 ・ 話合いの視点をあらかじめ伝えておく。 <ul style="list-style-type: none"> ①町にどんな人が居るかを把握すると言うことは、非常時に突然できることか？ ②いろいろな人に大切な情報を知らせるためには、普段からどのようなことをしておく必要があるか？ ・ 自分達の近くにも外国人が生活しており、自分達の生活を支える外国人労働者がいることに気づかせる。
<p>8. ふり返り</p> <p>「これから自分ができること」を考え、ワークシート①に記入する。</p> <p>「あなたには、どんなことができるでしょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の暮らしの中でできるつながり作りの大切さや自分の意識や行動を変化させることの重要性に気づかせたい。

●地図、カード見本 ※CD内のデータを印刷してください。

・地図①（情報が入っていない）



・地図②（情報入り）



・ポスター

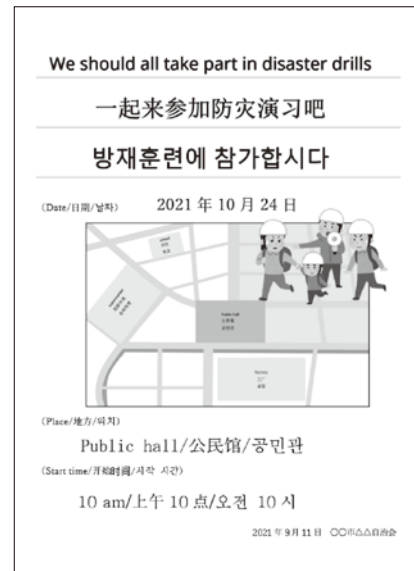
（日本語）



（やさしい日本語）



（多言語：英語・中国語・韓国）



ワークシート①

みんなの防災訓練

()年 ()組 氏名()

10月に町内会で避難訓練があります。そこであなたは、避難訓練を知らせるポスターの掲示を任せられました。町内には外国人も暮らしているようなので、A～Cのポスターが2枚ずつ（合計6枚）準備してあります。今日の会議では、町内にある5カ所の掲示板のうち、どこへのポスターを貼ると良いかをグループで相談して決めることになりました。



- A 日本語のポスター
- B やさしい日本語のポスター
- C いろいろな言葉のポスター

①	②	③	④	⑤

○感想

○これから自分ができること

○クイズ

<p>①熊野町の人口は約 2 万 3000 人です。では、熊野町には何人の外国人がいるでしょうか。</p>	<p>1. 20人くらい 2. 50人くらい 3. 100人以上 〈正解〉 3 210人</p>
<p>②熊野町では、どこ国の人が多く住んでいるでしょう。(児童から挙げた物を選択肢にする) ちなみに広島県内に住んでいる外国人の出身地で多いのは、アメリカ、インドネシア、韓国、タイ、台湾、中国、ネパール、フィリピン、ブラジル、ベトナムです。</p>	<p>〈正解〉 1位 ベトナム (72人) 2位 フィリピン (46人) 3位 中国 (35人)</p>
<p>③日本にいる外国人の人は、日本でどんなことをしているでしょう。次の中から、やっていると思う物に手を上げましょう。</p>	<p>(児童から挙げられなかった物を、5個選択肢として使う。) 経営者、お医者さん、不動産屋さん、漁業、農業、看護師、介護士、IT企業で働く、大工さん、造船、お笑い芸人、学生、アルバイト(留学生)、など 〈正解〉 全部</p>
<p>④広島県では、漁業関係の仕事に就いている外国人もたくさんいます。では、広島県の 20 代から 30 代の漁師さん、何人に 1 人が外国人の人でしょう。</p>	<p>1. 20人 2. 7人 3. 2人 〈正解〉 3. 2人に1人 漁に出たり養殖したりするだけでなく、牡蠣打ちをするための「打ち子」として働く人も多い。</p>

アクティビティ2「住むならどこ？」

●概要

私たちの周りには、さまざまな偏見や差別、不合理がある。現在の日本に存在する差別や偏見に気づくとともに、なぜ自分はそれに気づかなかったのか、これから自分は差別や偏見などにどう向き合っていくかを考える。

●ねらい

差別や搾取は、過去の問題・外国の問題ではなく、現代の私たちの身近でも起こっている問題であることに気づく。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

- ・各国の情報カード（CD）：A（①～⑤）、B（⑥～⑩）×グループ数（いずれもA5サイズに印刷）
- ・ワークシート②（CD）：全員分
- ・模造紙：グループ数分
- ・マジック：グループ数分
- ・パワーポイント資料（補足説明用）（CD）

●所要時間

90分

●用語の解説

- ・クビ（解雇）と雇い止め（技能実習生に関連）

「クビ」とは一般的に労働契約を会社の側が解除しようとする事。解雇の中でも普通解雇や懲戒解雇に限定してクビを使うケースもあり、それ以外はリストラという言葉で代替されることもある。いわゆる「解雇」に相当するが、「クビ」は口語的な言い方で一般的な会話で使われやすいものである。

「雇い止め」とは、契約社員などの有期雇用の従業員について、契約更新をせずに契約期間満了を理由に契約を終了させること。契約期間満了を理由とする雇い止めは原則的に違法ではないが、雇い止めの理由が不当な場合は無効になることもある。

- ・強制退去（難民認定申請者に関連）

法的には「退去強制」という言葉が使われている。日本が好ましくないとする外国人を行政手続きにより日本の領域外に強制的に退去させることを指す。「出入国管理及び難民認定法」第24条には、どのような人が日本社会において強制的に退去させられるべきとされているのか、列挙してある。

代表的なものとしては、①不法入国者 ②不法上陸者 ③偽造・変造文書を作成・提供した人 ④資格外活動者 ⑤不法残留者（オーバーステイ） ⑥刑事法令の違反者 ⑦売春関係業務の関係者 ⑧退去命令違反者、などが挙げられる。

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 全員にワークシート②を配布し、住みたい(○)か住みたくない(×)かに分ける。(個人) 「住みたいと思ったら○、住みたくないと思ったら×を書きましょう。」</p> <p>2. 情報カード A (①～⑤) を配布し、各自のワークシートをもとにグループで話し合う。 「どの国に住みたい人が多かったか、少なかったか、模造紙に置いてみましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5人グループで座る。 ・ 情報カードは一人1枚ずつ声に出して読む。それを聞きながら情報カードを、下図のように住みたい人が多いカードを左、少ないカードを右に置く。
<p>3. 情報カード B (⑥～⑩) を配布し、1,2. を繰り返す。</p> <p>4. カードを見ながら、自分達が「住みたい国」「住みたくない国」の特徴を考える。「つまりみんなは、どんな国なら住みたくて、どんな国には住みたくないのかな？」 例 安心できない 外国人に冷たい 差別がある など</p> <p>5. どの情報が日本に当てはまるのかを知る。 「日本に当てはまる情報はどれだと思う？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報AのカードはそのままでBのカードを置く。 ・ 各国の情報を読んで思いついた言葉や文の中に出てくるキーワードなどをもとに、「住みたい国」「住みたくない国」の特徴を模造紙に書く。1つの言葉に決める必要は無い。 ・ パワーポイント資料（補足説明用）、補足情報を参考に説明する。

<p>ふり返り</p> <p>6. ワークシート②の裏面欄を使い、個人でふり返りをする。</p> <p>7. グループ内でふり返りを共有。</p> <p>8. 全体でふり返りを共有。</p> <p>9. 次回の持参物について確認する。 「今日の活動で気づいたように、『これがあると自分は安心して暮らせない。』『自分が本当にやりたいことにチャレンジできない。』と思うようなことが現在の日本では起きています。これは安心して暮らすことやチャレンジを邪魔する問題じゃないかな?と思うことを、新聞で探してみましょう。」</p>	<p>ふり返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が「住みたくない」理由に選んだような状態が日本にはある。そのことについてどう考えるか。 ・自分が住んでいる国に差別や搾取があることに気づいていたか。どんなことから気づいていたか。また、なぜ気づかなかったのだろうか。 ・自分は自分の周りに差別や偏見があったときどんなことをしてきたか。 <p>・新聞記事の切り抜き（形式）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A4用紙1枚に貼り付ける。（増えても良い。） ・記事の掲載紙名、掲載日時を明記する。 ・本アクティビティを行う日からおよそ1年以内の記事を対象とする。 ・内容は、本アクティビティの情報にあったもの以外についてでもよい。 <p>・締め切りまでに提出されたものから教室内に掲示して、事前に子ども達を読めるようにする。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

・各国の情報カード見本（Aは①～⑤、Bは⑥～⑩） ※カード本体はCDから印刷してください

①私は、ある人種だからという理由で、家族も財産も自由もすべてをこの国の政府にうばわれました。大きな収容所に閉じ込められた私たちは人間としてあつかわれず、名前もあたたかい服もうばわれました。毎日重労働をしているのに食事はほとんど与えられず、さらには何の罪もない多くの仲間達が殺されました。

②すぐれた技術を学ぶために、借金をしてこの国にやって来ました。寮で生活していましたが、公の場で出会った人と会話してはいけないとか、とまりがけでどこかに行ってもいけないと言われていました。仕事を始めて3年目に「結婚したい。」と会社に伝えると、くびになりました。同じようにこの国へ働きに来た友達は、給料をなかなかはらってもらえなかったので苦情を言ったら雇い止めになりました。もう自分の国へ帰るしかありませんが、100万以上残った借金をどうやって返せばいいのか分かりません。

③私は自分の国で長年教師をしていましたが、政府の批判をしたために命をねらわれるようになりました。たまたま一番早くビザ（入国を許可するもの）を出してくれたので、言葉も分からず知り合いもないこの国に、1人で逃げてきました。この国にいられるように申請していますが、3年経ってもまだ結果が出ません。結果が出るまで収容されている施設では人間らしい生活すらできません。このままでは強制退去させられるのではないかと、毎日が不安です。

④ 私はこの国で大人向けの国民高等学校に入りました。全寮制で寮費や教科書代はかかりますが、どの国の人でも入れるし、授業料は無料です。この国では、1年以上滞在すれば個人番号が取得できるし、5年継続して住んだら永住権の資格が得られます。国籍や見た目の違いも受け入れてくれるので、自分が外国人って事をあまり感じないです。

⑤私の祖父母は昔この国に連れて来られて、この国の国籍を取りました。私や父はこの国で生まれ育ちましたが、いじめられないために本当の名前を隠し、この国の人と同じような名前を使っています。大学を卒業し、働くようになった今でも、私が他の国にルーツがあることは、ほとんどの友達に話していません。

⑥約60年前、私が10歳の時に病気であることが見つかりました。病気がうつってはいけなからと、橋すらかかっていない小さな島の施設へ送られました。私がその病気にかかったことが周りに知られると差別されるので、家に帰ったり家族に会ったりすることはできません。名前も変えられ、島から逃げさないようにお金も取り上げられました。死んでも島の中の共同のお墓に入られます。治療法はすでに見つっていますが、私が島から出ることは二度と無いでしょう。

⑦私は自分の国で大きな店を営んでいましたが、宗教上の問題で身の危険を感じこの国へ息子だけを連れて逃げてきました。この国では、私のように自分の国から逃げてきた人でも、申請すれば自治体や大企業などで語学学習を含む職業訓練に関するプログラムを受けることができます。あと2、3年がんばれば、この国で働くことができるだけの力を身に付けることができると思います。

⑧ここでは、この国に5年以上住んでいて、言葉に問題がなく、安定した仕事に就いているなどの条件をクリアすれば外国人でも国籍が取れます。ただ、すべての人が平等に扱われることを重視するので、義務教育の公立学校の児童・生徒や公務員は、キリスト教の十字架やイスラム教のヒジャブ、ユダヤ教のキツパなど宗教を意味する物を身に付けることはできません。

⑨私はこの国生まれ、この国育ちのハーフなのですが、ほとんど毎日お客さんに「どこの国の人?」「何語を話すの?」と聞かれます。幼稚園や学校にいたときも、わざわざ私を見に来たり見た目の違いを言いふらしたりする人がいて、人と会うのが怖くなりました。勉強やスポーツをがんばっても、「外国人だから当たり前。」と言われ、ほめてもらえませんでした。大好きなカフェで仕事をしていましたが、もう耐えられません。

⑩私は宣教師としてこの国に来ました。そのうち議院や議会の仕事に興味があったのでこの国の国籍を取り、国会議員になりました。私のような外国人が国会議員になることで、その国の人になかなか気づかないことを見つけたり、新しいことを起こしたりすることができると思います。

・パワーポイント資料（補足説明用）見本 ※データ本体はCDからダウンロードして下さい

技能実習生

技能実習生とは？

「技能実習」 人に日本の技術を伝えて、帰国後、に技術を役立ててもらおうための制度

「技能実習生」 人

技能実習生の現状

- 身につかない
- 守られない
- が払われない、

なんみん にんてい しんせいしや
難民認定申請者

難民とは？

宗教や人種といった理由の迫害や紛争によって、他の国に逃れなければならない人々のこと

難民申請者の現状

- 難民と認めてもらえない

難民申請者の現状

- 申請までの生活
- のような収容施設で待つ
- 申請が通るまでの期間
- かかった人もいる

在日コリアン

在日コリアンとは

日本 朝鮮半島・台湾を植民地支配

日本人にしよう

差別や偏見

在日コリアンの現状

未だに続く差別や偏見

- 登下校中に胸や衣服を引っ張られる
- 「(差別が)嫌なら国へ帰れ」と言われる
- 学校への脅迫、嫌がらせ
- ヘイトスピーチ
- 入居をいやがられる
- アルバイトや就職ができない

ハンセン病回復者

ハンセン病とは

・家

・感染

偏見
誤解
差別

- らい菌による感染症
- 感染力がとも弱い
- 今の日本ではほぼ発病しない
- かかっても薬で治る

ハンセン病患者の療養所 (岡山県長島厚生園)

- 患者は全員が入所(島から出られない)
- 治療
- 名前を変える
- 療養所だけで使えるお金
- 手術
- 作業をしてお金をかせぐ
- 治ると退所して社会復帰

ハンセン病回復者や家族の現状

奪われた物 もどってきた物

- 自由
- 権利
- 名前
- 家族、子ども
- ふるさと

ハンセン病回復者や家族の現状

全国の療養所

入所者	約1090人
平均年齢	約86.3歳
平均入所期間	60年

マイクロアグレッション

マイクロアグレッションとは

差別したり傷つけたりする意図がないのに、相手の心に影を落とす発言をしてしまうこと。

外国人議員

どうして議員に？

日本国籍を取れば(帰化)	再入/ミゼン
在籍権限	(ボリビア出身)
よきさん(インド出身) 「外国人と日本人が理解し合い、生活しやすい社会を目指す。そのための活動をする。」	「日本人も外国人もお互いの立場が近くいろいろな問題がある。その解決に取り組みたい。」
ビアンキ・アンソニー・スー (アメリカ出身) 「所属のために働くのであれば、外国人が日本人から理解できない。」	ツルネン・マルティン (フィンランド出身) 「日本人がなかなか気づかないことに気づき、新しいことを起こして進歩につなげるという役目がある。」

住むならどこ？

() 年 () 組 氏名 ()

【情報A】

①	私は、ある人種だからという理由で、家族も財産も自由もすべてをこの国の政府にうばわれました。大きな収容所に閉じ込められた私たちは人間としてあつかわれず、名前もあたたかい服もうばわれました。毎日重労働をしているのに食事はほとんど与えられず、さらには何の罪もない多くの仲間達が殺されました。
②	すぐれた技術を学ぶために、借金をしてこの国にやってきました。寮で生活していましたが、公の場で出会った人と会話してはいけないとか、とまりがけでどこかに行ってはいけないと言われていました。仕事を始めて3年目に「結婚したい。」と会社に伝えると、くびになりました。同じようにこの国へ働きに来た友達は、給料をなかなかはらってもらえなかったので苦情を言ったら雇い止めにあいました。もう自分の国へ帰るしかありませんが、100万以上残った借金をどうやって返せばいいのかわかりません。
③	私は自分の国で長年教師をしていましたが、政府の批判をしたために命をねらわれるようになりました。たまたま一番早くビザ（入国を許可するもの）を出してくれたので、言葉も分からず知り合いもないこの国に、1人で逃げてきました。この国にいられるように申請していますが、3年経ってもまだ結果が出ません。結果が出るまで収容されている施設では人間らしい生活すらできません。このままでは強制退去させられるのではないかと、毎日が不安です。
④	私はこの国で大人向けの国民高等学校に入りました。全寮制で寮費や教科書代はかかりますが、どの国の人でも入れるし、授業料は無料です。この国では、1年以上滞在すれば個人番号が取得できるし、5年継続して住んだら永住権の資格が得られます。国籍や見た目の違いも受け入れてくれるので、自分が外国人って事をあまり感じないです。
⑤	私の祖父母は昔この国に連れて来られて、この国の国籍を取りました。私や父はこの国で生まれ育ちましたが、いじめられないために本当の名前を隠し、この国の人と同じような名前を使っています。大学を卒業し、働くようになった今でも、私が他の国にルーツがあることは、ほとんどの友達に話していません。

【情報B】

⑥	約60年前、私が10歳の時に病気であることが見つかりました。病気がうつってはいけなからと、橋すらかかっている小さな島の施設へ送られました。私がその病気にかかったことが周りに知られると差別されるので、家に帰ったり家族に会ったりすることはできません。名前も変えられ、島から逃げ出さないようにお金も取り上げられました。死んでも島の中の共同のお墓に入れられます。治療法はすでに見つかりかけていますが、私が島から出ることは二度と無いでしょう。
⑦	私は自分の国で大きな店を営んでいましたが、宗教上の問題で身の危険を感じこの国へ息子だけを連れて逃げてきました。この国では、私のように自分の国から逃げてきた人でも、申請すれば自治体や大企業などで語学学習を含む職業訓練に関するプログラムを受けることができます。あと2、3年がんばれば、この国で働くことができるだけの力を身に付けることができると思います。
⑧	ここでは、この国に5年以上住んでいて、言葉に問題がなく、安定した仕事に就いているなどの条件をクリアすれば外国人でも国籍が取れます。ただ、すべての人が平等に扱われることを重視するので、義務教育の公立学校の児童・生徒や公務員は、キリスト教の十字架やイスラム教のヒジャブ、ユダヤ教のキツパなど宗教を意味する物を身に付けることはできません。
⑨	私はこの国生まれ、この国育ちのハーフなのですが、ほとんど毎日お客さんに「どこの国の人？」「何語を話すの？」と聞かれます。幼稚園や学校にいたときも、わざわざ私を見に来たり見た目の違いを言いふらしたりする人がいて、人と会うのが怖くなりました。勉強やスポーツをがんばっても、「外国人だから当たり前。」と言われ、ほめてもらえません。大好きなカフェで仕事をしていましたが、もう耐えられません。
⑩	私は宣教師としてこの国に来ました。そのうち議院や国会の仕事に興味があったのでこの国の国籍を取り、国会議員になりました。私のような外国人が国会議員になることで、その国の人がなかなか気づかないことを見つかったり、新しいことを起こしたりすることができると思います。

ふり返り

●資料・解説

○補足情報：すべての情報を伝えるのではなく、対象の状態に応じて必要なことを補足説明する。

A ②	技能実習生	<p>ベトナムの場合は80～100万円を送り出し機関に支払うことが多い。ベトナムの一般的な年収が20～30万であることを考えると、かなりの高額な借金を背負っての来日となる。また、母国での準備期間中と来日後の座学の期間に日本語を学習するが、日本語でコミュニケーションをとることに不安を感じている人が多い。</p> <p>問題が起こる原因の一つは、企業が「安定した安い労働力の供給」を求めていることではないかと推測される。実習生受入れ後、社内で組織的に研修を行う余裕のある企業であれば技能実習という制度が生かされる場合もあるが、広島県で多く見られるような小さな事業所（特に農業や漁業）では、研修を行う人材や時間の確保などの負担が大きく、実習生受入れ後の研修が十分とは言えない事業所もある。そのため日本で研修をしているにも関わらず、日本語でのコミュニケーションに不安を抱えている実習生は多い。また、実習生が借金を背負っていてなかなか辞められないことや、日本語がうまく話せず訴えられなかったりするのをいいことに、労働者の人権や制度の理念を無視した事件が多く起きている。</p> <p>①実習生なので技術の習得が計画通りに成されなければならないが、実際には単純作業ばかりさせられる。実習先を勝手に変えられ、苦情を言うときびになる。</p> <p>②「結婚した」「けんかをした」「仕事が減った」などの理由により、一方的に解雇される。妊娠については本来、解雇の理由にならないが実習生自身もそれを知らなかったり、「妊娠したら解雇」という書類に承諾のサインをさせている事業所があったりもする。</p> <p>③契約よりも賃金が低い、賃金未払いなど正当な給与が支払われないことが多い。などが多く報道されている。</p>
--------	-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>A ④</p>	<p>難民認定申請者</p>	<p>宗教や人種といった理由の迫害や紛争によって生命を脅かされ、他国へ逃れなければならなかった人々のこと。命を失わないためにそれ以外のすべてを捨てて逃げてくること。</p> <p>【失う物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お金では買えないもの…家族、ペット、友達 ・ アイデンティティ……身分や職業 ・ お金で買える物……財産や持ち物 <p>日本で暮らす難民 13,492人 (内 インドシナ難民 9,836人) 難民認定申請者 10,375人 難民認定取得者 44人 (全体の0.4%)</p> <p style="text-align: right;">※すべて2019年現在</p> <p>日本では、①就労目的による難民認定申請を防ぐため②「難民」に当てはまるかどうかという認定基準が狭い、という二つの理由で、難民認定がとても厳しい。</p> <p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権が守られない収容施設 <p>刑務所のような施設。仕事も外出もできない。「窓に鉄格子のある部屋に5、6人が入れられた。」「毛布や枕も洗濯されておらずシャワーも週に2、3回。トイレは室内で腰だけ隠れるようにして洋式便所があった。」という施設に子どもと一緒に収容された人も。病気のケアも不十分。仮放免には保証人や保証金が必要だが、難民の場合は無理。無期限収容が可能で、5年間収容された人も居る。この処遇にハンガーストライキで抗議して、亡くなった難民もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難民申請が難しい (迫害されていることへの証明書類100枚という例も) ・ 難民認定されることが非常に難しい ・ 難民認定までに時間がかかる (申請→不認定→異議申し立て→不認定→行政訴訟→認定、という流れに10年かかった人も。10年経っても認定されていない人もいる。平均で2年。) ・ 入管施設への長期収容
<p>A ⑤</p>	<p>在日コリアン</p>	<p>日本が1910年から第二次世界大戦終了まで植民地として支配していた朝鮮半島から日本に来て (強制連行または自主的に)、日本で生活するようになった人達とその子孫。</p> <p>日本はこれらの人達を日本人化するため名前を日本風に変えさせ (創氏改名) たり、強制連行して日本兵として戦地へ送ったり、劣悪な労働環境で働かせたりした。</p> <p>終戦後は朝鮮へ帰らず日本で生活することを選んだ人達も多かった (持ち帰れるお金が少なく設定された・政情不安・災害などの理由による) が、GHQにより占領秩序の重大な阻害要因とみなされた在日コリアンは、今度は「外国人」として管理されることとなった。新しい憲法の下では、生活保護は基本的に外国人である在日コリアンには適用されないなど、貧困と差別という二重に苦しい生活を強いられた。</p> <p>今では日本生まれ日本育ちの四世、五世が増えたが、未だに差別や偏見にさらされており、本来の名前を使わず自分のルーツを明らかにしていない人も多い。</p>

<p>B ⑥</p>	<p>ハンセン病 (患者、回復者、家族)</p>	<p>「らい菌」による感染症。感染力が非常に弱く、今の日本ではほとんど発病しない。</p> <p>今から90年程前の日本では、このハンセン病が「家族に遺伝する」「感染力がとても強い」と誤解されていて、感染を防ぐために患者全員を療養所に閉じ込めた。</p> <p>【奪われたもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由（就職、勉強、住居、移動など）・・・強制収容、逃げ出したら重監房へ ・権利（裁判を受ける、教育を受ける、人間らしく生活する、など。） ・子ども（断種手術） ・名前（偽名による生活） ・家族（家族の死も知らされない、葬儀に出席できない） ・故郷 <p>（患者の家族）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由（就職、結婚、住居など） ・平穏な生活 ・故郷（共同井戸を使えない、物を売ってもらえないなどの村八分） ・家族のつながり <p>簡単にはうつらない、治る病気だということが分かり、特効薬ができてからも、約60年間は「ハンセン病は恐ろしい病気だから絶対隔離」という政策のまま放置。このように、ハンセン病を予防するという法律があることで、ハンセン病患者や家族への根強い差別や社会の仕組みができてしまった。ハンセン病回復者やその家族の苦しみも無視され忘れられようとしている。</p> <p>未だに故郷に帰れない人、回復者だと言えない人がいるほど、これまで行われた差別は苛烈で私たち一般市民の偏見や差別意識は根深い。</p>
<p>B ⑨</p>	<p>見た目による差別、マイクロアグレッション</p>	<p>相手を差別したり傷つけたりする意図がないのに、相手の心に影をおとす発言をしてしまうこと。小さな攻撃性とも言われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒人はダンスがうまい ・君は日本人っぽくなくて大胆な考え方をしているね！ ・何年も日本に住んでいるのに「日本語が上手だね」と伝える <p>差別とちがっているのは「考えすぎ!」「きにしなけりゃいい」と言われがちであることで、まったく気にならない人もいる。しかし何年経っても「自分はよそ者」と思わされることが続くと、疎外感に苛まれ、自尊心が喪失していく。</p>

<p>B ⑩</p>	<p>外国人の地方政治・国政への参加</p>	<p>外国人のために議員になったのではなく、外国人も日本人も安定して生活することのできる社会を目指して議員になった人が多い。</p> <p>・よぎ（プラニク・ヨゲンドラ）氏 インド出身、日本在住歴20年。東京・江戸川区区会議員当選 「外国人と日本人双方の意見を聞き、お互いを近づけて理解し合い、偏見を減らし、生活しやすい社会を目指す。その為の仕組みを考えたい。」</p> <p>・ピアンキ・アンソニー氏 アメリカ・ニューヨーク出身 愛知県犬山市 市議会議員 現在5期目。2017年から2年間議会の議長を務めた。 「市民のために働くのであれば外国人か日本人かは関係ない。」</p> <p>・井上ノミエ氏 ポリビア出身。東京・墨田区区議会議員。現在3期目。 「女性の地位が低い。日本に住む外国人女性もいろいろな問題を抱えていて、解決に取り組みたいと思った。」</p> <p>・ツルネン・マルテイ氏 フィンランド出身。元神奈川県湯河原町町議員、元参議院議員。 「彼らには外から見た人の目、日本人がなかなか気づかないこと、新しい進歩を起こすための役割がある。」</p> <p style="text-align: right;">※すべて2019年現在</p>
----------------	------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

アクティビティ3 「幸せのつくり方」

●概要

差別をうけたり不合理な目に遭ったりするのは被害を受けた人に原因があるからではない。私たちひとり一人の感じ方や社会の仕組みの歪みが原因で、この歪みが存在し続ける以上いつ誰が被害を受ける側になってもおかしくない。この先歪みにはまり込むことがあれば、差別されたり不合理に耐えなくてはならなくなるのは自分であること、または自分が誰かを差別したり不合理を押しつかけたりするようになるかもしれないことを意識させ、そうならないために自分には何ができるのかを考えさせたい。

●ねらい

人が幸せに生きられない原因を考え、自分も他の人も幸せに生きることのできる社会をつくるためには何ができるのかを考える。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

- ・ 模造紙：グループ数分
- ・ マジック：グループ数分
- ・ ふせん（黄赤青の3色）
- ・ ワークシート③（CD）
- ・ 新聞の切り抜き（アクティビティ2の後で用意したもの・児童作成）

●所要時間

90分

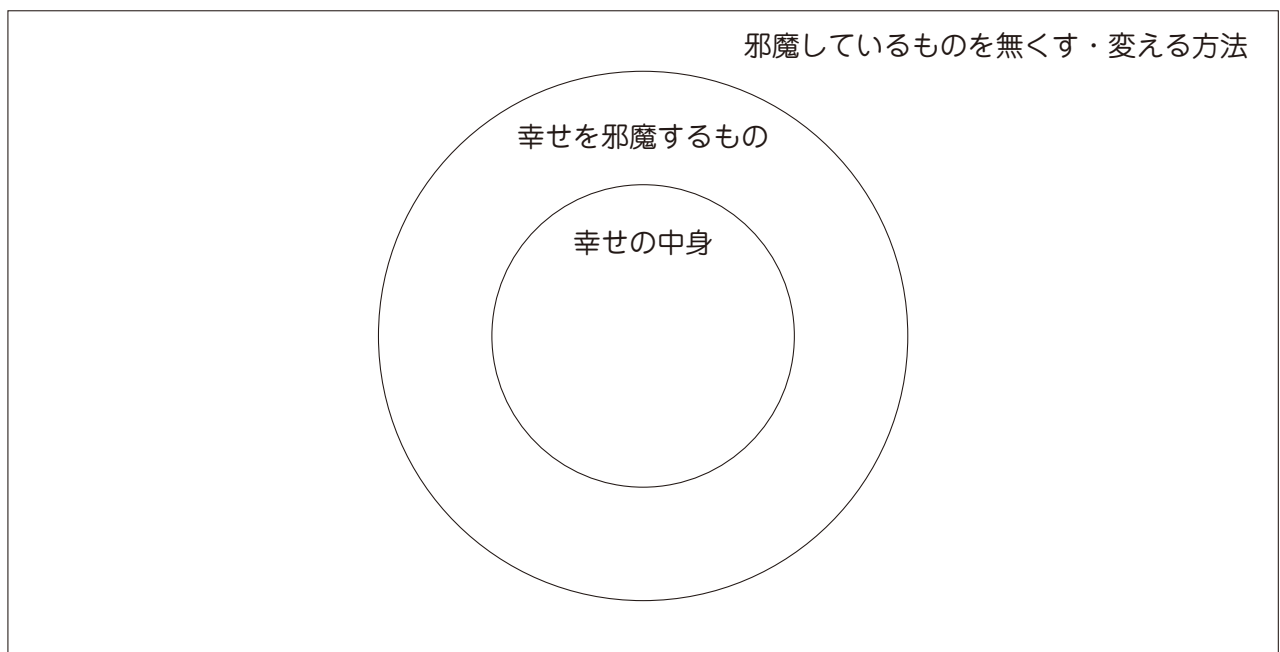
●用語の解説

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>すべての人が願う『幸せ』とは、どんな状態や何ができることなのかを考える。</p> <p>1. ふせんを見せ合い、「誰が」「どうなること」「どんな状態」「何ができること」を幸せと考えているのが曖昧なところは、質問し合い具体的ににする。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 4人グループで座る。・ 黄色のふせんにできるだけたくさん書く。（相談無しの個人作業）・ 新聞記事の切り抜きを参考にする。なぜその新聞記事を選んだのか、何が自分にとって問題だと感じたのかを話し合えると良い。 <p>（例）</p> <p>お金をたくさん稼げる →故郷の家族に送金できる。国で家を建てる。 家族の生活が少し楽になる。</p>

<p>2. ふせんを模造紙の中心円内に貼る。並べて貼れない場合は、同じような物は重ねて貼る。</p> <p>3. それぞれのふせんを短く表す言葉を考え、ふせんのそばに書く。</p> <p>4. グループの代表者が残り、他の人は時計回りに他のグループの考えを見る。代表者は説明したり、質問に答えたりする。</p> <p>5. 幸せになることを妨げている物は何かを考える。そのうち最も幸せを邪魔すると考えられるものを3つ選んでワークシートに記入する。 「幸せになることを邪魔しているのは、何でしょう。」</p> <p>6. 邪魔しているものは、どうしたら無くしたり変えたりできるかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふせんを4枚程度並べられる大きさの円を、模造紙に書いておく。 ・ 「安心して暮らせる」「人間らしく生きられる」「命の危険を感じない」など ・ 1グループにつき2分程度。 ・ 赤いふせんに書き、中心円の周囲に貼る。対応する内容のそばに貼る。 ・ 青いふせんに書いて一番外側に貼る。対応する内容のそばに貼る。
<p>ふり返り</p> <p>7. 自分にできることは何かを考え、ワークシートに記入する。</p>	<p>ふり返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分を含むすべての人にとって幸せになることを妨げる（現在妨げている・将来妨げる可能性が高い）ものは何だと思うか。 ・ 自分は何ができるか、何がしたいか。

○模造紙の見本



幸せのつくり方		名前
幸せを邪魔するもの		
ふり返り		

おわりに

今回、自分達の身近にいる異文化をもつ人に焦点を当てて学習プログラムを考えた。このアクティビティを作成する中で、「異文化をもつ人」とは外国人ばかりを指すのではなく自分とは異なる文化をもつ人を指すものであり、深く掘り下げれば友達や家族、同僚などもその範囲に入ると考えるようになった。だからこそ子ども達にはこのアクティビティを通して、多文化共生とは「自分が大人になってからやること」でも「外国人と接するときにやること」でもなく、普段の自分の暮らしの中で取り組んでいくことであると感じてほしいと思う。また、今回アクティビティで取り上げたものの中には、今の日本で起こっていることであるにも関わらず私がこれまで知らなかったことが多く含まれている。調べごとに「なぜこのようなことが起きたのか?」「なぜ苦しみが続いているのか?」「自分に何ができるのか?」と疑問ばかりが募った。今回のアクティビティでは一つ一つの問題について詳しく知ることはできないが、子ども達が筆者と同じように「もっと知りたい。」「もっと他にも問題はあのではないか?」「どうして今まで知らなかったのか?」と思うきっかけにはなるのではないかと思う。これからも、いろいろな子ども達と一緒にこのアクティビティをする中で、私自身も考えを深めていきたいと思う。

参考資料

(アクティビティ1)

- ・一般財団法人 日本語教育振興協会「日本語教育機関の概況」(参照 2021-2-19)
<https://www.nisshinkyō.org/article/pdf/20210216s.gaikyo.pdf>
- ・一般財団法人 自治体国際化協会「災害時多言語表示シート」 <http://dis.clair.or.jp/>
- ・伝えるウェブ <https://tsutaeru.cloud/>
- ・地域人口関連統計図表の収納庫
「熊野町」<http://pop-obay.sakura.ne.jp/figures/figures34307.html#FR0010> (参照 2021-01-15)
「広島県」<http://pop-obay.sakura.ne.jp/figures/figures34000.html#FR0010> (参照 2021-01-15)
- ・NHK 外国人“依存”ニッポン「“外資系”になった漁業 半数が外国人の現場では」
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/izon/20180302fishery.html>
- ・NHK 外国人“依存”ニッポン「野菜も魚も“消える”!?外国人が支える日本」
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/izon/20181205prologue.html>
- ・県内企業 外国人材雇用実態調査 報告書(令和2年3月版)

(アクティビティ2:「各国の情報カード」)

- A②
- ・NHK 外国人“依存”ニッポン
「『結婚するなら、雇い続けることはできない』技能実習生の苦悩」
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/izon/20190527dame.html>
 - ・外国人労働者 アクセス「外国人労働者ニュース」
<https://gai-access.com/custom/category/%e3%83%8b%e3%83%a5%e3%83%bc%e3%82%b9/>
 - ・厚生労働省 広島労働局「外国人雇用状況の届出状況(令和2年10月末現在)」
 - ・広島県「外国人材就労意識調査 報告書」(令和2年3月)
 - ・違い.site 「『クビ』と『解雇』の違い・意味と使い方・使い分け」<https://chigai.site/2171/>
- A③
- ・出入国在留管理庁「難民認定制度に関する検討結果(最終報告)」
 - ・認定NPO難民支援協会「日本にいる難民のQ&A」
 - ・認定NPI難民支援協会「難民支援協会 2019年度 年次報告書」
 - ・認定NPO難民支援協会「日本にいる難民の話」
<https://www.refugee.or.jp/story/case1.shtml>
 - ・認定NPO難民支援協会「スリランカへの一斉送還(2016年9月22日)に対する抗議声明」
<https://www.refugee.or.jp/jar/report/announce/2016/10/06-0000.shtml>
- A④
- ・朝日新聞 GLOBE+
「『私たちが外国人と感じさせない社会』スウェーデン移住13年目の日本人一家」
<https://globe.asahi.com/article/14069226>
- A⑤
- ・朝日新聞 GLOBE+
「ルーツ在日、国籍は日本の私 両方に壁を感じながら、多文化を生きる」
<https://globe.asahi.com/article/14048822>
 - ・在日コリアン青年連合「在日コリアンにとっての名前」<https://www.key-j.net/keyword-name>
 - ・川崎医療福祉学会誌 Vol.24 No.2 2015 129-145
「戦後日本における外国人政策と在日コリアンの社会運動」竹中理香
- B⑥
- ・「ハンセン病政策と『社会復帰』」川崎愛
 - ・厚生労働省 「ハンセン病問題に関する検証会議最終報告書
(別冊)ハンセン病問題に関する被害実態調査報告」

- B⑦ ・ 認定NPO法人 難民支援協会
「ドイツはなぜ難民を受入れるのか？政治的リーダーシップと強靱な市民社会」
<https://www.refugee.or.jp/jar/report/2016/08/26-0000.shtml>
- B⑨ ・ NHK 外国人“依存”ニッポン 「『外国にルーツがあるの？』私が毎日聞かれること」
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/izon/20190726watashi.html>
- ・ じんぶん堂「曖昧で漠然とした、認識しづらい差別と偏見ーいま注目される差別概念マイクロアグレッションとは何か」<https://book.asahi.com/jinbun/article/14049895>
 - ・ IDEAS FOR GOOD 社会をもっとよくする世界のアイデアマガジン
「マイクロアグレッションとは・意味」<https://ideasforgood.jp/glossary/micro-aggression/>
- B⑩ ・ NHK 外国人“依存”ニッポン 「外国人のわたしが議員になったワケは」
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/izon/20190926legislator.html>
- ・ 移住者と連帯する全国ネットワーク
「東京都江戸川区議会議員 よぎ議員 インタビュー Mネット2019年10月号」
<https://migrants.jp/news/blog/20200120.html>
 - ・ 毎日新聞「日常にひそむヘイト 『日本に差別はない』は本当か」
<https://mainichi.jp/articles/20210212/k00/00m/040/027000c>

見えない声に耳を傾ける

河原 由実

地元出雲に帰り、小学校や中学校で日本語指導に数年携わった。「帰ったらお姉ちゃんが宿題見てくれるよ。ご飯も作ってくれる。」という小学生。お姉さんの年齢を聞けば17歳だと言う。学校には行っていないのかと問えば、「行かないよ。日本語わからないもん。」とあっさり。

大きな違和感を覚えた。同じタイミングで日本に来て、小学生は日本語指導を受けられて、17歳は教育を受けるチャンスもないのか。本人はどう思っているのか。また、「高校には行かない。行ってもおもしろくない。」という中学生も少なくなかった。違和感が募るごとに、日本語の授業をしていても「この子の行く末は？」と自問自答することが多くなった。

決定的な出会いがあった。中学を卒業して来日した、15歳の子どもだった。「日本に来たら私の行くところはなかった。高校に行けると思ったのに。」行政や複数の機関に相談に行った結果だ。もちろん欲しいのはそんな結論ではない。ならばどうしようかと、誰か一緒に考える機会はなかったのか。「行き場がないならつくろう。」そう思って始めたコミュニティには、同じように行き場がなくて家にこもっていた10代や、友達がほしいとか、学校の勉強が難しいから教えてほしいとか、日本語をきちんと勉強したことないからあらためて勉強したいという中学生・高校生が少しずつ集まってきた。求めるものがあつたのに叶わなかった子どもがこんなにいたのかと、率直に思った。義務教育の年齢から外れれば社会の網にはかかりにくく、見えない世界になってしまうことを実感し、15歳以上の子どもたちがメインのコミュニティをつくることにした。共通点は外国にルーツを持つこと。背景は様々で、やりたいことがある人もない人もいる。だが来るからには何かを求めているし、来られない存在も見守る必要を感じる。いろいろ活動をする中で、彼らが最も輝いたのは地域参加だった。ボランティアスタッフとしてイベントを手伝ったり、ルーツを持つ国の文化紹介をしたりする中で、人との出会いを楽しんだ。そして何より、自分が誰かの役に立てた喜びを味わい、高まる自己肯定感を感じ合った。

外国にルーツを持つ過年度卒業生は決して新しい課題ではない。私が出雲で初めて会ったのは10年以上前だったが、当時は地域の日本語教室や近所の人たちが助け合って高校につないだ。出雲市は近年にわかに外国人が増えたのだが、数が増えれば圧倒されることもある。地域の人に関わりにくくなってしまった面もあるのかもしれない。

一般に「子ども」と言えば小学生前後がイメージされがちで、高校生の年頃はおそらく最も注意が向けられない。だが法的に「子ども」と呼ぶからには、意味がある。見るからに守るべき存在と思わせる幼い子どもとは違うが、彼らもそれはわかっている。だからこそ、いざ言いたいことがあっても、言いにくいことがある。困ったときにSOSが出しにくい。甘えたいときに堂々と甘えられない。どうすればいいかわからないときにゆっくり教わるチャンスは、実は少ない。

兄弟の面倒を見ている彼らに、「いつもありがとう。」と言ってくれる人はいるか。

自信をなくしている彼らに、「そんなことないよ。」と支えてくれる人はいるか。

迷いを感じている彼らに、「いい考えだね。」と背中を押してくれる人はいるか。

心配と恐怖で立ち止まっている彼らに、「失敗しても大丈夫。」と包んでくれる人はいるか。そもそも、



家族以外の大人や同じ年代の仲間はあるのか。

そう思って目を向け、ひとこと声をかけてほしい。弱い者として助けてほしいわけでも、特別な何かが必要なわけでもない。ただ大人に最も近い年齢の子どもたちは、社会に出るためのあと一歩の支えを必要としている。存在を気にかけてもらえているという安心感と、社会の一員として認められているという自尊心を感じたいのだと思う。外国にルーツを持つ子どもたちは、広い世界に生きている。アイデンティティを模索する彼らに、「日本にいるからチャンスがなかった」ではなく「日本にいたからこそ自分がある」と感じてもらうには、彼らを尊び愛情を持って接することが、大人の責任ではないだろうか。

河原 由実（ごうばら ゆみ）：

「MANABIYA」主宰者。大学在学中は日本語教育を学びながら難民の日本語教室に参加する。卒業後は障害者福祉の仕事を経てブラジルへ渡り、日本語教育に携わる。帰国後、子どもの日本語指導や外国人と日本をつなぐ活動に関わる中で、長期的で系統的な学習の不足と教育の不平等を体感し、外国にルーツを持つ10代の子どものコミュニティを立ち上げる。趣味は音楽、スポーツ、読書、海外ドラマや映画を見ること。和太鼓チームに所属し、親子で地域の舞台に立つのを楽しんでいる。

*河原由実さんには、2020年10月に行った島根県出雲市のフィールドワークにて、活動概要の説明や意見交換などで、たくさんの気づきをいただきました。



シミュレーション教材 「ニッコリ駅周辺再開発計画」

はじめに

シミュレーション教材『ニッコリ駅周辺開発計画～まちづくりと政治参加～』を中心に、地域社会における相互依存関係について考えるものである。そして、さまざまな文化を持つ人々が共生する事が可能な社会を造り上げていく過程を、都市の開発からコミュニティづくりまでの流れの中でとらえながら、国際社会に生きる地球市民としての公民的資質の育成をはかるものである。そしてこの学習活動を通して生徒自身に主権者としての責任を自覚させ、その上で多文化共生社会の実現に積極的に参加できるよう考えを深めさせたい。

教材の使い方・参加のルール・アクティビティの解説

シミュレーション教材：開発教育協会 編集・発行(2012)『開発教育実践ハンドブック 参加型で世界を感じる 改訂版』によれば、シミュレーションとはある事象をモデル化し、単純化して、それを擬似的に体験することをいう。開発教育のなかでは、ある事象を擬似的に体験することで、問題を明らかにするとともに、学習者がそれを“実感”として認識するための有効な手段として、シミュレーションが使われている。

シミュレーション学習を実施する際に大切なことは、事前にその事象について正確に分析し把握するように指導することではない。そのシミュレーション学習が授業過程の中で整合性のある取り組みとして実施されているかどうかが大切なのである。そしてその上で、そのシミュレーション教材が扱う内容が、何らかの形で生徒の経験や日常と重なり合う部分がなければ効果的なものにはならないと考える。

つまりシミュレーション教材が効果を発揮するには、生徒の身近な問題に題材を求めるか、一見生徒から遠く離れた問題（グローバル イシュー）を扱う場合でも、その中に共感できる内容を取り組みの中に織り込んでいくことが大切である。そしてその取り組みの中で生み出される「新たな発想」は次の「学び」へとつなげられていく。そのような「気づき・学び」と「新たな発想」の連続の中においてシミュレーション学習はより大きな効果を発揮するのである。

つまり、シミュレーション教材は、それをそのままの形で、脈絡もなく、目先の楽しさや目新しさを求めて安易に実践しても効果的な結果は得られない。目の前の生徒の日常に沿った形に作り直し、そこから得られた学びを次なる取り組みにつなげていく作業を繰り返す教師の工夫が何よりも大切だといえよう。

ロールプレイ：ロール プレイ（役割演技）というのは、実はかなり広い意味をもっており、例えば「ヒューマン・チェーン（人間知恵の輪）」のようなアクティビティも、ロール プレイの一つに数えられることもあるとされている。しかし、ここでは、開発教育の手法として通常使われている、狭い意味でのロールプレイとする。

「シミュレーション」がある事象をモデル化し、参加者がそれを擬似的に体験するものであるのに対し、ロールプレイでは、ある特定の（自分と違う）立場の人（場合によっては、動物やものの場合もある）になったつもりで、ある問題について考え、それを表現するということに特徴がある。防災訓練などで“起震車”に乗って地震の揺れを体験するというのは、シミュレーションであってロール プレイではないが、大地震で家を失い、仮設住宅に住んでいるお年寄りとその人を訪問介護するボランティアになったつもりで、二人で会話をしてみるというのは、一つのロール プレイである。また、立場が異なるもの（グループ）の間で討論を行うという点では、「ディベート」と共通する部分もあるが、ディベートが最終的に「勝つか負けるか」の決着をつけることを目指すのに対し、ロール プレイでは、それぞれの立場や考え方を受け止めた上での合意形成を目指すという点で大きく異なっている。

全体のねらい

本教材は、ある架空のまち（資料 1・2）を設定し、そのまちの駅周辺の再開発計画が地域社会に及ぼす影響を考え、住民によるコミュニティづくりを考えるまでの過程を(1)自らが望ましい都市開発を考える、(2) ニッコリ市の住民の立場に立って都市開発を考える、(3)市議会の疑似体験、(4)社会的ジレンマの解決方法を探る、(5)コミュニティづくりを考える、の5つの小単元に分けてシミュレートし、その後自らの気づきや学びを振り返るというものである。

ねらいとしては次の8つを設定する。

- ・ 開発がその地域にどのような影響を及ぼすかを考える。
- ・ 地域社会における相互依存関係についての認識を深める。
- ・ 議会の決定が、本当に民意を反映したものになっているかを考える。
- ・ 一票を投ずることの意味を考える。
- ・ 現実の社会において、どれほど社会正義が保障されているかについて考える。
- ・ 相互依存関係や異文化を理解することにとどまらず地球市民としての公民的資質を育てる。
- ・ 批判的な思考力を身につける。
- ・ 役割取得の過程を通して、社会的判断力を育成する。

学習計画（全5～6時間）

（1）シミュレーション教材「ニッコリ駅周辺再開発計画」

1. アクティビティ 1 『あなたの望む都市開発』
2. アクティビティ 2 『それぞれの立場で考えよう』
（※アクティビティ 1 『あなたの望む都市開発』とアクティビティ 2 『それぞれの立場で考えよう』は連続して実施する。）
3. アクティビティ 3 『トラブル発生』
4. アクティビティ 4 『コミュニティは誰のもの？』
5. アクティビティ 5 『ニッコリ市議会』
6. アクティビティ 6 『ふり返り』

教科・領域との関係

中学公民・公共・総合的な学習の時間・総合的な探究の時間等

アクティビティ 1 「あなたの望む都市開発」

●概要

この小単元では、ニッコリ市の環境・現状を理解したうえで、第三者的立場で駅周辺の再開発計画について考える。生徒自らはどのような都市開発が望ましいと考えているかを、都市開発に対する9つの視点に優先順位をつけていく（ダイヤモンドランキング）ことで明らかにする。

●ねらい

ダイヤモンドランキングを使って、合意形成を図ることで、生徒には具体的に視点が与えられ、普段あまり考えていない課題についても、明確に自らの考えをまとめることができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

- ・資料①～③（P112～114）（全員分）
- ・資料④「ニッコリ駅周辺再開発計画ワークシート I」（P115）（全員分）

●所要時間要

45～50分

●用語の解説

ダイヤモンドランキング：ランキング（順位付け）は、開発教育の手法として、比較的良好に知られており、誰でも簡単に実践できるものであるとされている。ルールは簡単で、「地球の環境を守るためにできること」「途上国の貧困をなくすためにできること」など、ある課題について用意されたいくつかの選択肢を、良いと思うものから順に並べる。その過程で、参加者どうし意見を交換したり、または、個人でやってみた後で、他の参加者と比べながら議論するというものである。ランキングの結果を表すとき、ダイヤモンドのような形に並べるものを「ダイヤモンドランキング」という。（開発教育協議会 編集・発行『開発教育実践マニュアル わくわく開発教育 参加型学習へのヒント』より）

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 「ニッコリ駅周辺地域再開発計画の説明」（資料1）と「この計画が実施されると起こる変化のプリント」（資料②）を全員に配付し、生徒は熟読する。</p> <p>2. 各自がこの再開発計画をどう見るかを確認するために、資料③と資料④「ニッコリ駅周辺再開発ワークシート I」を全員に配付し、資料③にあげた視点を各自でランキングを行い、その結果を資料④の「ニッコリ駅周辺再開発ワークシート I」の1）に記入する。</p> <p>この時、ワークシートに記載した内容はグループ内で共有することを予め生徒には伝えておく。（「ニッコリ駅周辺再開発ワークシート I」の2以降はアクティビティ2で使用する。）</p>	<p>自分はどのような視点でまちづくりを考えているのか、どのような価値観を持っているのかについて考える。</p>

{ニッコリ駅周辺地域再開発計画の説明}

ニッコリ市は人口90,000人程度の都心近郊の中規模のまちである。隣には大手の企業などもある市があり、そこまで働きに行く人もある。

歴史的には古く、昔からの地主が駅周辺の土地の多くを所有しており、食料雑貨店・衣類・薬品・食堂などの商店や中小企業のほとんどがその土地を借りて営まれている。ニッコリ駅周辺には地域に密着した製造業を営む中小企業が立ち並んでいる。

この駅周辺に住む住人のほとんどは、この周辺の中小企業や商店に勤め、この近くのアパートや公営住宅・賃貸住宅に住んでおり、持ち家に住む人はほとんどいない。商店の経営者がほんの少し、立ち退き地区で持ち家に住んでいる程度である。アパートの多くはひどく傷んでおり、駐車場のスペースもなく、子どもの遊べる公園もない。

まちにはゴミがあふれ、どぶ川は悪臭を放っている。また、賃貸住宅は昔ながらの長屋の風情を残している。

この地域には近年ブラジル人もたくさん住むようになってきており、近くの中小企業に勤めている。

公営のニッコリ住宅（規模は4棟）は家賃が安いため、入居希望者は多い。ニッコリ住宅に一度入居するとなかなか転居しないため、入居者は固定化され、ニッコリ住宅の人だけで自治会をつくり自分達の快適な住環境をつくろうと努力している。

山手と呼ばれる一角には一戸建ての住宅地『山の手 さくら台』があり、電車を利用して隣町の企業に勤める人々や中小企業や商店の経営者などが住んでいる。ここには児童公園やテニスコートもある。

今や円高のあおりで、一時期活況を呈していた中小企業の営業成績は落ち込み、以前のような利益をあげることができなくなってきた。借地料の値上げを考えていた地主達は、話し合いを続け、とうとう結論を出した。それは、ニッコリ駅前に大規模なショッピングセンター・マンション等を誘致し、新しいまちづくりをしようというものであった。この計画が完成すれば、約1,000世帯が収容できるマンション群ができ他の地域からもたくさん転居してくる。中小企業は山の上の新しい工業団地に移し、汚いアパートも取り壊され、市は活性化し、おしゃれなニュータウンに変身するだろう。

{この計画が実施されると起こる変化}

- 1) 今までのアパートの家賃は月額70,000円(3DK。駅のすぐ近くにある。日当たりはあまり良くない)。ニッコリ住宅の家賃は月額55,000円(3DK。日当たりはまあまあ)。取り壊されるのはアパート。新しい賃貸マンションの家賃が一番安いところでも90,000円ぐらいになりそう(3LDK。日当たり良好)。
- 2) 立ち退き地区の住人は、ニュータウンに新しく建設される賃貸マンションに優先的に住むことができる。数少ない立ち退き地区の持ち家主居者に対しては、現在の地価での坪単価を基準に補償金が支払われることになっている。(この金額ではニュータウン建設による地価の高騰後ではこの近辺に住居を建てるのは無理となる。)もちろん、この持ち家主居者も望めばニュータウンの分譲マンションに優先的に入居できる。
- 3) 立ち退き地区の商店は、優先的に新しくできるショッピングセンターにテナントとして出店すること。しかし、その場合、一定額のテナント料を支払わなければならない、ある程度の売上額を維持できている商店でないとショッピングセンターでの経営は難しい。ショッピングセンターに出店することを拒否した場合は、補償金がもらえるが、現在の地価が基準になっているため、十分な店をこの近くに建設するほどの額はもらえない。
- 4) 中小企業の移転先の工業団地は、現在の市の中心地からは車で25分ほどの所。ここは高速道路のインターチェンジのすぐそばで、輸送等は非常に便利になる。従業員の住宅を建設できる経済力を持っている企業であれば、別に問題はないであろうが、そこまでの設備が持てない企業は、従業員を通勤させるのに負担が強いられることになる。また、この工業団地周辺は高速道路のインターチェンジ周辺ということもあって、従業員住宅をつくっても、住環境に適しているかどうかは疑問である。
※つまり、商店と住居を立ち退き地区にもつ経営者は、ショッピングセンターに出店し、マンションに住むという場合とまったく別の場所で商売をするかのどちらかということになる。また、中小企業と住居を立ち退き地区にもつ経営者は工業団地に工場をもち、駅前のマンションに住むか、工場の近くの高速道路周辺に補償金で家を建てるかのどちらかになる。
- 5) 大手のショッピングセンターは独自の流通網をもっており、非常に安い価格で商品を販売できる。また品ぞろえも豊富で、今までニッコリ市にあった商店で扱われていたもののほとんどは新しいショッピングセンターで扱われる。公設市場や立ち退き地区に入らなかった商店はそのまま残されることになるが、経営は今のままでは非常に難しくなるであろう。何かその商店の独自性を出すアイデアが必要となる。
- 6) マンションができると、他の地域からの移住者が増え、大手スーパーの従業員も大勢流入してくることが考えられる。税金は増収し、市の設備も充実させられるだろう。
- 7) 新しい大手スーパーができると、雇用が促進され、市の住人の経済も活性化するだろう。
- 8) この計画が実施されると、ニッコリ市の土地価格は急上昇するだろう。山の手さくら台の住人や地主は資産が倍増することまちがいなし。
- 9) 美術館や博物館、コンサートホールなどの文化施設やスポーツ施設や公園などの公共施設もつくられるそうだ。
- 10) 新しく道路もつくられ、これまでの入り組んだ細い道路は、幅の広いまっすぐな道路に作り替えられることになる。汚い路地は整理され、すっきりとしたまちになるだろう。
- 11) 外国人労働者(主にブラジル人)が多く住んでいたアパートは立ち退きをする必要はなかったが、彼らの多くが勤めていた中小企業は工業団地へ移ることになった。車を持たない彼らにとっては、非常に不便なことになる。

資料③

- (1) 文化施設をつくり、市の文化水準を高めるまちづくりを考える。
- (2) 市の持つ文化財を残し、ニッコリ市民の持つ文化・伝統を大切にし、下町のよさを残す情緒のあるまちづくりを考える。
- (3) 若者の集うまち、活気のあるまちづくりを考え、サービス産業の進出を積極的に受け入れる。
- (4) 工場等は市の周辺部に移転し、住宅ブロックと工業ブロックの住み分けをはかる。
- (5) 福祉の充実を第一に、誰にもやさしいまちづくりを考える。
- (6) 経済の活性化のため、企業等の誘致を積極的にはかる。
- (7) 自然環境を大切にし、緑豊かなまちづくりを考える。
- (8) 今までまちを支えてきた産業、商業の存続を第一とするまちづくりを考える。
- (9) 何もしなくてよい。

ニッコリ駅周辺再開発計画ワークシート I

()年 ()組 氏名()

1) 最初のランキングの結果を書いてください。

2) 話し合いの後のランキングを書いてください。

この過程で、あなたの考えに変化がありましたか。
もしあれば書いてください。

3) このアクティビティについての感想を書いてください。

アクティビティ2 「それぞれの立場で考えよう」

●概要

ここでは、生徒がニッコリ市の住民の立場に立って都市開発を考える（ロールプレイ）。

ニッコリ市民である9つの立場を設定し、生徒はこの立場になりきるにより、この開発が住民に与える影響について考える。

●ねらい

役割体験をすることで、客観的に都市開発について考えることができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

資料⑤「それぞれの意見を考えよう」(P119) (全員分)

資料④「ニッコリ駅周辺再開発計画ワークシート」(P115) (全員分)

●所要時間

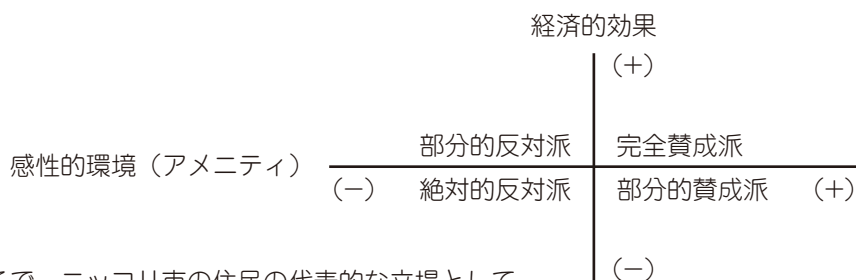
45～50分

●用語の解説

宮本憲一（1989）『環境経済学』岩波書店、P.368によると、「アメニティとは、市場価格では評価できないものをふくむ生活環境であり、自然、歴史的文化財、街並み、風景、地域文化、コミュニティの連帯、人情、地域的公共サービス（教育、医療、福祉、犯罪防止など）、交通の便利さなどを内容としている。」と定義されている。アメニティは一般的には「快適環境」という訳語があてられる場合が多いが、ここでは田村 明著（2000）『まちづくりの発想』岩波新書、pp.28～32ページに基づき、「感性的環境」という訳語をあてる。

●解説

都市開発が住民に与える影響を経済的效果を縦軸に、感性的環境（アメニティ）を横軸にとり、4つのブロックに分類すると、各ブロック毎の住民の都市開発に対する意見は下の図のようになる。



そこで、ニッコリ市の住民の代表的な立場として、

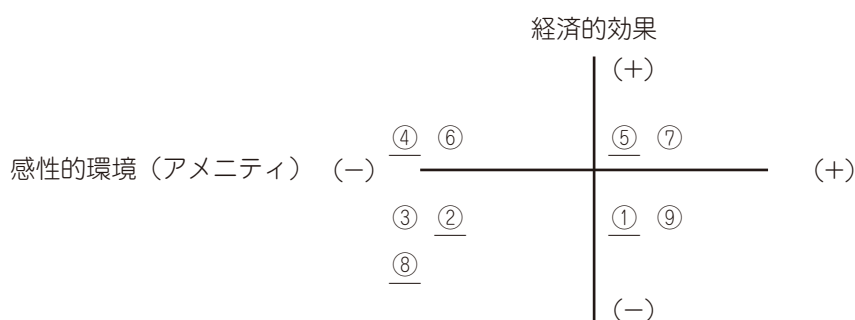
- ①あなたは立ち退き地区の中小企業に勤める立ち退き地区のアパートの住人
- ②あなたは立ち退き地区の中小企業に勤めブラジル人で、立ち退き地区外のアパートの住人
- ③あなたは立ち退き地区の中小企業に勤めるニッコリ住宅の住人
- ④あなたは立ち退き地区外の中小企業に勤めるニッコリ住宅の住人
- ⑤あなたは山の手 さくら台の住人で、立ち退き地区の中小企業の経営者

- ⑥あなたは新しく進出してくる大手スーパーに勤めようと考えている立ち退き地区外の住人
- ⑦あなたは山の手 さくら台の住人で、隣町の企業に勤めている
- ⑧あなたは公設市場で店を出している店主。住居も立ち退き地区ではない
- ⑨あなたは立ち退き地区内に商店と住居をもっている

の9つに設定し、そのそれぞれの立場を、

- 経済的効果 (+) 感性的環境 (+)
- 経済的効果 (+) 感性的環境 (-)
- 経済的効果 (-) 感性的環境 (+)
- 経済的効果 (-) 感性的環境 (-)

の4つのブロックに分類すると、①～⑨の立場は以下のように分類されよう。



この各ブロックからそれぞれ1つないし2つのアクターを選び出し、ロールプレイをすることによって、この再開発計画に対する考えが、住民のおかれている状況によって大きく異なることを知り、地域社会における相互依存関係について考えることができる。

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<p>1. 全員に資料⑤を配付する。生徒は5人のグループに分かれ、資料⑤にある9つの立場のうちの①・②・④・⑤・⑧の5つの役割を担当し、その立場になりきる。</p> <p>2. 同じ立場に立つ生徒でグループを作り、その立場に立った時の『ニッコリ駅周辺再開発計画』について、資料⑤の問い a) ~ c) をもとに話し合う。</p>	<p>ここであげた5つは一例であって、この5つの選び方については、生徒が共感しやすいものを選ぶのが望ましい。</p> <p>このとき、調整役として、市の役人の立場をもう一人加えてもよい。(その場合は1グループ6人となる。)</p> <p>そのことにより、生徒により深くそれぞれの立場を理解させることができる。</p> <p>同じ役割になる生徒でグループになり、その役割になりきるための相談を行い、その役割に対する理解を深める。</p>

<p>3. それぞれの立場について理解が深まったところで、元のグループ（1. のグループ）にもどり、その役割になりきって、アクティビティ1で行ったランキングをグループで行う（ロールプレイによるグループランキング）。</p> <p>4. そのランキングの結果をワークシート（資料④の2）に記入し、グループ毎に、ランキングの結果とランキングをする過程でどのような話し合いがなされたかについて全体に報告する。</p> <p>その後、最初のランキングとロールプレイをしてのランキングの結果とを比較して、自分の中でどのような変化があったかを振り返り、ワークシート（資料④）の「あなたの考えに変化はありましたか。もしあれば書いてください」の欄に記入する。</p>	<p>ロールプレイによるグループランキングを行う際は、安易に答えを見つけ出そうとするのではなく、合意形成ができるまで話しあうことを大切にす。ランキングが完成しなくても、意見を出し合い、考えを共有する時間をしっかりとるように促す。</p> <p>この時、多数決で決めるのではなく、合意形成ができるまで話し合う。時間内に結論がでなくてもよい。その話し合いのプロセスを重視する。</p> <p>変化がないという生徒がいる場合も考えられる。その時は、「じっくりと自分がどのように考えていたかを見つめてみよう。」や「自分の気持ちの変化を見つめてみよう」と促す。</p>
<p>ふり振り返り</p> <p>自分の中にどのような変化があったか。どんなことに気づいたかについて考え、ワークシート（資料④）の3）に記入し、その内容をグループ内で共有する。</p>	<p>一人で、自分の考え方の変化について熟考した上で、ワークシートに記入するように促す。</p>

{それぞれの意見を考えよう}

あなたは（ 番号 ）。あなたの立場から、以下のそれぞれの立場に立って、次の3つの項目について考えなさい。

- (a) この計画はあなたにとって良いものかどうか考えなさい。その理由は何ですか。
- (b) またこの計画によってどのような影響が考えられますか。
- (c) あなたはどのようになるのが一番いいと考えますか。

- ① 立ち退き地区の中小企業に勤める立ち退き地区のアパートの住人です。
- ② 立ち退き地区の中小企業に勤めるブラジル人で、立ち退き地区外のアパートの住人です。
- ③ 立ち退き地区の中小企業に勤めるニッコリ住宅の住人です。
- ④ 立ち退き地区外の中小企業に勤めるニッコリ住宅の住人です。
- ⑤ 山の手 さくら台の住人で、立ち退き地区の中小企業の経営者です。
- ⑥ 新しく進出してくる大手スーパーに勤めようと考えている立ち退き地区外の住人です。
- ⑦ 山の手 さくら台の住人で、隣町の企業に勤めています。
- ⑧ 公設市場で店を出している店主です。住居も立ち退き地区ではありません。
- ⑨ 立ち退き地区内に商店と住居をもっています。

アクティビティ3 「トラブル発生」

●概要

自分が被害者にならないために日系ブラジル人に対して暴力を振るってしまった主人公が迫られる葛藤を通して、自己が属する集団の意義について考え、自己の役割と責任を自覚したうえでとるべき行動とはいかなるものかについて考える。この單元では、この街で起こったトラブルを地域全体の問題としてとらえ、その解決の方法を探りながら「共生」が可能なコミュニティのあり方について考える。

●ねらい

都市住民の間に起こる異文化間のトラブルを想定し、そこにある社会的ジレンマの解決の方法を探ることにより、互いを認めあえる関係のあり方について考え、問題解決能力の育成を図る。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

資料⑥（P121）（全員分）

ふせん（グループ毎に数十枚）

模造紙（グループに1枚）

●所要時間

50分程度

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 資料⑥「場面設定シート（トラブルの発生）」を全員に配付する。 生徒は各自で資料⑥を読み、登場人物『啓介』のおかれている状況を把握し、『啓介』の直面する葛藤を理解する。</p> <p>2. 4～5人程度のグループに分かれ、『啓介』が直面する問題を解決するための方法を話し合う。 ①この時の啓介の気持ちをできるだけたくさんふせんに書き出し、なぜそう思ったのかについてその理由をグループで共有する。 ②これからどうすれば良いのかについて、グループで話しあい、具体的な解決方法を考え、模造紙にまとめ、グループ毎に発表する。</p>	<p>このとき、自分のことを理解してもらえない、自己疎外の状況におかれている子どもが現実にもそういった場面に直面した時に相手のことをどこまで理解できるか、どこまで歩み寄ろうとするかということについて、生徒に突き詰めて考えさせることが大切である。</p>
<p>ふり返り 自分ごととして考えることができていたかについて個人で考え、グループ内で「気づいたこと、感じたこと」を共有する。</p>	<p>個人で考える時間を数分間とる。</p>

《場面設定シート トラブルの発生》

ニッコリ中学校に啓介と孝夫という小さい頃から仲のよかった二人の生徒がいた。

ある時、啓介の住んでいるアパートに日系ブラジル人の家族が入居してきた。その家族には、カルロスという男の子がおり、ニッコリ中学校に通うようになった。

日本語が話せないため店で買い物ができなくて困っているカルロスを見てから、啓介はカルロスに興味を持った。再び店で困っているカルロスを見かけた啓介はカルロスに思い切って声をかけた。そしてそのことをきっかけに啓介はカルロスと話をするようになった。会えば啓介はカルロスに少しずつ日本語を教えてやった。啓介は言葉の分からないカルロスに日本語を教えることは面白いと思った。学校での成績は悪く、自分に自信を持てなかった啓介は教える立場に立てたことがなんだかうれしかった。でも、啓介の母親はそのことをあまり良くは思っていなかった。大きな声で訳のわからない言葉でしゃべり、近所付き合いの悪いカルロス一家のことをあまりよくは思っていなかったのだ。啓介にも「あまりあの子と付き合うんじゃないよ。」と言っていた。

前々から勉強に自信が持てなかった啓介は、テストを受けるのがいやで学校を休んでしまった。一度学校をズル休みしてしまうと、次の日も学校に行くのがいやになり、また次の日も学校を休んでしまった。そんな日がだんだん多くなり、啓介は学校に行かずまちをぶらぶらするようになっていった。

孝夫の父親はニッコリ市内の中小企業に勤めていたが、病弱で仕事は休みがちだった。近年たくさんの日系ブラジル人がニッコリ市内の中小企業で働くようになり、労働者の不足に悩まされなくなった工場の経営者は、孝夫の父親を欠勤を理由にクビにしてしまった。父親は「ブラジル人に職を奪われた」と嘆いた。母親が仕事にでることで何とか家計を支えていたが、孝夫の家庭は暗く沈んだ。

孝夫の家の近くの公園ではよく日系ブラジル人たちが年齢を問わず集まって、ラジカセで大きな音で音楽をかけ、料理を持ち寄りお酒を飲んだりしながら、楽しそうに歌ったり踊ったりして騒いでいた。

孝夫は憎々しげにその様子を見ていた。近所に住む人たちも、周りにゴミをまき散らしながら大声で歌ったり踊ったりしながら騒いでいる日系ブラジル人たちのことを快くは思っていなかった。

孝夫の気持ちは次第にすさんでいき、学校に行っても授業妨害をしたりしてまともに授業を受けることはなかった。教師から注意を受けることが多くなった孝夫はとうとう学校へ行かなくなってしまった。

彼の周囲には数人の仲間がいた。孝夫と啓介は他の仲間と学校にも行かず、毎日ぶらぶらと過ごしていた。ある日、学校に行かなくなった彼らが駅裏の公園にたむろしていた時、偶然カルロスが前を通りかかった。学校に行っても言葉もわからず授業についていけないカルロスは学校を休みがちになっていたのだ。

前々からブラジル人のことをよく思っていなかった孝夫は仲間「あいつをやってしまおう。」と誘った。そして「おい！ブラジル人。どうしてお前は日本にいるんだ。ブラジルに帰れ。」と言ってカルロスに殴りかかった。そして仲間にもやるように大声で言った。

啓介はカルロスの顔を見て少し躊躇したが、「ここで手を出さなければ、今度は自分がみんなからやられてしまう。ましてブラジル人と友達だということが孝夫に知られると何をされるかわからない。」と考え、仲間と共にカルロスを殴った。倒れているカルロスをそのままにして、彼らはその場を立ち去った。

その後、カルロスは通りがかった人に助けられ、病院に運ばれたが、意識不明の重体になってしまった。家に帰った啓介は「ゴメンナサイ。ゴメンナサイ。」と言いながら一方的に殴られ続けていたカルロスのことを思い出した。

さて、啓介はこの時、どうすればよかったのでしょうか？

アクティビティ 4 「コミュニティは誰のもの？」

●概要

そこに住む人々が気持ちよく生活できるようになるかを話し合い、そのための具体的なアクションプランを考える。

●ねらい

それぞれの役割体験をすることで、多様な考え方があることを知り、多様性について考えることができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

資料⑦「人物設定シート」(P123～124)：グループに1セット(予めA)～E)まで切り離してセットしておく)

●所要時間

50分程度

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点(ポイント)
<ol style="list-style-type: none">1. 5人のグループに分かれる。2. 各グループに資料⑦「人物設定シート」のA)～E)を1セットずつ配付する。3. グループ内で、各自A)～E)のうちの一枚をとり、熟読し、自分がなりきる人物の考えや役割を理解する。4. 各自が自分の役割(ロール)になりきって、どうすれば問題が解決されるかについて、グループで話しあう。	<p>最初に、自分の役割が理解できるように、同じ役割の生徒同士でグループになり、自分の役割・考え方を理解する。</p> <p>時間内に結論が出なくても良い。役割になりきって、積極的に話し合いに参加するように促す。</p>
<p>ふり返り 生徒は自分に戻って、他者の意見をどのように受け止めたか、どんな気持ちになったかについて具体的に話しあう。</p>	<p>自分ごととして考えるように促す。</p>

《人物設定シート》

A) 町工場経営者の代表：年齢 56才

いまや日系ブラジル人はこのニッコリ市の産業を支える大切な存在です。彼らはよく働いてくれる。日本人なら、「キツイ」とか「賃金が安い」とすぐに文句を言うが、彼らはそんなことは言わない。夜勤もいくらでもしてくれる。おまけに賃金も安くてすむ。彼らのおかげで、会社はたいへん儲かるようになった。ニッコリ市の工場の景気が良くなれば、それはまち全体の利益にも繋がる。ケンカをすること、排除することばかり考えるのではなく、共に生きる社会のあり方を考えましょう。これは学校だけの問題ではない。まち全体の問題として考えるべきだ。

B) ニッコリ中学校PTA代表：年齢 60才

日系ブラジル人たちがやってきてからまちの雰囲気は随分悪くなったような気がする。私達がいくら月に一度のゴミ拾いをしても、そんなことには参加もしないで、公園でゴミを散らかし、大騒ぎをしているのは許せない。公園は子どもたちのものであるはずなのに、日系ブラジル人が集まっている公園で子どもを安心して遊ばせることなんてできない。そんなブラジル人の態度に腹を立てて、今回の事件は起こったのかもしれない。事件を起こした少年の親はブラジル人のために仕事をクビになったという話を聞いた。そんなブラジル人を雇う企業に問題があるのでは…。

C) 自治会会長：年齢 45才

こんな問題がいつか起きるだろうと考えていた。新しい人が入ってくると必ずこのような問題は起きるものだ。特に外国からの移住者などが入ってくるからこんなことになるのだ。今度は日本人の子ども達が被害者になることだって考えられる。今のうちに何とかしなくては…。家庭でも危険な駅裏には行かないように言う。我々も夜の見回りをするなど対策を講じるべきだと考えるべきだ。

D) 日系ブラジル人の代理人として会議に参加したNGO職員：年齢 34才

ロナウトさんは日本語が苦手なため、今回の会議にはロナウトさんの代理として参加した。

今回大怪我をさせられたのは、ロナウトさんの友達の子供。この地域に住むブラジル人の憤りは大きく、なんとかその気持ちを伝えて欲しいと言われてやってきた。

この地域に住む人々のブラジル人に対する扱いは冷たく、子ども達は学校でたびたびいじめの対象となっていた。親たちも近所の日本人と親しくすることもなく、いつも疎外感を味わいながら、細々と生活していた。

ブラジル人の家族が公園に集まって、ブラジルの歌を歌ったりするのがささやかな楽しみだった。日本人にとっては派手に見える公園での集まりも、ブラジル人にとっては日常的なことであって、特別に騒いでいるという意識はない。それは彼らの文化なんです。そのことを理解してあげて欲しい。また、ゴミを散らかしているのは良くないことだが、ブラジルでは日常的に行われていること。でもいけないことはいけないこととして、近所に住む日本人も無視するのではなく、どんなルールがあるのかきちんと教えてあげて欲しい。共にこの日本で暮らしていけるように。

E) 被害者・加害者の中学生が通っている中学校の生活指導担当教師

今まで学校内において、日系ブラジル人の子に対してのいじめは確かにあった。また学力の低い子どもが自分をのけ者にされていると感じていたことも事実だろう。

そういったことに対する各担任の取り組みの報告は聞いてはいるが、どれも根本的な解決にはいたってはいなかった。学校内での取り組みだけでは解決できないとの判断から、各地域での懇談会を密にしようと職員会議で決定された矢先の出来事であった。

それが、まさかこんな事件になろうとは…。

これから生徒や教師がそれぞれ自分の問題としてこの事件に向き合い、一人一人が自分の問題としてしっかりと考えていかなければならないと考えている。そして、様々な学習活動を通してもっと子どもたち一人一人が自信を持ち、人に思いやりの心もてるような取り組みを実施していかなければならないと考えている。平和学習や人権学習にも力を入れていかなければならない。

何か具体的な方法についてみなさんからもご意見をお聞かせ頂きたい。

アクティビティ5 「ニッコリ市議会」

●概要

ここでは住民のなかから市議会議員を選出し、選ばれた市議会議員による市議会が開かれ、ニッコリ駅周辺再開発について審議する。住民である市民はその議会を傍聴し、自分たちの意見をまとめる。議会はその住民である生徒の意見を参考に最終案をまとめるというシミュレーションである。

●ねらい

このことにより、生徒は都市開発が市議会で、どのように取り上げられ、そのように具体化していくのを知り、また議会における政策決定に際し、住民の意見がどのように反映されるか、また、何が重視され、何が黙殺されるかを考えることができる。

そして、このように議会を擬似的に体験する過程で、現実の社会における社会正義の在り方について考察し、問題解決に向けての方法を模索する。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

資料⑧「選挙演説シート」(P127～129) (1セット/予め(A)～(G)まで切り離しておく)

ワークシートⅡ「ニッコリ駅周辺再開発計画ワークシートⅡ」(P130) (全員分)

●所要時間

50分程度

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点(ポイント)
<p>1. クラスの中で、あらかじめ7人の立候補者を選び、資料⑧「選挙演説シート」(A)～(G)のカードを、それぞれのカードを一人に一枚ずつ各自に渡し、それぞれの主張を理解しておくように伝える。</p> <p>そして、その7人の立候補者は選挙演説のシートに書かれた台詞をもとに全員の前で選挙演説をする。</p> <p>2. 演説を聞いた住民役の生徒は、自分の意見が最も反映されそうな4～5名の市会議員を選び、投票し、その後「誰に投票したか」・「なぜその人に投票したか」について資料⑨(ワークシートⅡの1)に記入する。立候補者も投票するため、同様に資料⑨(ワークシートⅡの1)に記入する。</p>	<p>このシミュレーションをより活発な活動にするためには予め立候補者には根回しをしておく必要がある。ただし、他の生徒にはそのことは知られないように配慮すること。</p> <p>この時、生徒は自分自身の言葉に置き換えて演説が行えることが望ましい。</p>

<p>3. 選出された市会議員は、ニッコリ駅周辺再開 発計画について住民役である生徒全員の前で審議 する。このとき、住民役の生徒の発言は一切許さ れない。途中、議会を一度中断し、住民役の生徒 に「市議会に対して何か言っておきたいことはな いか、要望はないか」を尋ね、住民役の生徒に対 し意見を求める。市議会はその意見を聞いた上で 最終案をまとめ、議長は住民役の生徒に審議の結 果を発表し、その結果についての感想を資料⑨ (ワークシートⅡの2)の欄に記入する。</p>	
<p>ふり返り 資料⑨(ワークシートⅡの3)の欄に記入する。</p>	<p>この時、全員に一言ずつ、感想を発表すること が望ましいが、時間の関係でできない場合は、グ ループに分かれ、グループ内で共有するか、数名 に発表してもらってもよい。</p>

〔選挙演説シート〕

(A)私は、山の手 さくら台に住んでいる中小企業の経営者の〇〇〇〇です。私はこのニッコリ駅周辺再開発計画には全面的に賛成です。

まちにはゴミがあふれ、一見スラムのように見えるではないですか。このような環境では子どもの教育にも決していいとは言えません。先日起きた日系ブラジル人襲撃事件は記憶に新しいでしょう。あのような事件が起きる原因はこのまちにあるのではないのでしょうか。住民が誇りを持って生涯ここに住みたいと言えるようなまちづくりをすべきではないのでしょうか。このニッコリ駅周辺再開発計画が実施されれば、ニッコリ市は美しく生まれ変わり治安も良くなり、環境はどんどん良い方向へ進んで行くにちがひありません。笑顔の絶えない住みよいまちになることでしょう。

今、少々問題があろうとも、それを克服するための住民の努力がニッコリ市をよりよく変えていくのです。今のような昔の下町を思わせるような古い市の体質は一日も早く改善していかなくてはならないと思います。

これからの多文化共生社会を生きていく子ども達を育てるには今の環境は最悪です。

世界の流通・情報をうけいれ、すぐに対応できる市こそがこれからのまちといえるでしょう。これこそが子どもを育てるにふさわしいまちづくりとなるのです。今こそニッコリ市も生まれ変わる時なのです。

(B)私はこの市に住んでいる地主の〇〇〇〇です。ニッコリ駅周辺再開発計画には反対です。先祖代々受け継いできた大切な土地を、このような形で売ってしまうわけにはまいりません。今あるこの市の雰囲気そのものが、この土地に住む人々の風土が作りだしたニッコリ市の文化のそのものです。それを無きものにしてしまって、住民に市に対する愛着など湧くはずもありません。伝統とは守るためにあるものです。伝統をしっかりと守り、その上での発展を考えなければ、心のこもったまちづくりはできないのではないのでしょうか。外見の便利さに惑わされてはいけません。皆さんが愛することのできるまちづくりをしようではありませんか。

(C)私は今まで駅前で、商店を経営してきた〇〇〇〇です。この計画で私の所は立ち退かなくてはならなくなりました。もちろん今まで一生懸命育て上げてきた店をたたんで、別の場所に移るのは、身を裂かれるような気さえますが、それは私の個人的な感情であって、市全体のことを考えると、このニッコリ駅周辺再開発計画に賛成せざるを得ないと私は考えております。

この市における高齢化は深刻なものであり、若者は次々と便利なまちへ出て行っているのが現状です。今のままこの市の商店・企業を経営していても、後を継ぐ者もなく廃れていくのは眼に見えているではありませんか。私は、今こそ決断すべき時だと確信し、このニッコリ駅周辺再開発計画を実行にうつすために市議会議員に立候補しました

(D)私はニッコリ住宅の住人の代表としてこの選挙にでました〇〇〇〇です。皆さんは、差別というものがどういう状況から生み出されるかをご存知ですか。

経済的な格差・環境の格差など、大きな差異が生じると、そこから新たな差別が生み出されるのです。昔はニッコリ市は、人情味があり、思いやりの心に溢れ、人々の心と心の触れ合いを肌で感じることのできるまちでありました。しかし、たくさんの日系ブラジル人が住むようになったためにあのような事件が起きてしまったのです。

その上この再開発計画が実施されると私達の生活はどうなると思いますか。他の地域からもっと多くの人を受け入れなくてはならなくなるのですよ。まちに何の愛着も持たないたくさんの人たちが流れ込んで来るのです。それに住民の間の経済的な格差も広がることでしょう。ニュータウンは格差を広げ、新たな差別を生みだし、ニッコリ市を殺伐とした無機質なまちに変えてしまうことでしょう。ニュータウンなど作る必要などないのです。今のニッコリ市を住みよい町にしていく方法をみんなで考えましょう。

(E)皆さんはニッコリニュータウンができると、先日あったような襲撃事件は起きないようにになると思いますか。きっとニュータウンができると日系ブラジル人の人たちの生活は今以上に厳しいものになるでしょう。誰が彼らの仕事を確保してやるというのですか。自分で仕事を見つけろというのですか。日本語も十分に話すこともできない彼らに。

この再開発が進むと、このまちには様々な格差が生みだされ人を見下すことが当たり前の、人の心を持たないまちに成り果ててしまうことでしょう。そんなまちで、未来を担う子どもたちを育てたいと思われませんか。

経済優先の競争社会を基本とするこの日本で、かろうじて、住民が共に暮らせるまちを守ってきたのが、このニッコリ市です。

「人権擁護のまち ニッコリ市」をまちづくりの基本精神に据え、このまちのよさを永遠に守り続けようではありませんか。

(F) 私は公設市場で店を出している〇〇〇〇です。私は商店街を中心にした新しいまちづくりを提案します。私が言う商店街とは新しい商店街を造るというのではなく、これまであった商店街を見直し、地域に密着した商店街にしようということなのです。

これまで私達は若者をいかに商店街に呼び込むかということに躍起になってきました。しかし、このニッコリ市での高齢化率は20%を越えています。この現実をふまえた上で、新しい商店街のあり方を提案します。私達の公設市場と周辺の商店が協力して、高齢者の方を対象とした「お得意様カード」を発行します。入会金や会費は一切不要のこのカードを使うと各加盟店舗で割引価格での販売やくじ引きなどいろいろなサービスをうけることができます。

また、このカードのICチップにはそのカードの持ち主の健康医療情報も入れておき、ニッコリ市内のどの病院でもその情報を参考に受診できるようにします。

これは一つの提案です。ニュータウンを建設するより、今のまちをどうすればもっと暮らしやすいまちにできるかを考えなければならないのではないのでしょうか。

みんなでアイデアを出し合って高齢者にやさしいまちづくりを考えようではありませんか。

(G)私はこのまちで機械製造の工場を経営してきました。みなさんご存じの通りこのまちは機械金属・メリヤス・印刷・日用雑貨などの生活用品を生産する中小企業がたくさんあります。ニッコリ市は中小企業によって支えられてきたと言っても過言ではありません。

その中小企業を排除するのではなく、中小企業と行政と市民とで新しいまちづくりしようではありませんか。

我々はこれまで目先の利益ばかりを追い求めてきました。でもそれではニッコリ市の環境改善はできません。それぞれの企業がそれぞれの利益を追うのではなく、それぞれの企業の技術を持ち寄り、市民のためになるものを作るのです。例えば生ゴミ処理機や雨水貯蔵タンク・車椅子や自助具など福祉機器等です。それもその費用の一部を行政が負担することで廉価なものができるのです。そしてここで製造された生ゴミ処理機などを設置した家にも市から補助金だしまししょう。

生ゴミ処理機や雨水タンクや福祉機器を販売したり設置するのも私たち住民の手です。

みんなのためになるものをみんなで作ることで、安くて便利で人にも環境にもやさしいものができるのです。

みんなが元気になれるニッコリ市にしようではありませんか。

ニッコリ駅周辺再開発計画ワークシートⅡ

()年 ()組 氏名()

1) 誰に投票しようと思いましたが。

その理由は何ですか。

2) この議会の結論について、あなたはどのように思いましたか。

3) 感想を書いてください。

アクティビティ6「ふり返り」

●概要

この学習プログラムを通しての、自らの学びと、自分の考え方の変化についてふり返る。

●ねらい

生徒自身が学びを自己評価し、自身の考え方の変容をふり返ることで、メタ認知能力を高めることができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

ニッコリ駅周辺再開発計画 ワークシートⅠ（全員分）

ニッコリ駅周辺再開発計画 ワークシートⅡ（全員分）

資料⑩「ふり返りワークシート」（P132）（全員分）

●所要時間

30～40分程度

●すすめ方

1. ニッコリ駅周辺再開発計画 ワークシートⅠ・Ⅱを各自に返却する。
2. 4～5人のグループに分かれ、自分の書いたニッコリ駅周辺再開発計画 ワークシートⅠ・Ⅱを見て、これまでの自分の気づきや学びをふり返り、グループ内で共有する。
3. 資料⑩「ふり返りワークシート」を全員に配付し、その問いに従って各自で記入する。
この時、「ふり返りシート」に記載した内容はグループ内で共有することを予め生徒には伝えておく。
2. 「ふり返りワークシート」に書いた内容をグループで共有する。

ニッコリ駅周辺開発計画 ふり返しシート

()年 ()組 氏名()

1) この授業を通しての自らの学びを、A (+)～D (-) の6段階で評価してください。

そう考えた理由を書いてください。

2) この授業を通して、自分の考えにどんな変化がありましたか。感想も含めて書いてください。

学習過程

シミュレーション教材『ニッコリ駅周辺再開発計画』の学習過程は次のようになる。

	内容構成	ねらい	培われる力	学習活動(手法)	
小单元1 『あなたの望む 都市開発』	現状を知る	状況の把握	知る力・感じる力・ 理解する力	情報の読解	問題の発見
	都市開発のあり方 を考える	意志決定	思考力・判断力・ 決定する力	ダイヤモンド ランキング ワークシート	
小单元2 『それぞれの立 場で考えよう』	多様な地域住民に 対し開発が及ぼす 影響を考える	多様性から生 じる価値観の 認識	気づく力・共感す る力・表現力	ロールプレイ	解決の方法を探る
	地域住民の異質性 と多様性を許容し ながらまとまりを 保つ都市開発のあ り方考える	合意形成 意志決定	思考力・判断力・ 決定する力 メタ認知能力	ロールプレイに よる ランキング ディスカッション ワークシート	
小单元3 『トラブル発生』	この街で起こった トラブルを地域全 体の問題としてと らえ、その解決の 方法を探りながら 「共生」が可能なコ ミュニティのあり 方について考える	問題解決能力 の育成	思考力・判断力・ メタ認知能力	モラルジレンマ学 習 問題解決のための プランニング	解決の方法を探る
小单元4 『コミュニティ は誰のもの?』	共生社会を実現す るためのコミュニ ティーづくりを考 える	社会的ジレン マの解決	思考力・共感する 力・ポジティブに 考える力・実践す る力	資料分析 ディスカッション ワークシート	
小单元5 『ニッコリ市議 会』	議会に対する自ら の関わりについて 考える ①選挙にどのよう に関わるか ②議会をどう見る か。 どう関わるか ③議会の議決案は 住民にどのような 影響を与えるか。	意志決定	参加する力・共感 する力・批判的に 見る力・決定する 力	ロールプレイ ディスカッション ワークシート	新たな問題の発見
小单元6 『振り返り』	振り返り 自らへの気づき	自己の変化の 認識 気づきの確認	自己の確立 メタ認知(問題解 決のプロセスの全 体を見通す力13)	ワークシート	次なる発想へ

生徒は「問題の発見」→「解決の方法を探る」→「新たな問題の発見」→「新たな発想へ」という学習過程をたどりながら、自らの生き方を考え、自らの可能性に気づいていく。そしてそこで培われた力は相互に関連しあいながら、より高い次元の自分（新たな自分）に向かって螺旋状に生徒の成長をうながしていく。そして最後の振り返りの中で生徒は自らの気づきを再発見し、その心の変化（成長）を再確認する。また、他者と気づきを分かち合うことにより、より深い気づきを得る者もいるだろう。

生徒はこの学習過程を通して「学び」とは知識を一方向的に伝達されるものではなく、他者との関係により自らの中にはぐまれていくものであることを実感することになる。そしてそのことが、本当の意味での民主主義を理解し具現化するための大きな力を育てることになるのである。つまり「学び」とは、他者との関わりを通して自己実現を図る力を自己の中に確立するその過程をいうのであり、シミュレーション教材はそれを体験するための有効な方法の一つであるといえる。

おわりに

「シミュレーション教材を実施するのは難しい」という教師の声をよく聞く。その理由として次のようなことがあげられる。

シミュレーション学習が効果を発揮するには、その前提として対象となる事象の正確な分析と把握が必要となる。対象となる事象の模擬的な演示が正確に行われていないと、その事象に関する生徒の追求・施行も意味の薄いものになってしまう。そのため、まずこの対象事象の分析と把握の段階において、教師の指導やチェックが適切に行われる必要があると考えられる。そしてその結果としてシミュレーション学習を実施するのは大変な労力と時間を費やさなければならないものと考えられ、効果的な学習法であるにもかかわらず、実践するのをためらう教師が多い。

しかし、私はこれまでの経験から、シミュレーション学習を行うためには、必ずしも周到な準備が必要であるとは考えない。もちろん、その事象について理解するためには、ある程度の知識は必要であり、生徒が十分な知識を持ちあわせていないのであれば事前学習は必要になる。しかしそのことにはそれほど時間と労力を費やす必要はないのではないかと。

私はこれまで、単元の導入としてシミュレーション学習を実施したことがたびたびある。そんなとき、その事象に対してほとんど基礎的な知識を持たない生徒が、自らの経験に基づき、想像力を発揮して、その状況を心情的に理解し、また自分たちがそれまで知らなかった様々な問題に気づいていた。そうしてそれらの問題に対して興味関心をもった生徒は、より理解を深めるための知識を積極的に得ようとし、またある生徒はそこで得た知識をもとに、問題解決の方法をも探ろうとしていたのである。

では、なぜ対象となる事象の正確な分析や把握が不十分な生徒でも、そのような気づきを持てたのだろうか。シミュレーション学習を実施する際に大切なことは、事前にその事象について正確に分析し把握するように指導することではない。そのシミュレーション学習が授業過程の中で整合性のある取り組みとして実施されているかどうかが大切なのである。そしてその上で、そのシミュレーション教材が扱う内容が、何らかの形で生徒の経験や日常と重なり合う部分がなければ効果的なものにはならない。

つまりシミュレーション教材が効果を発揮するには、生徒の身近な問題に題材を求めるか、一見生徒から遠く離れた問題（グローバル イシュー）を扱う場合でも、その中に共感できる内容を取り組みの中に織り込んでいくことが大切である。そしてその取り組みの中で生み出される「新たな発想」は次の「学び」へとつなげられていく。そのような「気づき・学び」と「新たな発想」の連続の中においてシミュレーション学習はより大きな効果を発揮するのである。

現在様々な場で、様々なシミュレーション教材が作り出されてきた。しかし、それをそのままの形で、脈絡もなく、目先の楽しさや目新しさを求めて安易に実践しても効果的な結果は得られない。目の前の生徒の日常に沿った形に作り直し、そこから得られた学びを次なる取り組みにつなげていく作業を繰り返す教師の工夫が何よりも大切なのである。

参考文献

- 1) 田村 明著(2000)『まちづくりの発想』岩波新書、28～32ページ
- 2) 開発教育協会 編集・発行(2012)『開発教育実践ハンドブック 参加型で世界を感じる 改訂版』
- 3) 宮本憲一著(1989)『環境経済学』岩波書店、
- 4) 加藤幸次・安藤輝次著(1999)『総合学習のためのポートフォリオ評価』黎明書房
- 5) 茂木喬著(1995)『新学力観に立つ中学校社会科公民の授業改善』明治図書

最後に

「学びのプログラム集」は、2020年9月5日から11月22日までの間に、JICA中国が「開発教育教員研修アドバンスコース」として、P5のスケジュールでフィールドワークを実施し、その参加者がそのフィールドワークを通して気づいたこと、学んだことをもとに作成した学びのプログラムをまとめたものです。

本誌に記載されている学びのプログラムの主たるテーマは「多文化共生」です。そして、各章に掲載された学びのプログラムはそれぞれ単独で活用することが可能なように配慮して編集にとりくみました。また、各章に掲載されている学びのプログラムを、そのままの形で授業実践に取り入れることもできると同時に、必要な部分だけを取り出し、今実践されている授業の中で組み込むことも可能なものであると確信しています。授業実践の場において、目の前の生徒の状況や背景等を考慮して、実践される先生方がそれぞれ工夫をこらして、授業づくりに活用していただければ幸いです。

また、各学びのプログラムの最後には、それぞれのふり返しをするアクティビティやワークシートが示されています。そのふり返しで授業を完結することもできます。しかし、本誌に掲載された学びのプログラムのある部分を組み合わせる授業構成を考えた場合などに使用することを想定した最後のふり返しとして、以下のふり返しのプログラムを提案します。これは、どの学びのプログラムのふり返しとしても扱うことができるものとして作成しています。

●学びのふり返しプログラム

ねらい：自分の学びについてふり返る

対象：教師、生徒

用意するもの：ふせん（できれば2色）

すすめ方：

- (1) 4人程度のグループになる。
- (2) この学習で学んだこと（教材で扱われている事柄）について、これまでに知っていたことはどんなことか。ふせん1枚につき、1つずつ書く。
- (3) グループ内で、ふせんに書いた内容について紹介し、1枚ずつ以下の問いについて共有する。この時、一人の人がふせん1枚について①～④までの問いの回答を続けて行う。ふせん1枚の回答が終わったら、次のふせんの内容についてまた①～④まで回答する。
 - ①いつ、どのようにして、そのことを知ったか。
 - ②それを知ったときに、感じたこと。
 - ③どんな時にその知識を活用したか。
 - ④そのことを知って、どんな行動をしたか。その理由は何か。
- (4) この学習（教材で扱われている事柄）で、新しく知ったこと・わかったことはどんなことか。異なる色のふせん1枚につき、1つずつ書く。
- (5) グループ内で、ふせんに書いた内容について紹介し、1枚毎に下記の①②の問いについて共有する。この時、一人の人がふせん1枚について①②の問いの回答を続けて行う。ふせん1枚の回答が終わったら、次のふせんの内容についてまた①②の回答をする。
 - ①新しく知ったこと、わかったことはどんなことか。
 - ②なぜ、そのことについてこれまで知らなかったのか。また、なぜ、知ろうとしなかったのか。
- (6) グループ内で感想を共有する。

本誌は、学校現場で日々、生徒と向き合いながら「持続可能なより良い社会づくり」に参加することができる人を育てようと奮闘している教師が、自らの気づきや学びをもとに、試行錯誤を繰り返しながら作成した学習プログラム集です。

是非、教室や社会教育の場で活用していただき、ご意見を賜うことができれば、今後のJICA中国主催の研修会や教師海外研修をよりよいものにすることが可能となります。生徒を育て、教師を育て、地域を育てるネットワークが、今、必要な時代になっていると考えます。これを機会に、このような授業づくり、学習プログラムづくりに参加していただけることを切に願っています。

今後とも、よろしくお願いいたします。

山中 信幸（やまなか のぶゆき）

川崎医療福祉大学教授。専門は学校教育学、教育方法学、教師教育、開発教育。

JICA・NGO・教育委員会等と連携して国際理解教育・開発教育の単元開発、教材開発に取り組み、教員や一般、学生を対象としたワークショップを数多く実施している。

著書：共著『国際理解教育ハンドブック グローバルシティズンシップを育む』（2015）明石書店、共著『SDGsと開発教育 持続可能な開発目標のための学び』（2016）学文社、その他。「JICA中国開発教育教員研修アドバンスコース」では、フィールドワークへの同行、事前事後の講義や学びのプログラム作成についての助言・指導および本冊子の監修を行った。



フィールドワーク後のふり振り返り
（右奥が山中教授）



学びのプログラム作成のための講義

【発行】 JICA中国（広島県東広島市鏡山3-3-1）

【制作・編集】 JICA中国／山中 信幸（川崎医療福祉大学教授）

【学びのプログラム作成者（JICA中国開発教育教員研修アドバンスコース参加者）】

- ・ 祝迫 直子（広島県立福山工業高等学校／2007年度教師海外研修ガーナコース）
 - ・ 上田 智子（盈進中学高等学校／2016年度教師海外研修ラオスコース）
 - ・ 川上 典剛（下関市立江浦小学校／2018年度教師海外研修スリランカコース）
 - ・ 坪池 由美子（熊野町立熊野第一小学校／2019年度教師海外研修ラオスコース）
 - ・ 中下 杏美（尾道市立日比崎中学校／2018年度教師海外研修スリランカコース）
 - ・ 中山 舞（広島市立二葉中学校／2019年度教師海外研修ラオスコース）
 - ・ 山中 信幸（川崎医療福祉大学教授）
- （五十音順・所属校は参加時のもの）

* オンラインセミナーでご講義頂いた東京都市大学の佐藤真久教授、広島県安芸高田市国際交流協会代表理事・事務局長の明木一悦氏、東広島市職員の皆さま、島根県雲南市「一般社団法人ダイバーシティうなんtoiro」の芝由紀子氏、フィールドワークでご指導頂いた出雲市教育委員会様、堀西雅亮氏、河原由実氏、奥村玲子氏、アブドゥーラ・バセム氏をはじめ、本プログラム作成にご協力頂いたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

